

14.7

14.7-492



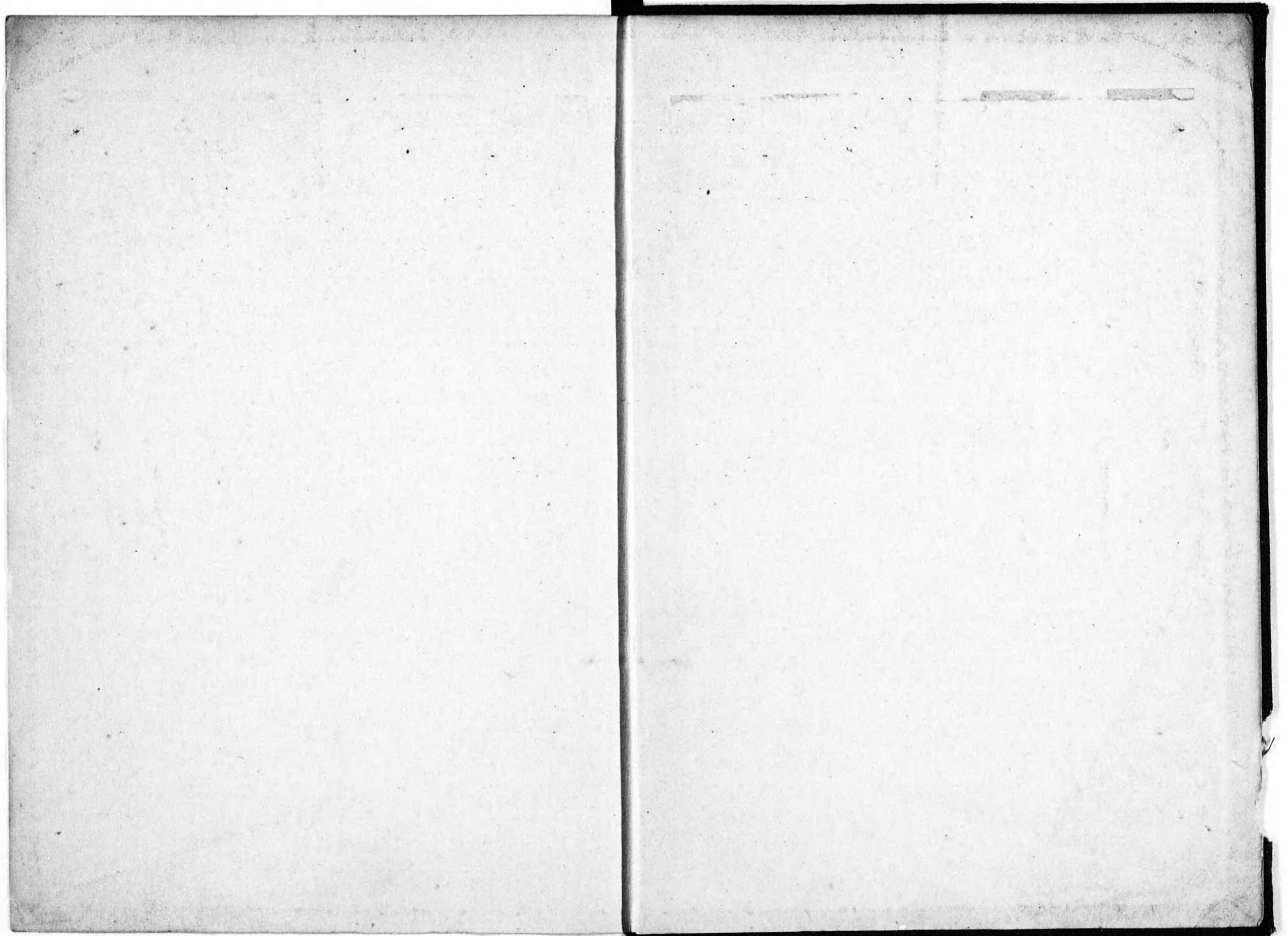
1200501226160

92



始







妙心寺派法令全集



14.7-492

臨濟宗妙心寺派法令全集目次

綱目

第一編 宗制

第一章 開宗ノ要旨

第二章 本派獨立ノ原由

第三章 傳燈相承

第四章 管長

第五章 宗務本所、宗務所及宗務支所

第六章 宗會及參事會

第七章 布教及教育

第二編 寺法

第八章 大本山

第九章 末派寺院

目次

一 一 二 二 三 五 五 七 七 七 八

第十章 寺班	二
第十一章 末派ノ權利義務	二
第二編 僧侶資格分限並住職及法類	三
第十二章 僧侶資格分限	三
第十三章 住職及法類	三
第四編 會計並寺有財產	四
第十四章 會計	四
第十五章 寺有財產	五
補則	五

法則及教令

法文 例 (法則第一號)	一七
請願規則 (教令第二號)	一八
宗務本所例 (法則第一百七十號)	一九

宗務本所處務規則 (教令第二十四號)	二三
役員服務規則 (教令第二十五號)	二四
宗務所例 (法則第七十一號)	二五
宗務所長選舉施行規則 (教令第五十號)	三
沖繩縣北海道朝鮮及臺灣宗務所規則 (教令第二十號)	四〇
宗務支所例 (法則第一百七十二號)	四二
顧問會例 (法則第一百七十三號)	四四
教學調查會例 (法則第一百六十六號)	四五
布教 例 (法則第一百六十五號)	四七
布教規則 (教令第四號)	五一
普通布教講習會例 (法則第一百六十七號)	五一
高等布教講習會例 (法則第一百六十八號)	五五
教育 例 (法則第一百五號)	五七

教育基金規則 (教令第十八號)	五
徒弟教養例 (法則第十三號)	五
專門道場規則 (教令第十一號)	六
臨濟宗大學々則 (教令第四十一號)	六
花園中學校學則 (教令第四十七號)	七
私設學林規則 (教令第十四號)	六
寄託學生規則 (教令第二十一號)	六
校費生留學生給費生規則 (教令第二十二號)	六
宗務所長會議例 (法則第六十二號)	六
參事會例 (法則第七十四號)	九
宗會例 (法則第八號)	九
宗會議員選舉例 (法則第七十五號)	一〇
宗會議員選舉例施行規則 (教令第五十一號)	一五
管長選舉例 (法則第七十六號)	二六

管長選舉例施行規則 (教令第五十二號)	一三
宗務總長選舉例 (法則第七十七號)	一三
宗務總長選舉例施行規則 (教令第五十三號)	一七
褒賞例 (法則第三號)	一四
懲誠例 (法則第四號)	一四
懲誠處分例 (法則第五號)	一四
寺班例 (法則第十二號)	一五
寺班調查會例 (法則第一百五十九號)	一五
寺院收入調查規則 (教令第二十三號)	一五
直未編入規則 (教令第五號)	一六
由緒寺院管理例 (法則第六十號)	一六
大本山紀綱寮例 (法則第六十三號)	一六
花園教會例 (法則第十一號)	一六

花園教會本部規則 (教令第三號)	一七一
住職任免例 (法則第十八號)	一七五
兼務住職及寺務管理者規則 (教令第十六號)	一八〇
教師檢定例 (法則第四十一號)	一八一
僧侶資格分限例 (法則第六十一號)	一八八
僧侶資格分限規則 (教令第十五號)	一九三
尼 僧 例 (法則第六十三號)	一九五
籍 次 例 (法則第七十八號)	一九六
法 服 例 (法則第六十九號)	一九七
法服規則 (教令第二十八號)	二〇〇
法類資格例 (法則第六十二號)	二〇一
法類資格規則 (教令第十號)	二〇三
檀徒信徒例 (法則第六十四號)	二〇五
檀徒信徒取扱規則 (教令第九號)	二〇六

寺院及檀信徒慰問規則 (教令第八號)	二〇七
寺有財產管理例 (法則第五十八號)	二〇九
寺有財產管理規則 (教令第七號)	二一〇
副申書下附規則 (教令第十七號)	二一三
托鉢免許規則 (教令第六號)	二一四
會 計 例 (法則第五十六號)	二一七
宗務本所財務取扱規則 (教令第二十六號)	二二〇
衣資支給規則 (教令第二十九號)	二二三
宗費賦課徵收例 (法則第五十七號)	二三五
宗費滯納者取扱規則 (教令第二十七號)	二三六
宗費賦課標準率規則 (教令第三十一號)	二三七
別途賦課徵集規則 (教令第四十九號)	二三八
通常書式纂集 (教令第三十號)	二三〇

妙心寺派管長神月徹宗薰香肅拜欽ミテ

微笑塔下ニ陳白シ奉ル

夫レ惟ルニ輓近

皇國ノ文教日ニ進ミ制度月ニ備ハリ彬々タル厥ノ精華ハ炳トシ
テ範ヲ世界ニ示スニ至レリ然リ而シテ法道宣布國民教化ノ任
ニ在ル一派緇徒ノ遵由スベキ綱目法令ハ正ニ日新ノ國法ト駢
行シテ聊カモ機宜ヲ失スルナカラシコトヲ要ス然ルニ我が現
行法規ハ駸々タル時勢ニ對シテ胥順應シ難キモノ尠カラザル
ヲ以テ本派ハ曩ニ宗制審議會ノ討究ニ基キ議會ノ協賛ヲ經
佛祖ノ洪謨ニ則リ國法ノ保障ニ由リテ改正シタル綱目法則ヲ爰
ニ發布シ闔派緇素ヲシテ之ニ據ラシメントス伏シテ冀クハ

大師罔極ノ慈蔭ニ依リテ厥ノ運用ヲ錯ラズ
王佛一如ノ妙諦ヲ顯ハシ興禪護國ノ本務ヲ竭サシメンコトヲ

不肖徹宗誠恐誠惶謹ミテ

定中ノ昭鑒ヲ仰キ奉ル

茲ニ議會ノ賛同ヲ經文部大臣ノ認可ヲ得タル本派綱目及法文例、宗務本所例、宗務所例、顧問會例、教學調查會例、布教例、普通布教講習會例、高等布教講習會例、教育例、徒弟教養例、宗務所長會議例、參事會例、宗會例、宗會議員選舉例、管長選舉例、褒賞例、懲誡例、懲誡處分例、寺班例、寺班調查會例、由緒寺院管理例、大本山紀綱寮例、花園教會例、住職任免例、教師檢定例、僧侶資格分限例、尼僧例、法服例、法類資格例、檀徒信徒例、寺有財產管理例、會計例、宗費賦課徵收例ノ改正竝ニ宗務支所例、宗務總長選舉例、籍次例ノ制定法則ヲ發布ス

昭和五年二月二十一日

妙心寺派管長

神 月 徹 宗

執事部長兼庶務部長

後 藤 亮 一

監正部長

朝 日 義 諦

教學部長

武 井 明 堂

財務部長

魚 住 松 巖

茲ニ請願規則、宗務本所處務規則、役員服務規則、沖繩北海道朝鮮臺灣宗務所規則、布教規則、教育基金規則、專門道場規則、臨濟宗大學學則、花園中學校學則、私設學林規則、寄託學生規則、校費生留學生給費生規則、寺院收入調査規則、直末編入規則、花園教會本部規則、兼務住職及寺務管理者規則、僧侶資格分限規則、法服規則、法類資格規則、檀徒信徒取扱規則、寺院及檀信徒慰問規則、寺有財産管理規則、副申下附規則、托鉢免許規則、宗務本所財務取扱規則、衣資支給規則、宗費滯納者取扱規則、宗費賦課標準率規則、別途賦課徵收規則、通常書式纂集ノ改正竝ニ宗務所長選舉施行規則、宗會議員選舉例施行規則、管長選舉例施行規則、宗務總長選舉例施行規則ノ制定教令ヲ發布ス

昭和五年二月二十一日

妙心寺派管長

神 月 徹 宗

庶務部長兼	後 藤 亮 一
監正部長	朝 日 義 諦
教學部長	武 井 明 堂
財務部長	魚 住 松 巖

宣 示

本派綱目及法則ハ制定以來屢次ノ改訂ヲ經タリト雖モ之ヲ日新ノ時勢ニ施シ支吾扞格ヲ生ズルモノ尠カラザルヲ以テ曩ニ宗制審議會ヲ設ケテ慎重審査ヲ遂ゲシメ尋デ定期議會ノ協賛ヲ經主務大臣ノ允許ヲ得テ爰ニ之ヲ發布ス本派緇徒タル者ハ宜シク改正條章ヲ恪守シテ其ノ妙用ヲ誤ラズ 佛祖ノ洪範ニ法リテ益宗謨ヲ恢弘シ國運扶翼ノ實ヲ舉ゲ以テ 歷代祖師ノ遺囑ニ辜負スルナカラシムコトヲ期スベシ

昭和五年二月二十一日

妙心寺派管長

神 月 徹 宗

庶務部長兼	後 藤 亮 一
監正部長	朝 日 義 諦
教學部長	武 井 明 堂
財務部長	魚 住 松 巖

臨濟宗妙心寺派法令全集

綱目

第一編 宗制

第一章 開宗ノ要旨



第一條 釋尊正法眼藏涅槃妙心實相無相ノ法門ヲ大迦葉ニ付屬セラレシヨリ的々相承シテ臨濟ニ至リ別ニ家聲ヲ振テ故ニ臨濟宗ト稱ス之ヲ開宗ノ起源トス

第二條 如來ノ正法眼藏ヲ拈提シ單傳直指ノ旨ヲ發揮スルヲ以テ本派ノ宗旨トス

第三條 機關言詮ノ公案ニ依リ向上ノ大事ヲ究決スルヲ以テ本派ノ宗義トス

第四條 本派ハ心ヲ以テ宗トシ無門ヲ法門トス故ニ別ニ所依ノ經論アルコトナシ

第五條 本派寺院ハ本尊ヲ一定セズ唯法身ノ實體ヲ表證シ受用三昧ヲ顯示センカ爲ニ釋迦牟尼佛等ノ像ヲ安ズ本尊前ニ必ズ 今上天皇陛下聖壽萬安ノ尊牌ヲ奉安シ國家鎮護ノ道場タルコトヲ表ス

第六條 開山關山ハ釋尊ヨリ五十八代臨濟ヨリ二十代ノ法孫ナリ 花園天皇ノ敕請ニ依リ正法山妙心寺ヲ開創ス規模尙未ダ大ナラズ寺亦屢々兵燹ニ罹ル第四世日峰之ヲ中興シ第六世雪江ニ至リ景川悟溪特芳及東陽ノ四派ヲ出シ法孫瀾蔓シテ今ニ至ル之ヲ開派ノ由來トス

第二章 本派獨立ノ原由

第七條 臨濟宗妙心寺派ノ獨立公稱スルハ左記各號ノ理由アルニ依ル

- 一、開山無相大師ノ門葉滋々増殖シ他ト混スヘカラサル理由アルニ依ル
- 二、花園天皇一流再興ノ遺詔アルニ依ル
- 三、門弟交互大本山ヲ相續シ他流ヲ錯入セシメサルニ依ル
- 四、大本山第六世眞照禪師ノ遺誠スル所アルニ依ル

第三章 傳燈 相承

第八條 開山無相大師以下師資ノ間ニ於テ針芥相投シ面々授受シ其法脈ヲ相續ス是ヲ傳燈ノ通式トス

第九條 面授ニアラスシテ印狀ヲ遺留シ法脈ヲ傳付ス之ヲ傳燈ノ別式トス

第十條 本派ノ僧侶師家ノ印狀受領ノ後微笑塔前ニ於テ所得ノ古則ヲ拈提シ其契證ヲ表彰ス是ヲ法脈相承ノ公式トス

承ノ公式トス

第十一條 法脈ノ相承傳付ハ師家ノ印狀ヲ以テ證憑トス

第十二條 本派寺院ニアリテハ歷代遞傳ノ法脈ヲ變更スヘカラス

第十三條 一度法脈ヲ承嗣シタル者ハ復他人ノ法脈ヲ繼承スルコトヲ許サス

第十四條 新ニ法系ヲ設置セントスル寺院ハ其寺院開祖ノ法脈最親最近ナルモノヲ擇ミテ之ヲ定ムヘシ

前項ニ準シ難キ事情アル場合ニハ管長ニ稟啓シテ指定ヲ請フヘシ

第十五條 寺院遞傳ノ法系ヲ變更セントスル場合ニ於テハ管長ノ許可ヲ受クヘシ

第四章 管長

第十六條 管長ハ管長選舉例ニ依リ之ヲ公選シ文部大臣ノ認可ヲ得テ上任ス

第十七條 管長ハ在職中大本山妙心寺住職タルモノトス

第十八條 管長ハ烈祖ノ洪範ニ奉若シ宗旨ノ機樞ヲ把住シ本綱目ノ闡明スル所ニ依リ本派統理ノ全權ヲ

總攬ス

第十九條 管長ハ宗會ヲ召集シ其開會閉會停會及解散ヲ命ス

第二十條 管長ハ宗會ニ於ケル決議ニシテ本派ノ爲ニ不利益ナリト認ムルトキハ理由ヲ具シテ再議ヲ命ス

- 第二十一條 管長ハ宗會ノ協賛シタル法則ヲ裁可シ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス
- 第二十二條 管長ハ寺院住職ヲ任免シ及本派宗務ニ從事スル役員ヲ任免ス
- 第二十三條 管長ハ僧侶ニ對シ法階ノ叙任ヲ行フ
- 第二十四條 管長ハ僧侶ノ請願ニ依リ托鉢免許證票ヲ付與ス
- 第二十五條 管長ハ僧侶及檀徒信徒ニ對シ賞典ヲ行フ
- 第二十六條 管長ハ僧侶ニ對シ懲誡ヲ施行シ又懲誡處分ヲ受ケタル者ノ特免減誡及復階ヲ命ス
- 第二十七條 管長ハ諮詢スヘキ必要ノ事件アルトキハ顧問會ヲ召集ス
- 第二十八條 管長ハ 花園天皇ノ御遺勅ニ基キ本派ニ花園教會ヲ設立シ檀徒信徒ヲ結社セシム
- 第二十九條 管長ハ布教興學ニ關スル事項ヲ統率シ必要ノ事件ハ教學調査會ニ諮詢シテ之ヲ施行ス
- 第三十條 管長ハ檀徒信徒ヲ教化シ檀徒信徒例ノ定ムル所ニ依リ諸般ノ行爲ヲ保障ス
- 第三十一條 管長ハ綱目及法則ヲ施行スル爲又ハ教法ヲ擴張シ派内ノ秩序ヲ保持スル等ノ爲必要ナル宣示教令ヲ發ス但教令ヲ以テ法則ヲ變更スルヲ得ス
- 第三十二條 宗會閉會中一派ノ安寧ヲ保持シ及其災厄ヲ避クル爲必要アルトキハ法則ニ代ハルベキ緊急教令ヲ發ス此教令ハ次期宗會ノ協賛ヲ要ス
- 前項ノ協賛ヲ得サルトキハ第一百十一條ノ規定ニ依リ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ普告スヘシ

第三十三條 管長闕職シタルトキハ宗務總長之ヲ顧問會ニ諮リテ管長事務取扱ヲ推薦シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

管長事務取扱ハ後任確定ニ至ル迄管長ノ職務ヲ行フ

第三十四條 管長事務取扱ハ一個月以内ニ管長選舉ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十五條 管長選舉、法階、賞罰、顧問會、花園教會、教學調査會及檀信徒ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 宗務本所、宗務所及宗務支所

第三十六條 宗務本所ハ管長統理ノ下ニ本派一切ノ宗務ヲ總攬スル所トス

第三十七條 宗務總長及部長ハ管長ヲ輔佐シ其責ニ任ス

第三十八條 宗務本所ハ必要アル場合ニ於テ宗務所長會議ヲ召集ス

第三十九條 寺院所在ノ府縣郡ヲ分劃シテ教區ヲ置キ教區ヲ分劃シテ部ヲ置ク

教區ニ宗務所ヲ設ケ部ニ宗務支所ヲ設ク

第四十條 宗務本所、宗務所、宗務支所、宗務總長選舉及宗務所長會議ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 宗會及參事會

第四十一條 宗會ハ宗會議員選舉例ニ依リ選舉シタル宗會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十二條 宗會ハ毎年之ヲ召集ス宗會解散ヲ命セラレタルトキハ宣示ヲ以テ新ニ宗會議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ六個月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十三條 宗會ハ五日ヲ以テ會期トス必要アル場合ニハ宣示ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條 臨時必要アル場合ニハ臨時會ヲ召集スヘシ臨時會ノ會期ヲ定ムルハ宣示ニ依ル

第四十五條 法則ハ宗會ノ贊同ヲ要ス

第四十六條 宗會ハ宗務本所ノ提出スル歲計豫算、決算及法則案ヲ議決シ又法則案ヲ提出スルコトヲ得

第四十七條 宗會ハ法則又ハ本派重要事件ニ付其意見ヲ管長ニ上書シ及建議スルコトヲ得

第四十八條 宗會ハ寺院並ニ檀徒信徒ノ請願及建議ヲ受クルコトヲ得

第四十九條 宗會ハ總議員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十條 宗會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長是ヲ決ス

第五十一條 宗會ハ公開ス但宗務本所ノ要求又ハ宗會ノ決議ニ依リ秘密會トナスコトヲ得

第五十二條 宗務總長、部長及委員ハ何時タリトモ宗會ニ出頭シ及發言スルコトヲ得

第五十三條 宗會ハ各部長ノ擔任事務ニ付説明ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 參事會ハ宗會ニ於テ宗會議員中ヨリ選出シタル參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十五條 宗會ノ閉會毎ニ宗會議員ノ互選ヲ以テ參事會員及補員ヲ選舉スベシ

第五十六條 宗會、參事會及宗會議員選舉ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 布教及教育

第五十七條 宗旨ニ依リテ臨機ノ法門ヲ開示シ衆庶ヲシテ安心立命ヲ得セシメ殊ニ愛國盡忠ノ志操ヲ堅實ナラシムルヲ以テ布教ノ目的トス

第五十八條 布教ハ管長親化、巡回布教、特種布教及海外布教ノ四種トス

第五十九條 第一條乃至第三條ノ主旨ヲ體認シ上求菩提下化衆生ノ本分ヲ完ウセシムルヲ以テ教育ノ目的トス

第六十條 教育ハ初等、中等、高等、宗旨專攻ノ四種トス

第六十一條 布教ノ統一ヲ計リ且布教師ヲ養成スル爲普通布教講習會及高等布教講習會ヲ設ク

第六十二條 布教及教育ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第二編 寺 法

第八章 大本山

第六十三條 京都花園正法山妙心寺ハ本派唯一ノ大本山トス

第六十四條 大本山妙心寺ハ一派根本ノ道場ニシテ末寺ハ之ニ統轄セラル

第六十五條 大本山妙心寺ヲ推尊崇重スルハ左ノ由緒アルニ因ル

一、花園天皇奉始歷朝ノ詔勅アルニ因ル

二、前號歷朝ノ詔勅ニ基キタル開山無相大師弘法最初唯一ノ道場ナルニ因ル

第六十六條 玉鳳院ハ 花園天皇ノ御遺詔ニ依リ特別ノ例格ヲ留存シ之ヲ推重スヘシ

第六十七條 大本山妙心寺住職ハ開山無相大師ノ遺命ヲ奉承シテ法眷ヲ提誨シ及清規ニ基キ大本山法要

ノ執行ヲ統理スルヲ以テ本務トス

第六十八條 大本山妙心寺住職ハ大本山紀綱寮ヲ統理ス

大本山紀綱寮ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第六十九條 大本山妙心寺住職ハ大本山紀綱寮ノ役員ヲ任免ス

第九章 末派寺院

第七十條 末派寺院トハ大本山妙心寺ノ末寺牒ニ登録シタルモノヲ謂フ

第七十一條 末派寺院ヲ左ノ四類ニ分ツ

曾孫末寺院及玄孫末寺院ヲ有スルヲ中本寺ト稱シ孫末寺院ヲ有スルヲ小本寺ト稱ス

直末寺院 孫末寺院 曾孫末寺院 玄孫末寺院

第七十二條 前條四類ノ寺院ハ彼此權義ヲ異ニスルコトナシ

第七十三條 寺院ノ間ニ於テ從前用ヒ來リシ稱號其他彼此ノ關係ハ本綱目ニ牴觸セサル限總テ慣例ニ從

フ

第七十四條 中小本寺ハ本綱目ニ牴觸セサル限其末寺トノ間ニ於テ左ノ事項ニ付適當ノ規約ヲ定メ管長

ノ認可ヲ受ケ孫末以下ノ寺院ニ之ヲ施行スルコトヲ得

一、宗盟上相互ノ道義

二、慣例上將來ニ繼存スベキ必要ノ事件

第七十五條 孫末寺院以下ノ寺院大本山ノ直末寺院タラントスルトキハ明治十一年二月内務省乙第八號

達ニ依準シ別ニ教令ヲ以テ定メタル直末編入規則ニ依ルヘシ

第七十六條 左ノ寺院ハ其記載ノ順位ニ依リ本派寺院ノ首班ニ置キ之レカ取扱ニ關スル規定ハ法則ヲ以

テ之ヲ定ム

第一 美濃國正眼寺

第二 尾張國瑞泉寺

第三 山城國龍泉庵

第四 山城國東海庵

第五 山城國靈雲院

第六 山城國聖澤院

第七十七條 左ノ寺院ハ其記載ノ順位ニ依リ祖塔微笑庵ニ亞キテ之ヲ推尊ス

第一 山城國天授院

第二 山城國退藏院

第三 山城國養源院

第四 山城國如是院

第五 山城國衡梅院

第七十八條 寺院佛堂ヲ創立シ又ハ再興復舊シ或ハ之ヲ合併シ若クハ廢止センガ爲行政官廳へ出願スル

場合ニハ管長ノ添書ヲ申請スベシ

第七十九條 寺院ニハ住職ヲ置ク

必要ノ場合ニ於テ副住職ヲ置クコトヲ得

住職闕員シタルトキハ直ニ兼務住職又ハ寺務管理者ヲ置クヘシ

第八十條 本派寺院ハ改宗轉派スルコトヲ得ズ

第八十一條 末派寺院ニ於テ執行スル諸法要ハ總テ大本山妙心寺ノ清規ニ準據スベシ

第十章 寺 班

第八十二條 寺院ハ寺班調査會ノ決議又ハ寺院ノ請願ニ由リ其寺格ヲ決定シ寺班ヲ稟就シ又ハ昇進セシム

第八十三條 寺班ハ十一等ニ分チ其寺格ヲ三十三級ニ區分ス六等地以上ヲ法地トシ七等地以下ヲ平僧地トス

寺班及寺班調査會ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第十一章 末派ノ權利義務

第八十四條 本派寺院住職ニシテ前堂職以上ノ法階ヲ有スル男僧ハ法則ノ定ムル所ニ從ヒ本派公職員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

第八十五條 本派寺院住職ハ法則敎令ノ定ムル役員ニ任セラレ又ハ其他ノ公務ニ就クコトヲ得

第八十六條 管長ニ對シ一般寺院住職及兼務住職並ニ寺務管理者ハ相當ノ敬禮ヲ守リ請願又ハ建言ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 一般寺院ハ法則ノ定ムル所ニ從ヒ宗費ヲ上納スベキ義務ヲ有ス

第八十八條 一般寺院及僧侶ハ綱目及法令ヲ遵奉スベキ義務アルモノトス

第八十九條 寺院住職ハ佛種ヲ紹隆シ正法ヲ扶殖スルノ目的ヲ以テ徒弟ヲ教養スベシ
徒弟教養ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第三編 僧侶資格分限並住職及法類

第十二章 僧侶資格分限

第九十條 僧侶ノ衣鉢安名ヲ授クル者ヲ師僧ト稱シ其之ヲ受クル者ヲ徒弟ト稱ス

第九十一條 教師檢定例ノ檢定ヲ經テ法階ヲ稟承シタル者ヲ以テ僧侶ノ資格分限ヲ有スルモノトス
僧侶資格分限ヲ左表ノ如ク十三級ニ分テ之ヲ法階ト稱ス

僧侶資格分限表

種別	教			師			教師補					
階	法	特	等	住	住	住	堂	堂	座	主	客	彌
	特	歷	級	住	再	前	住	準	東	西	塔	前
	一	再	一	住	前	住	住	東	西	塔	前	首
	級	前	二	持	住	住	堂	東	西	塔	前	藏
	二	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	知
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	三	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	四	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	五	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	六	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	七	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	八	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	九	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	十	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	十一	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	十二	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	十三	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙
	級	住	級	住	住	住	堂	東	西	塔	前	沙

九級以上ヲ教師分限トシ十級以下ヲ教師補分限トス

尼僧ノ資格分限等ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第九十二條 僧侶ハ其資格分限ニ適對シテ定メラレタル法服ヲ着用スベシ

第九十三條 僧侶ニシテ轉宗若クハ轉派セント欲スル者ハ本人並ニ師僧及法類總代ノ連署ヲ以テ管長ニ

稟啓シ允裁ヲ受クベシ

他宗派ヨリ本派ニ歸入セントスルモノハ其所屬宗派管長ノ附與シタル除籍證明書ヲ得テ更ニ本派ニ於

テ師僧ヲ定メ知客職ヨリ歷進スベシ

第九十四條 僧侶ハ懲誡ノ處分ニ由ル外其資格分限ヲ失フコトナシ

第九十五條 教師檢定、僧侶資格分限及法服ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第十三章 住職及法類

第九十六條 寺院住職ハ當該寺院堂宇ノ營繕及佛具什器ノ修補ハ勿論寺院ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ
其責ニ任ス

第九十七條 寺院住職ハ別ニ法則ニ定ムルモノ、外懲誡處分ニ由ルニアラサレハ其意ニ反シ其職ヲ免セ
ラル、事ナシ

第九十八條 住職事故ナクシテ其職ヲ離レ六ヶ月以上ヲ經過シタルトキハ自ラ其職務ヲ放棄シタルモノ

ト見做ス

第九十九條 法類ハ寺院及住職ヲ援護スルノ責アルモノトス
住職任免及法類ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第四編 會計並寺有財産

第十四章 會計

第一百條 末派ニ對シ宗費ノ賦課法ヲ定ムルハ宗會ノ協賛ヲ經ベシ

第一百一條 宗務本所ノ歳入歳出ノ豫算ハ宗會ノ協賛ヲ經ベシ

豫算ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出ヲ要スルトキハ法則ノ定ムル所ニ從ヒ參事會ノ同意ヲ得テ之ヲ施行シ

次期ノ宗會ニ報告スベシ

第一百二條 宗會ニ於テ歳計豫算ヲ議決セス又ハ議決スルニ至ラサル場合ニハ宗務本所ハ前期施行ノ歳計

豫算ヲ繼續ス

第一百三條 宗務本所ノ歳計決算ハ宗會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クベシ

第一百四條 本派ノ財産ハ別ニ法則ヲ以テ定ムル會計例ニ依リ宗務本所ニ於テ之ヲ管理ス

第一百五條 豫算ニ定メタルモノヲ除キ一派若クハ大本山妙心寺ノ負擔ニ屬スベキ契約ヲ爲スハ宗會ノ協

贊ヲ要ス

第一百六條 宗務本所會計及宗費賦課徴收ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第十五章 寺有財産

第一百七條 大本山妙心寺所有ノ蓄積財産ハ特別會計トシ保存ノ方法ヲ設ケ宗會ノ協賛ヲ受クヘシ

第一百八條 派内一般寺院所藏ノ佛像、經卷、古文書、寶物、什器、田、畑、山林、保存資金、祠堂金其他

寺院ニ屬スル財産ヲ寺有財産ト稱ス

第一百九條 寺有財産ハ住職之ヲ管理ス

寺有財産管理ニ關スル規定ハ法則ヲ以テ之ヲ定ム

補則

第一百十條 將來ニ於テ本綱目ノ條項ヲ改正スベキ必要アル場合ニハ宣示ニ依リ議案ヲ宗會ニ提出シ宗會

議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ議決シ文部大臣ノ認可ヲ受クベキモノトス

第一百十一條 緊急教令ノ制定及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一百十二條 古規慣例及従前ノ命令規則ハ本綱目ニ牴觸セサル限總テ遵由ノ効力ヲ有ス

第一百十三條 朝鮮、臺灣、北海道、沖繩縣及海外所在寺院ニ對シテハ別ニ教令ヲ以テ本綱目施行ノ順序

緩急ヲ定ム

法則及教令

●法文例 (法則第一號)

第一條 綱目ニ基キ發布スル所ノ法令ヲ分テ五種トス

- 一、宣示
- 二、法則
- 三、教令
- 四、訓示
- 五、普告

第二條 宣示ハ管長ノ特ニ告諭スルモノヲ云フ

第三條 法則ハ一派重要ノ法規、教令ハ法則ヲ施行シ及其範圍ニ於テ之ヲ補充スル爲ニ發スルモノ、訓示ハ特ニ宗務總長ヨリ派内ニ對シ其心得ヲ示スモノ、普告ハ政府ノ法令ヲ派内ニ通牒シ

法文例

其他臨時派内ニ告知ヲ要スル時ニ發スルモノヲ云フ

第四條 宣示ハ管長親署ノ後當職印ヲ鈐シ宗務總長年月日ヲ記入シ各部長ト共ニ副署ス

法則ハ宗會ノ議決ヲ經テ管長ノ允裁署名ノ後宗務總長年月日ヲ記入シ各部長ト共ニ副署ス
教令ハ管長ノ允裁署名ノ後宗務總長年月日ヲ記入シ各部長ト共ニ副署ス

訓示ハ統務局會議ノ贊同ヲ經テ宗務總長ノ名ヲ以テ發布ス

普告ハ宗務本所ノ名義ヲ以テ發布ス

第五條 法令ニ於テ期間ヲ算スルハ左記ノ例ニ依ル
期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタル

トキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セズ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス
 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
 週、月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了トス但月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ満期日トス
 第六條 花園教會本部長ハ特ニ其部下及一般ノ教會員ニ對シ訓示ヲ發スルコトヲ得、但其形式ハ宗務總長ノ場合ト同ジ
 第七條 凡テ法令ハ正法輪ヲ以テ公布スルモノトス、但緊急ヲ要スル法令ハ印刷又ハ謄寫ニ附シテ之ヲ公布ス
 第八條 法令ノ特ニ實施期限ヲ定メザルモノハ發布ノ日ヨリ二十日ノ後効力ヲ生スルモノトス

●請願規則 (教令第二號)

第一條 本規則ハ綱目第四十八條及第八十六條ニ基キ一般寺院任職僧侶及檀信徒ノ享有スル行爲ヲ保障センカ爲メ之カ手續ヲ定ム
 第二條 派内一般ノ利益ヲ興立シ又ハ重要ナル事件ノ爲ニ護法扶宗ノ精神ヲ貫徹スル目的ヲ以テ臨機特別ノ處分ヲ請願スル場合ト雖モ總テ綱目法令以外ニ涉ルコトヲ得ス
 第三條 請願書ハ其事件ノ要點理由等ヲ詳記シ署名捺印スヘシ
 第四條 多人數共同シテ請願ヲ爲ス場合ニハ其中ヨリ三名以内ノ委員ヲ選ヒ委任狀ヲ交附シ委託代辦セシムヘシ委員ハ請願書ニ委任狀ヲ添ヘテ差出スヘシ
 第五條 請願書ハ總テ所管宗務所長ノ證明ヲ得テ宗務本所ヘ進達スヘシ委任代辦ノ場合ニハ委託代辦人居住地ノ宗務所長證明ヲ爲スヘシ
 請願ノ事件宗務所長又ハ宗務支所長ニ關スル時ハ該宗

務所長又ハ宗務支所長ハ事件ヲ證明シ又ハ請願人ノ身分ヲ證明センカ爲メ請求ニ應ジ證明書ヲ交附スヘシ
 第六條 管長ノ發シタル命令達書又ハ決裁ノ事件ニ對シテハ請願スルコトヲ得ス
 第七條 何等ノ事件ト雖モ本規則ニ定メタル請願ノ方式ニ適合セス又ハ本派役員若クハ宗會議員ニ對シテ侮辱ノ言辭アルモノ及此規則第十二條ニ背反スルモノハ之ヲ受理セス其請願書ノ單ニ方式ヲ缺クニ止ルモノハ其廉ヲ指示シテ之ヲ訂正セシムルコトアルヘシ
 第八條 請願ノ事件ハ文書ニ就テ審明スヘシ
 第九條 請願事件ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲ス請願ヲ却下スルトキ亦同シ
 第十條 請願ノ決定書ハ宗務所長ヲ經テ之ヲ請願人ヘ交附スヘシ請願ヲ却下スルトキ亦同シ但請願人自ラ宗務本所ニ出頭シタル場合ハ此限ニアラス
 第十一條 凡テ請願ニ對スル決定ハ終局ノモノトス
 第十二條 總テノ請願書ノ用紙ハ罫半紙トシ字劃明瞭ナルヲ要ス

宗務本所例

●宗務本所例 (法則第一百七十號)

第一章 總 則
 第一條 本例ハ綱目第四十條ニ依リ之ヲ制定ス
 第二條 宗務本所ハ派内一切ノ宗務ヲ統理スル所トス
 第三條 法令ハ總テ法文例ニ定メタル手續ヲ經テ施行ス
 第二章 組織及役員ノ責任
 第四條 宗務本所ニ監正部、教學部、庶務部、財務部ヲ置ク
 第五條 宗務本所ニ左ノ役員ヲ置ク
 宗務總長 一名
 部長 四名
 錄事 一名
 部員 若干名
 書記 一名

時宜ニ依リ雇員ヲ置クコトヲ得

第六條 録事、部員、書記ヲ所員ト稱ス

第七條 宗務總長以下ノ職責左ノ如シ

一、宗務總長ハ管長ヲ輔佐シ本派一切ノ宗務ヲ

統理シ派内ニ向テ其ノ責ニ任ズ

二、部長ハ各該部ノ長トシテ管長ヲ輔佐シ所屬

部員ヲ指揮監督シ各主管事務ヲ掌理シ其ノ責

ニ任ズ

三、部長ハ主管事務ニ付宗務所長及其ノ他派内

ノ役員ニ指示スルコトヲ得

四、宗務總長事故アルトキハ部長ノ内一名命ヲ

承ケテ其ノ事務ヲ臨時代理スルコトヲ得

五、部長事故アル時ハ他ノ部長ニ於テ其ノ事務

ヲ代理スルコトヲ得

六、録事ハ宗務總長ノ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ掌理

ス

七、部員ハ所屬部長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 宗務本所ニ統務局ヲ置ク

第九條 統務局ハ宗務總長及部長ヲ以テ組織ス

第十條 宗務總長ハ統務局會議ヲ主裁シ機務ヲ管

長ニ稟啓ス

第十一條 各部々長ハ其ノ主管事務ニ付重大ト認

メタル件ハ案ヲ具シ宗務總長ニ稟議シ統務局會

議ニ附スベシ

第十二條 左ノ各件ハ統務局會議ニ附スベシ

一、法令ノ發布ニ關スル事項

二、豫算決算ニ關スル事項

三、官衙並ニ他宗派ニ對シ重要ナル交渉事項

四、法階ノ叙任並ニ管長ノ名ヲ以テ任命シタル

役員ノ進退ニ關スル事項

五、賞罰ニ關スル事項

六、豫算外又ハ豫算超過ノ收支ニ關スル事項

七、其ノ他重要ノ事項

第十三條 監正部ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、法式及法服ニ關スル事項

二、法階叙任及僧籍ニ關スル事項

三、風紀賞罰ニ關スル事項

四、法規ニ關スル事項

五、選舉ニ關スル事項

六、寺院住職、副住職及兼務住職、寺務管理者

ニ關スル事項

七、官衙並ニ他宗派ノ交渉ニ關スル事項

第十四條 教學部ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、親化及各種布教ニ關スル事項

二、花園教會並ニ内外地布教及巡察ニ關スル事

項

三、教會所、說教所ニ關スル事項

四、感化救濟事業ニ關スル事項

五、本派各種學校及徒弟教養ニ關スル事項

六、校費生、留學生、給費生ニ關スル事項

七、教師、教師補ノ檢定ニ關スル事項

宗務本所例

八、講習會ニ關スル事項

第十五條 庶務部ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、寺院佛堂並ニ寺院佛堂ノ什寶物其ノ他財產

ニ關スル事項

二、寺班等級及寺籍ニ關スル事項

三、檀信徒ニ關スル事項

四、教區事務及教區役員ノ進退ニ關スル事項

五、紀綱寮ニ關スル事項

六、物品ノ調度保管ニ關スル事項

七、他部ニ屬セサル事項

第十六條 財務部ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、豫算、決算ニ關スル事項

二、特別會計ノ豫算、決算ニ關スル事項

三、金錢及債券ノ出納ニ關スル事項

四、宗費課金ノ賦課徵集ニ關スル事項

五、特別義財ノ徵集ニ關スル事項

第十七條 録事ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、法令及公文書ノ起草ニ關スル事項
- 二、重要文書ノ起草及査閲ニ關スル事項
- 三、公書保管ニ關スル事項
- 四、公文書類ノ接受ニ關スル事項
- 五、宗務本所記録編纂統計報告ノ調製ニ關スル事項
- 六、統務局ニ關スル事項

第三章 役員ノ任免

- 第十八條 宗務總長及部長ノ選任區劃左ノ如シ
- 第一選舉區 第一、第二、第三、第四、第五、第六、第八各教區
- 第二選舉區 第七、第九、第十、第十一、第十二各教區
- 第三選舉區 第十三、第十四、第十七、第十八各教區
- 第四選舉區 第十五、第十六、第十九、第二十、第二十二各教區

- 第五選舉區 第二十一、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六各教區

- 第十九條 宗務總長ハ宗務總長選舉例ニ依リ當選シタル者ニ就キ管長之ヲ任命ス
- 第二十條 部長ハ年齢三十歳以上ノ本派寺院住職ニシテ前堂職以上ノ法階ヲ有スル男僧中ヨリ宗務總長ノ推薦ニヨリ管長之ヲ任命ス
- 但シ各部長ハ宗務總長ノ屬スル區ヲ除ク他ノ四區中ヨリ一名宛ヲ推薦スルモノトス
- 第二十一條 所員ノ任免ハ宗務總長之ヲ行フ
- 第二十二條 宗務總長ノ任期ハ滿四ヶ年トス部長ノ任期ハ宗務總長ノ任期ニ從フ
- 第二十三條 部長缺員ノ場合ハ宗務總長又ハ他ノ部長ニ於テ事務ヲ兼任スルコトヲ得部長二名以上缺員ノ場合ハ第二十條ノ規定ヲ準用スベシ
- 第二十四條 宗務總長缺職シタル場合ハ管長ハ第二十條ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ直ニ宗務總長

事務取扱ヲ命ズ

- 第二十五條 宗務總長事務取扱ハ第二十條ノ規定ニ準ジ各部長事務取扱ヲ推薦スベシ
- 第二十六條 宗務總長事務取扱ハ就任シタル日ヨリ十五日以内ニ後任宗務總長選舉ノ手續ヲ爲スベシ

第二十七條 宗務本所處務規則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本例ノ施行ニ依リ法則第六號教務本所例ハ之ヲ廢止ス

本例施行ノ際現ニ執事長ノ職ニ在ル者ハ宗務總長ニ、各部長ノ職ニ在ル者ハ各其ノ部長ニ任命セラレタル者ト看做ス但シ各其ノ任期ハ第二十二條ノ規定ニ拘ラズ宗務本所例ニ係リ任命セラレタル者ノ殘任期間トス

前項ノ殘任期間中ニ於テ宗務總長缺職シタルト

宗務本所處務規則

キハ第二十四條ノ規定ニ依リ宗務總長事務取扱ヲ命ズ但シ此ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

●宗務本所處務規則

(教令第二十四號)

- 第一條 宗務總長ハ派内諸種ノ諸願書ヲ點檢シ各部長ニ其處理ヲ命ス
- 第二條 宗務本所ノ印章ハ宗務總長之ヲ保管ス
- 第三條 部長ハ錄事ヨリ交附スル其部ニ於テ取扱フヘキ文書ヲ檢閱シ部員ニ其處理ヲ命ス
- 第四條 錄事ハ宗務總長ニ直屬シ所管ノ事務ヲ處理ス
- 第五條 部員ハ所屬部長ノ命ヲ受ケ事務ヲ處理ス
- 第六條 錄事、部員、書記ハ其取扱ニ關スル書類ヲ整理シ散逸ナカラシムヘシ
- 第七條 書記ハ職狀、賞狀、辭令其他文書類ノ清記ヲ司ルモノトス
- 第八條 各部ニ於テ接受シタル書類ハ遅クモ一週間以内

ニ處理シ事務ノ簡捷ヲ計ルヘシ

事由アリテ一週間以上ニ涉リ處理シ能ハサルモノハ宗務總長ニ具狀シ其認許ヲ受クヘシ

●役員服務規則 (教令第二十五號)

第一條 本派ノ事務ニ從事スル役員ハ専ラ法令久住ノ念ヲ體シ至誠勤勉ヲ主トシ綱目法令ニ從ヒ其職務ヲ盡スヘシ

第二條 役員ハ常ニ上職ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三條 役員ハ職務ノ内外ヲ問ハス如法綿密ニシテ職權ヲ揮擯スルコトヲナク謹慎懇切ナルコトヲ努ムヘシ

第四條 役員ハ宗務本所ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ又ハ職務ヲ執行スル土地ヲ離ルヘカラス

第五條 役員ハ自他ニ關スルヲ問ハス職務上ノ機密ヲ洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退キタル後ニ於テモ亦同シ

第六條 役員ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第七條 役員ハ宗務本所ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其職務ニ關シ謝諛、宣勞其他何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈物ヲ受クルコトヲ禁ス但派内公式ニ關スル聘物ハ此限ニアラス

第八條 凡ソ上位ノ役員ハ所屬役員ヨリ贈物ヲ受クルコトヲ禁ス

第九條 役員ハ其職務ニ服スルノ間宗務本所ノ許可ナクシテ他ノ公私ノ役ニ就クコトヲ得ス

第十條 役員ニシテ本規則ニ違反シタル行爲アルトキハ左記各號ニ依リ之ヲ處分ス

一、謹慎
二、當役罷免

第十一條 本規則第五條乃至第八條ノ一ニ違反シタル者ハ一ヶ月以内ノ謹慎ニ處ス謹慎中ト雖モ職務ニ服スヘシ但請暇ヲ許サス

第十二條 上職ノ命令ヲ遵守セス又ハ謹慎ノ處分三回以上ニ及フ者若クハ故意ヲ以テ職務ヲ怠リ他ニ害惡ヲ及ホシタル者ハ當役ヲ罷免ス

●宗務所例 (法則第七十一號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第四十條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 宗務所ハ妙心寺派第何教區宗務所ト稱ス

第三條 教區ヲ分チテ二十六トス其ノ區劃ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 宗務所ハ宗務本所ノ指揮監督ヲ受ケ教區内一切ノ事務ヲ司管スル所トス

第五條 宗務所ハ本例ニ依リ教區規約ヲ設ケ宗務本所ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スベシ

第六條 宗務所ニ宗務所長ヲ置ク

第七條 宗務所長ハ教區内ニ於テ選舉シ其ノ當選人ニ就キ管長之ヲ任命ス

第八條 宗務所ニ必要アル場合事務員ヲ置ク事務員ハ宗務所長之ヲ選任ス

第九條 宗務所長事故アルトキハ宗務本所ノ認可

當役ヲ罷免セラレタル者ハ一ヶ年以上四ヶ年以下本派公職ノ役員タルコトヲ得ス

第十三條 役員ニシテ職務上懲處分ヲ受ケタル者ノ行爲ヨリ生シタル損害ニシテ賠償シ得ラル、モノハ之ヲ賠償セシム

第十四條 役員ノ處分ハ役員ノ上位若クハ首席ノ役員之ヲ申告シ統務局會議ヲ經テ管長之ヲ決裁ス

第十五條 何等ノ種類ヲ問ハス役員所管ノ金員物件ヲ私消シ又ハ濫用セシモノハ懲誠例第十三條第五號ニ依リ處分シ其消費セシ金額ハ之ヲ賠償セシメ尙其行爲ヲ計量シ法衛ニ告發スルコトアルヘシ

第十六條 役員所管ノ器具文書等ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ代價ヲ以テ賠償シ得ラル、モノハ相當ノ代價ヲ辨償セシムヘシ

ヲ得テ代理者ヲ置ク

第十條 宗務所長ハ必要ニ應ジ支所長會ヲ開クコトヲ得

第十一條 支所長會ニ於テ不當ノ議決ヲ爲シタルトキハ宗務所長ハ理由ヲ示シテ議決ヲ取り消シ之ヲ再議ニ附シ仍其ノ議決ヲ改メザルトキハ宗務本所ニ上申シテ指揮ヲ請フベシ
前項取消處分ニ對シ不服アルトキハ支所長會ハ宗務本所ニ具申スルコトヲ得

第十二條 宗務所長ハ其ノ職務ニ屬スル事項ヲ處理スルタメ綱目、法則、教令ノ範圍内ニ於テ必要ナル達令及告示ヲ發スルコトヲ得

第十三條 宗務所長ハ花園教會例ニ規定シタル結社ノ事務ヲ司管スベシ

第十四條 宗務所ニハ左記ノ書類ヲ備ヘ置クベシ

- 一、寺籍明細書
- 二、僧侶現員簿

三、住職法階ノ進退ニ關スル帳簿

四、住職及檀信徒總代印鑑簿

五、會計簿

第十五條 宗務所ハ宗務本所ノ派出員巡教使等ヲ管待シ及之ニ關スル要件ヲ處理スベシ

第十六條 宗務所經費ハ教區内寺院ノ負擔トシ該教區支所長會ノ決議ヲ經テ賦課法ヲ定メ宗務本所ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スベシ

第二章 職務及權限

第十七條 宗務所長ハ教區内一切ノ事務ヲ司管シ該教區ヲ代表ス

第十八條 宗務所長ノ司管スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一、教區内僧侶及檀信徒ヨリ管長又ハ宗務本所ヘ進達スル文書ヲ檢閲シ合法ト認ムルトキハ證明書又ハ副書ヲナシ年月日ヲ記入シテ之ヲ宗務本所ヘ進達スベシ但シ合法ト認メザルト

キハ理由ヲ附シ直ニ却下スベシ

二、達書ハ宗務所ヘ到着後三日以内ニ受領者ヘ送付スベシ

三、教區内僧侶及檀信徒ノ行爲ヲ精査監督シ其ノ事由ヲ管長ヘ上申シ賞典又ハ懲誡ヲ請求スベシ

四、教區内寺院ノ財産及營造物ヲ監督シ事故アルトキハ直ニ其ノ事由ヲ管長ヘ上申シ處分ヲ請求スベシ

五、教區支所長會ノ議決ヲ經ベキ事項ニ附キ其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スベシ

六、宗務所所管ノ收入、支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スベシ

七、宗務所ノ什器及文書類ヲ保管スベシ

八、官廳、公共團體又ハ他宗派トノ交渉事項ヲ處理スベシ

九、本例以外本派綱目、法則及教令ニ依リ其ノ

宗務所例

職權ニ屬スル事項ヲ處理スベシ

十、本派綱目、法則及教令ニ明文ナキカ又ハ疑義ニ涉リタル事件起ルトキハ宗務本所ノ指令又ハ訓示ヲ待テ之ヲ處理スベシ

第三章 所長ノ責任

第十九條 宗務所長ハ教區内僧侶ヲ提擲シ興學布教ノ事ヲ策勵スベシ

第二十條 宗務所長ハ本末ノ氣脈ヲシテ圓滑ニ疏通セシメ且教區内ノ僧侶間又ハ僧侶ト檀信徒トノ和融共保ノ責ニ任ズ

第二十一條 宗務所長ハ教區内寺院及寺有財産ノ護持ニ付常ニ監督ノ責ニ任ズ

第四章 所長選舉

第二十二條 宗務所長ハ現任者滿期六十日以前ニ後任選舉ヲ行フベキ旨ヲ宗務本所ニ届出ヅルト同時ニ教區宗務支所長及選舉人ヘ選舉ヲ行フベキコトヲ通知スベシ

- 第二十三條 投票用紙ハ宗務本所ニ於テ作製シ選舉期日發布ト同時ニ宗務所ヨリ之ヲ配布スベシ
- 第二十四條 宗務所長選舉ハ宗會議員選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ
- 第二十五條 宗務所長及宗務支所長ハ現職ノ儘立候補スルコトヲ得
- 第二十六條 宗務所長選舉ニ關シテ本例ニ抵觸セザル限り宗會議員選舉例中左ニ掲クル各條ノ規定ヲ準用ス
 - 一、投票區域ニ關シテハ第二條
 - 二、選舉權及被選舉權ニ關シテハ第五條乃至第八條
 - 三、投票用紙ニ關シテハ第十六條、第十九條
 - 四、選舉投票及投票所ニ關シテハ第二十一條乃至第二十三條、第二十五條乃至第三十七條
 - 五、開票及開票所ニ關シテハ第三條及第三十八條乃至第四十八條
- 六、選舉會ニ關シテハ第四十九條乃至第五十六條
- 七、宗務所長候補者及當選人ニ關シテハ第五十七條乃至第六十二條、第六十三第一項乃至第六十三第三項及第六十五條
- 八、異議申請ニ關シテハ第七十一條乃至第七十五條
- 九、懲戒ニ關シテハ第七十六條乃至第八十五條
- 第二十七條 選舉ニ關スル異議申請ニ付テハ宗務本所ハ他ノ事務順序ニ拘ラズ速ニ其ノ審査ヲ爲シ五十日以内ニ之ヲ決定スベシ
- 第二十八條 宗會議員選舉例第二條但書ノ規定ニ依ル選舉ニ對スル本例ノ適用ニ付テハ之ヲ一投票區ト看做ス
- 第五章 所長ノ任期及補任
 - 第二十九條 宗務所長ノ任期ハ滿四ヶ年トス
 - 第三十條 宗務所長缺職シタルトキハ管長ハ教區

内有權者中ヨリ所長事務取扱ヲ特任ス所長事務取扱ハ其ノ就任セシ日ヨリ一ヶ月以内ニ於テ後任宗務所長選舉ノ手續ヲ爲スベシ

第三十一條 補闕選舉ノ手續ハ前條規定ノ外宗務所長選舉ニ同ジ

補闕所長ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第六章 事務引繼

第三十二條 宗務所長ノ交代ハ滿期ノ翌日之ヲ行ヒ事務引繼ヲ爲スベシ引繼畢レバ双方連署シテ其ノ趣ヲ宗務本所ニ届出ヅベシ

第三十三條 新舊宗務所長事務引繼ノ際ニハ双方立會ノ上左記ノ事項ヲ詳密ニ取調べ調書ヲ製シ双方署名捺印スベシ

- 一、宗務所必須ノ帳簿、書籍、達示類、器具
- 二、宗務所用ノ印、版木類
- 三、宗務所用ノ現在物件
- 四、宗務所ニ現管ノ金錢、證券及其ノ出納表

宗務所例

五、宗務所ニ附屬スル建造物、法衣、法具等

第三十四條 事務引繼ノ時若シ帳簿等ニ不足アリタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ新舊所長連名ヲ以テ宗務本所へ具狀シ處分ヲ請フベシ

附 則

本例ノ施行ニ依リ法則第七號教務所例ハ之ヲ廢止ス

本例施行ノ際現ニ教務取締ノ職ニ在ル者ハ宗務所長ニ任命セラレタル者ト看做ス但シ其ノ任期ハ昭和六年六月三十日迄トス

別 表

- 第一教區 福岡縣、佐賀縣、長崎縣及大分縣中ノ下毛、宇佐、日田、玖珠四郡
- 第二教區 宮崎縣、鹿兒島縣及大分縣(下毛、宇佐、日田、玖珠ノ四郡ヲ除ク)
- 第三教區 高知縣及愛媛縣中ノ東宇和、西宇和、北宇和、喜多ノ四郡及宇和島市

第四教區 香川縣、德島縣及愛媛縣（第三教區所管ヲ除ク）

第五教區 廣島縣、山口縣

第六教區 岡山縣

第七教區 島根縣及鳥取縣中ノ西伯、東伯二郡

第八教區 鳥取縣（第七教區所管ヲ除ク）、兵庫縣

中ノ朝來、養父、出石、城崎、美方ノ五郡

第九教區 兵庫縣（第八教區及第十一教區所管ヲ除ク）

第十教區 大阪府、奈良縣及京都府中ノ葛野、愛

宕、宇治、綴喜、相樂ノ五郡及京都市

第十一教區 兵庫縣中ノ氷上、出石、朝來三郡、

大阪府豐能郡及京都府（第十教區所管ヲ除ク）

第十二教區 和歌山縣及三重縣南牟婁郡

第十三教區 三重縣（南牟婁郡ヲ除ク）

第十四教區 滋賀縣、福井縣、石川縣

第十五教區 愛知縣中ノ海部、愛知、西春日井、

東春日井、丹羽、葉栗、中島、知多ノ

八郡及名古屋、一ノ宮ノ二市

第十六教區 愛知縣（第十五教區所管ヲ除ク）

第十七教區 岐阜縣中岐阜、大垣ノ二市及稻葉、

羽島、海津、安八、養老、不破、揖斐

本巢、山縣ノ九郡及武儀郡中ノ第十一

部

第十八教區 岐阜縣（第十七教區所管ヲ除ク）

第十九教區 長野縣、新潟縣

第二十教區 山梨縣

第二十一教區 静岡縣中ノ安倍、麻原、志太、駿

東、富士、田方、加茂ノ七郡及静岡、

清水、沼津ノ三市

第二十二教區 静岡縣（第二十一教區所管ヲ除ク）

第二十三教區 東京府、神奈川縣、茨城縣、千葉

縣及埼玉縣中ノ北足立、入間二郡

第二十四教區 群馬縣、栃木縣及埼玉縣（北足立

入間二郡ヲ除ク）

第二十五教區 宮城縣、福島縣及岩手縣氣仙郡

第二十六教區 山形縣、秋田縣、青森縣及岩手縣

（氣仙郡ヲ除ク）

●宗務所長選舉施行規則

（教令第五十號）

第一章 選舉區及被選舉權

第一條 選舉人三名以下ノ部ノ選舉ハ宗務所例第二十六

條第一號ニ準用セル宗會議員選舉例第二條但書ヲ適用

ス其ノ何レノ部ニ併合スヘキカハ宗務本所ニ於テ之ヲ

指定ス

第二條 宗務所例第二十六條第二號ニ準用セル宗會議員

選舉例第八條但書ニ依ル辭職ハ書類ヲ以テ之ヲナシ其

ノ發送ト同時ニ被選舉權ヲ獲得スルモノトス但シ該書

類ノ發送ハ書留郵便ニ依ルヘシ

宗務所長選舉施行規則

第二章 投票用紙及投票

第三條 投票管理人事故アルトキハ宗務本所ハ該部内選

舉人中ヨリ臨時代理ヲ命ズ

第四條 投票立會人ノ届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ投票立

會人ノ氏名、寺院名ヲ記載シ且ツ本人ノ承諾書ヲ添附

スヘシ

第五條 宗務所例第二十三條ノ規定ニ依ル投票用紙ノ配

布ハ選舉期日發布ト同時ニ宗務所ヨリ各宗務支所ニ送

附シ宗務支所ハ選舉人ニ對應シタル投票用紙ヲ選舉期

日前十五日以内、前八日迄ニ各選舉人ヘ手交又ハ書留

郵便ニ依リ交附スヘシ但シ選舉人ヘ手交ノ場合ハ本人

ヲシテ投票用紙交附簿ニ受領年月日ヲ記入シ署名捺印

セシムヘシ

第六條 投票郵送ノ書留郵便封筒ニハ「投票在中」ト標記

スヘシ

第七條 投票所ニハ投票人名簿ヲ備ヘ投票シタル選舉人

ノ氏名ヲ記録スヘシ

第八條 投票管理人ハ投票在中ノ書留郵便ヲ受領シタル

トキハ投票人名簿ニ之ヲ記録スルト共ニ其ノ受領年月日時ヲ郵送封筒裏面ニ記入シ投票函ニ投入シテ之ヲ保管スヘシ

第九條 投票管理人ハ投票所開所ト同時ニ立會人ト共ニ投票函ヲ開キ投票人名簿ニ對照シテ郵送投票ノ數ヲ點檢シ再ヒ其ノ投票ヲ投票函ニ投入スヘシ

第十條 投票ハ投票管理人及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票函ニ投入スヘシ

第十一條 投票記載ノ場所ハ選舉人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲メ相當ノ設備ヲナスヘシ

第十二條 投票函ハ嚴重ナル錠ヲ卸シ外部ヨリ在中ノ投票ヲ覗ヒ又ハ濫リニ取出スコト能ハサルヘク裝置スヘシ

第十三條 宗務所例第二十六條第四號ニ準用セル宗會議員選舉例第三十二條ノ規定ニ依リ投票函ヲ閉鎖シ錠ヲ卸シタルトキハ投票管理人ハ其ノ錠ヲ密封シ投票立會人ト共ニ封印ヲ施シ投票函ト同封ニテ發送スヘシ

第十四條 投票函ハ其ノ閉鎖後開票管理人ニ送致スルタメノ外之ヲ投票所外ニ搬出スルコトヲ得ス

第三章 開票

第十六條 第三條ノ規定ハ開票管理人ニ、第四條ノ規定ハ開票立會人ニ之ヲ準用ス

第十七條 開票審査ハ立會人立會人上開票管理人ニ於テ各部別ニ投票録ト對照シテ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フモノトス但シ朗讀、計算及整理等ノ事務ハ開票管理人ノ命シタル事務員ヲシテ之ニ當ラシムルコトヲ得

- 一、送致サレタル投票函及錠ニ異狀ナキヤヲ檢ス
- 二、投票録ヲ朗讀ス
- 三、投票函ヲ開キ郵送投票ト他トヲ區分ス
- 四、郵送投票ノ封筒ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ封ノ儘省除ス
- 五、郵送投票ノ封筒ヲ開キ他ノ投票ト共ニ之ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ封ノ儘之ヲ省除スヘシ

- 六、開票ニ附スヘキ投票ヲ用紙番號順ニ整理シ順次ニ開封ス
- 七、開封シタル投票ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ之ヲ省除ス
- 八、純正投票記載ノ被選舉人氏名ヲ朗讀シ所長候補者ノ得票數ヲ計算ス

第十八條 前條ノ計算終リタルトキハ開票管理人ハ投票區毎ニ各所長候補者ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十九條 開票管理人ハ各投票區毎ニ開票明細書ヲ作り立會人ト共ニ捺印スヘシ

第二十條 開票ニ關スル書類ハ開票管理人ニ於テ所長ノ任期間之ヲ保管スヘシ

第二十一條 開票審査終了ノ後選舉人ニシテ投票ヲ閱覽セントスル者ハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ書類ヲ以テ之ヲ開票管理人ニ請求スヘシ

開票管理人ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ開票立會人タリシ者ノ立會ノ下ニ之ヲ閱覽セシメ終了ノ後ハ宗務所例第二十六條第五號ニ準用セル宗會議員選舉例第四

宗務所長選舉施行規則

十六條ノ規定ニ依リ之ヲ保存スヘシ
立會人ニシテ事故アルトキハ立會人ニ於テ該教區内ノ選舉人中ヨリ代理人ヲ指定シ立會セシムヘシ
前項ノ規定ニ依ル代理人ヲ得難キ場合ハ開票管理人ハ該教區内ノ選舉人中ヨリ立會人ヲ選任シテ立會セシムヘシ

第四章 選舉會

第二十二條 第三條ノ規定ハ選舉長ニ準用ス

第二十三條 選舉會ニ關スル書類ハ選舉長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第二十四條 宗務所例第二十六條第七號ニ準用セル宗會議員選舉例第五十九條第三項ニ依リ選舉會ヲ開ク場合ニ於テハ同選舉例第五十二條ニ準シ同選舉例第七十四條ノ通知ニ接シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第五章 所長候補者及當選人

第二十五條 所長候補者ノ届出又ハ推薦届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ所長候補者タルヘキ者ノ氏名、寺院名(推

薦届出ノ場合ニ於テハ併セテ推薦届出者ノ氏名、寺院名ヲ記載シ且ツ宗務所例第二十六條第七號ニ準用セ

ル宗會議員選舉例第五十八條第二項ニ依ル供託金處分承認書ヲ添附スヘシ

所長候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲メ選舉期日十五日以内ニ所長候補者タルコトヲ辭スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二十六條 所長候補者ノ届出又ハ推薦届出アリタルトキハ選舉長ハ直チニ所長候補者ノ屬スル部ノ投票管理人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル投票管理人ハ當該所長候補者死亡シタル事ヲ知りタルトキハ直チニ其ノ旨ヲ選舉長ニ報告スヘシ

選舉長ハ所長候補者ノ所長候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ其ノ死亡シタルトキハ直チニ其ノ旨ヲ投票管理人ニ通知スヘシ

第二十七條 所長候補者又ハ同推薦届出者ノ供託物ノ選

附ニ關シテハ宗會議員選舉例施行規則第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章 選舉ニ關スル費用

第二十八條 投票用紙ノ調製ニ要スル費用ハ宗務本所ノ負擔トス

第二十九條 選舉事務ノ爲メ宗務所長、選舉長、開票管理人ニ於テ要スル費用及選舉會場又ハ開票所ニ要スル費用ハ該教區ノ負擔トス

第三十條 選舉事務ノ爲メ宗務支所長、投票管理人ニ要スル費用ハ該部ノ負擔トス
但シ宗務所例第二十八條ノ場合ニ於テハ費用ノ三分ノ一ヲ合併セラレタル部ノ負擔トス

第三十一條 投票管理人ニ於テ選任シタル投票立會人ニハ該部ヨリ、開票管理人、選舉長ニ於テ選任シタル開票立會人及選舉立會人ニハ該教區ヨリ何レモ其ノ職務ノ爲メニ要スル費用ヲ給ス

前項ノ支給ハ衣資支給規則第十二條第三級、第十八條第三級ニ準ス

第七章 様式

第三十二條 投票用紙ハ宗會議員選舉投票用紙ノ様式ニ準シ宗務本所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三十三條 投票函ハ宗會議員選舉投票函ニ準ス

第三十四條 投票録、開票録、開票明細書及選舉録ハ別記様式ニ依リ之ヲ作製スヘシ

第三十五條 立會人ノ届出書及之ニ添附スヘキ承諾書、宗務所長候補者ノ届出書又ハ推薦届出書、供託金處分承認書並ニ所長候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書ハ別記様式ニ準シ之ヲ作製スヘシ

第八章 補則

第三十六條 投票録、開票録、開票明細書、選舉録ハ各作製義務者ニ於テ其ノ謄本ヲ作製シ選舉人又ハ所長候補者ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

附則

本令ハ昭和五年三月十四日ヨリ之ヲ施行ス

別記

立會人ノ届出書様式

投票立會人(開票立會人)届

何府 何市 何町 何字何 何寺住職
何縣 何郡 何村

氏名

昭和 年 月 日 執行ノ宗務所長選舉ニ於ケル投票立會人(開票立會人)ト相定候間別紙本人ノ承諾書相添ヘ届出候也

昭和 年 月 日

宗務所長候補者

氏名印

(又ハ宗務所長候補者何某推薦人 氏名印)
投票管理人(開票管理人) 氏名殿

立會人ノ届出書ニ添附スベキ承諾書様式

投票立會人(開票立會人)承諾書

昭和 年 月 日 執行ノ宗務所長選舉ニ於ケル投票立會人(開票立會人)タルコトヲ承諾候也
昭和 年 月 日

百圓(國債證券)相添へ立候補届出候也
昭和 年 月 日 氏 名 印
第何教區選舉長
氏 名 殿

宗務所長候補者

何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
氏 名 殿
(又ハ宗務所長候補者何某推薦人)

宗務所長候補者ノ推薦届出書様式

宗務所長候補者推薦届
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
宗務所長候補者 氏 名
選舉 昭和 年 月 日 宗務所長選舉

宗務所長候補者ノ届出書様式

宗務所長候補者届
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
宗務所長候補者 氏 名
選舉 昭和 年 月 日 宗務所長選舉
右宗務所例第二十六條第七號ノ規定ニ依ル供託金壹

右宗務所例第廿六條第七號ノ規定ニ依ル供託金壹百圓(國債證券)相添へ推薦届出候也
昭和 年 月 日
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
推薦人 氏 名 印
第何教區選舉長

氏名殿

供託金處分承認書様式

供託金處分承認書
一金壹百圓也
右供託金ハ宗務所例第廿六條第七號ニ準用セル宗會議員選舉例第五十八條第二項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ宗務本所ノ臨時歳入ニ編入セラル、コトヲ承認候也
昭和 年 月 日
宗務所長候補者 氏 名 印
(又ハ 推薦人 氏名印)

第何教區選舉長

氏 名 殿

投票錄様式

第何教區第何部
宗務所長投票所投票錄

- 一、午前 何時開所 午後 何時閉所ス
- 二、當投票區内選舉權ヲ有スル者 何人

宗務所長候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書様式

宗務所長選舉施行規則

宗務所長候補者辭退届

宗務所長候補者 氏 名
事由 昭和 年 月 日何々ノ爲メ被選舉權ヲ有セサルニ至リタリ
右辭退届出候也
昭和 年 月 日
宗務所長候補者 氏 名 印

第何教區選舉長

氏 名 殿

備考、事由ハ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲メ宗務所長候補者タルコトヲ辭スル場合ニ限り記載スヘシ

- 内選舉權ヲ自棄シタル者 何人
- 三、當日投票セシ投票數 何票
- 四、郵便ニ依リ到着シタル投票數 何票
- 合計 何票

投票管理人ハ此ノ投票録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上
投票立會人ト共ニ茲ニ署名捺印ス

昭和 年 月 日

投票管理人 氏 名 印
投票立會人 氏 名 印

(以下何名アルモ同シ)

備考、様式ニ掲クル事項ノ外投票管理人ニ於テ投票ニ
關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

開票録様式

第何教區宗務所長開票所開票録

一、午前 何時開所 午後 何時閉所ス

- 二、各投票所ヨリ送致セル投票總數 何票
- 内成規違反ニ付省除シタルモノ 何票
- 三、純正投票數 何票
- 得票數

何票 氏名

(以下何名アルモ同シ)

四、各別ノ内容ハ開票明細書ノ通り

開票管理人ハ此ノ開票録ヲ作り開票明細書ト共ニ之
ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ茲ニ署名捺印ス

昭和 年 月 日

開票管理人 氏 名 印
投票立會人 氏 名 印

(以下何名アルモ同シ)

備考、様式ニ掲クル事項ノ外開票管理人ニ於テ開票ニ
關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

開票明細書様式

開票明細書

第何教區第何部

一、投票總數 何票

内イ、成規違反ニ付キ郵送封筒ノ儘省除シタル
モノ何票

ロ、成規違反ニ付キ開票前省除シタルモノ何
票

二、開票ニ付スヘキ投票數 何票

内、成規違反ニ付キ開票後省除シタルモノ何票

三、純正投票數 何票

得票數

何票 氏 名
何票 氏 名

(以下何名アルモ同シ)

右

昭和 年 月 日

備考、一、此ノ開票明細書ハ各部毎ニ作製スヘシ

宗務所長選舉施行規則

二、年月日ノ下ニ管理人及立會人ノ檢印ヲ押捺
スヘシ

選舉録様式

第何教區宗務所長選舉會選舉録

一、午前 何時開所 午後 何時閉所ス

二、選舉長ハ選舉立會人立會ノ上各所長候補者ノ得票
數ヲ朗讀シタリ

三、各所長候補者ノ得票數左ノ如シ

何票 氏 名
何票 氏 名

(以下何名アルモ同シ)

四、有効投票ノ總數ハ何票ニシテ此ノ四分ノ一ノ數ハ
何票ナリ

宗務所長候補者中其ノ得票數此ノ數ニ達スル者左
ノ如シ

何票 氏 名

何票 氏 名

(以下何名アルモ同シ)

右ノ内有効投票ノ最多數ヲ得タル左記ヲ以テ當選人トス

氏 名

五、當選人トナリ得ル次點者ノ氏名並ニ順位左ノ如シ

氏 名

氏 名

選舉長ハ此ノ選舉錄ヲ作り之ヲ朗讀シタル上選舉立會人ト共ニ茲ニ署名捺印ス

昭和 年 月 日

選舉長

氏 名 印

選舉立會人

氏 名 印

(以下何名アルモ同シ)

備考、様式ニ掲クル事項ノ外選舉長ニ於テ選舉會ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

●沖繩縣、北海道、朝鮮及臺灣宗務所規則 (教令第二十號)

第一條 本規則ハ綱目第百十三條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 沖繩縣、北海道、朝鮮及臺灣ノ各所ニ宗務所ヲ置キ妙心寺派何々宗務所ト稱ス

宗務所ノ位置ハ當該地ニ於ケル適當ノ寺院若クハ説教場ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 宗務所ニハ布教監督當直シ所轄内一切ノ宗務ヲ處理ス

布教監督ハ寺院住職若クハ説教場主任ヲ以テ之ニ任ス
布教監督ノ任期ハ四ヶ年トシ其ノ任免ハ管長ノ特命ニ依ル

第四條 布教監督ハ該所轄内ノ寺院説教場又ハ講義場ノ管理ハ勿論布教並ニ布教ニ關スル一切ノ事務ヲ司管ス

第五條 布教監督ハ宗務擴張上機宜ヲ誤ラサル様常ニ努カスルノ責務アルモノトス

第六條 布教監督ハ國家ノ制度及末派法令ニ牴觸セサル

範圍ニ於テ其所轄内寺院、説教場等及僧侶ニ對シ達示ヲ發スルコトヲ得

第七條 宗務所ニハ左ノ記録帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

一、寺院、説教場等ノ明細帳

二、寺院、説教場等ノ所有財産調査目錄

三、僧侶現員簿

四、住職、布教使及派出員ノ進退等ニ關スル記録

五、住職及檀徒信徒總代印鑑名簿

六、會計及庶務ニ關スル帳簿

第八條 宗務所ノ經費ハ所轄内寺院及説教場ノ負擔トシ

適宜ノ釀出方法ヲ定メ支出ノ用途ヲ辨スヘシ但從來支

給スル監督ノ手當ハ先例ニ憑ル

第九條 布教監督ハ所轄内寺院、説教場或ハ檀徒、信徒

ヨリ宗務本所ニ進達スヘキ文書ヲ檢閲シ證明書又ハ副

申書ヲ添ヘテ進達ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 布教監督ハ所轄内ニ於ケル寺院住職、開教使又

ハ檀信徒ノ賞罰ニ關スル事項ヲ精査シ宗務本所ニ具狀

スヘシ

沖繩縣、北海道、朝鮮及臺灣宗務所規則

第十一條 布教監督ハ毎年二月^{一月}七月 宗務本所ニ事務報告ヲ爲スヘシ

第十二條 布教監督ハ國家ノ制度又ハ末派法令ニ牴觸セ

サル限り該所轄内ニ施行スヘキ規約ヲ設ケ宗務本所ノ

認可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但該規約ハ寺院住職及開教

使ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第十三條 布教監督ノ事務上ニ付疑訝ニ涉ル事件ハ宗務

本所ニ伺出テ指令ヲ得テ之ヲ處理スヘシ

第十四條 布教監督缺職シタルトキハ管長ハ該所轄内寺

院住職、説教場主任又ハ臨時特派員ヲ以テ布教監督事

務取扱ヲ選任ス

第十五條 所管内寺院ニシテ寺班稟就ノ場合ニ於テ三等

地以下ハ其寺院元金ヲ免除シ二等地以上ニ昇班又ハ就

班ノ場合ハ其差額ノ半額ヲ徵收ス

第十六條 賦課金、別途賦課金、法盟義財ハ就班後十ヶ

年間ハ其三分ノ一ヲ徵收シ以後ハ其半額ヲ徵收ス

第十七條 法階香資、教師檢定料、毎歲香資等ハ所定額

ヲ徵收ス

●宗務支所例 (法則第七十二號)

第一章 宗務支所ノ構成

第一條 教區ヲ部ニ分チ部ニ宗務支所ヲ置ク

第二條 部ハ從來ノ區域ニ依ル、部ノ區域ヲ變更セントスルトキハ支所長會ノ議決ヲ經テ宗務本所ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第三條 宗務支所ハ支所長ノ現任寺院ニ置ク

第四條 宗務支所ハ第何教區第何宗務支所ト稱ス

第二章 宗務支所長及選舉

第五條 支所長ハ該支所管内寺院住職タルヲ要ス前項規定ノ外選舉人及被選舉人ノ資格ニ關シテハ宗會議員選舉例ノ規定ヲ準用ス

第六條 宗務支所長ノ任期ハ四ケ年トス但シ再選ヲ妨ゲズ

第七條 支所長選舉ハ現任支所長滿期一ケ月以前ニ行フモノトス選舉ノ日、時、場所等ハ少クト

モ二十日以前ニ該支所管内選舉人へ告知スベシ

第八條 支所長ノ選舉事務ハ現任支所長之ヲ司管ス

第九條 支所長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名ヲ選任スベシ

第十條 選舉ハ該宗務支所ニ於テ行フベシ

選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限リ單記名トス

第十一條 投票用紙ハ宗務本所ニ於テ之ヲ作製シ選舉期日發布ト同時ニ宗務支所ヨリ之ヲ配布ス

ベシ

第十二條 投票終了後直ニ開票審査スベシ

第十三條 投票ノ効力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ支所長之ヲ決定スベシ

第十四條 投票審査ノ後最多數ノ得票者ヲ以テ當選人ト定ム得票數同ジキトキハ法屬ノ長ヲ取り同屬ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 當選人其ノ當選ヲ辭シタルトキハ次點者ヲ以テ當選人トス次點者ナキトキハ更ニ選舉ヲ行フベシ

第十六條 支所長ハ選舉錄ヲ作製シ選舉ノ顛末ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ一ケ年間之ヲ保存スベシ

但シ投票ハ三ケ月間之ヲ保存スベシ
第十七條 當選人決定シタルトキハ支所長ハ選舉錄及本人ノ承諾書ヲ添ヘ宗務所長ニ具申シ宗務所長ハ宗務本所ニ上申シテ其ノ任命ヲ請フベシ

第十八條 支所長ニシテ選舉權被選舉權ヲ有セザルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第十九條 支所長任期中退職セントスルトキハ宗務所長ヲ經テ宗務本所ニ退職願ヲ提出スベシ

第二十條 支所長ヲ缺キタルトキハ宗務本所ハ該支所管内有權者ニ就キ支所長事務取扱ヲ命ジ一ケ月以内ニ後任支所長選舉ノ手續ヲ行ハシムベシ

シ

補缺選舉手續ハ支所長選舉ニ同ジ

第二十一條 補缺支所長ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第三章 職 務 權 限

第二十二條 支所長ハ該支所管内ニ於ケル所管ノ事務ヲ處理ス支所長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一、法令、告示及公文書類ヲ管内ニ傳達シ之ヲ遵行セシムルコト

二、管内寺院僧侶及檀信徒ヨリ提出スル書類ノ審査及進達ニ關スル事項

三、管内寺院僧侶及檀信徒ノ功過ヲ勘査シ之ヲ宗務所長ニ具申スルコト

四、管内ノ布教及教育ヲ獎勵スルコト
五、管内寺院僧侶ノ名簿其ノ他必要ノ簿書ヲ保管スルコト

六、賦課金及義財又ハ之ニ準ズベキ納金ニ關スル事項

七、其ノ他法令ニ依リ支所長ノ職權ニ屬スベキ事項

第四章 宗務支所ノ監督

第二十三條 宗務支所ハ第一次ニ於テ宗務所之ヲ監督シ第二次ニ於テ宗務本所之ヲ監督ス

第二十四條 本例以外ノ事項發生シ支所長其ノ措置ニ疑義ヲ生ジタルトキハ宗務所長ノ指揮ヲ請フベシ

附 則

本例施行ノ際現ニ管事ノ職ニ在ル者ハ宗務支所長ニ任命セラレタル者ト見做ス但シ其ノ任期ハ教務所例第五十四條ニ依リ任命セラレタル者ノ殘任期間トス

●顧問會例 (法則第七十三號)

第一條 本例ハ綱目第三十五條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 顧問ノ定員ハ五名トス

第三條 顧問ハ本派寺院住職中本派專門道場師家又ハ多年本派ノ宗務、布教、教育ニ參與シ功勞顯著ナル者ニシテ德望アリ事理ニ精通シタル者ニ就キ管長之ヲ特命ス

第四條 顧問ノ任期ハ五ヶ年トス

第五條 顧問ハ宗務ニ關スル他ノ役員ニ就任スルコトヲ得ズ

第六條 顧問會ハ三名以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ

第七條 顧問會ハ顧問ノ互選ニ依リ會長一名ヲ定ム
但シ會長事故アルトキハ顧問ノ互選ニ依リ會長代理ヲ定メ會長ノ職務ヲ行ハシム

●教學調査會例 (法則第六十六號)

第一條 本例ハ綱目第三十五條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 教學調査會ハ本派教學ニ關スル重要ナル事項ヲ審議シ又ハ管長ノ諮詢ニ應答ス

第三條 教學調査會ハ左ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス
管長特選 二名
宗務所長 二名
宗會議員 二名

第四條 管長ハ教學調査會委員トシテ宗務所長及宗會議員以外ノ者ニ就キ二名ヲ特選ス
第五條 管長ハ教學調査會委員トシテ宗務所長ノ中ヨリ二名ヲ任命ス

第六條 管長ハ教學調査會委員トシテ宗會ノ互選ニ依リ選出シタル二名ヲ任命ス
宗會ハ二名ノ正員ヲ互選スルト同時ニ之カ補員二名ヲモ選定スヘシ

第八條 顧問會ノ議事ハ出席員ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第九條 顧問會ハ一派重要ノ事項ニツキ管長ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開陳ス

第十條 顧問會ハ管長之ヲ召集ス召集ノ手續ハ宗務本所ニ命シテ之ヲ行ハシム但シ管長缺職ノ場合ハ宗務本所之ヲ召集スルモノトス

第十一條 顧問會ノ經費ハ宗務本所之ヲ支出ス

附 則

本例ノ施行ニ依リ法則第百十三號顧問例ハ之ヲ廢止ス

第七條 委員ノ任期ハ四ケ年トス但シ宗會ノ互選ニ依リ選出セラレタル委員ノ任期ニ限リ其ノ選出セラレタル宗會ヨリ次期定期宗會ニ於テ後任委員ノ選出セララル、迄トス
補缺ニ依リ就任シタルモノ、任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第八條 宗務所長及宗會議員ノ互選ニ依リ任命セラレタル委員ニシテ其資格ヲ失ヒタルトキハ同時ニ本委員モ失格スルモノトス

第九條 教學調査會ハ會長一名ヲ委員ノ互選ニ依リ之ヲ定メ管長ノ任命ヲ請フヘシ

會長ハ閉會ノ間ト雖仍ホ本會ノ事務ヲ指揮ス但會長ノ任期ハ委員ノ任期ニ依ル

第十條 管長ハ開會ノ必要ヲ認メタル場合ニ於テ會期ヲ定メ之ヲ召集ス

第十一條 教學調査會ハ委員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第十二條 管長ニ於テ緊急諮詢ヲ要スト認ムルトキハ會長ヲシテ文書ニ依リ委員ノ意見ヲ徵セシメ其意見書ニ會長ノ意見書ヲ添ヘ差出サシムルモノトス

第十三條 教學調査會ハ左ノ事項ヲ審議決定スルモノトス

- 一、一般教學ニ關シ重要ナル事項
- 二、本派專門道場ニ關スル事項
- 三、臨濟宗大學、花園中學校ニ關スル事項
- 四、花園教會ニ關スル事項
- 五、教育費ニ關スル事項
- 六、教育基金ニ關スル事項
- 七、前各號ノ外教學ニ關シ管長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十四條 教學調査會議案ハ宗務本所又ハ委員ニ

在テハ委員二名以上ノ贊同ヲ以テ之ヲ提出ス

第十五條 教學調査會ハ教學ニ關スル事項ニ付管長ニ建議シ又ハ本派僧侶ノ建議ヲ受クルコトヲ得

第十六條 教學上ノ事ニ關シ教學調査會ノ決議ニシテ若シ宗務本所ト意見ヲ異ニシタル場合ハ會長ハ狀ヲ具シテ管長ノ決裁ヲ仰クコトヲ得

第十七條 教學調査會ノ經費ハ宗務本所ヨリ之ヲ支辨ス

第十八條 應召委員ノ旅費及滞在費ハ總テ宗會議員ニ準ス

第十九條 教學調査會ニ書記一名ヲ置ク
書記ハ會長之ヲ任免シ會長指揮ノ下ニ庶務及記録ノ事ヲ司ラシム

●布教例 (法則第百六十五號)

第一章 總則

第一條 本例ハ綱目第六十二條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 布教ニ關スル事項ハ總テ本例ニ依リ之ヲ行フ

第三條 布教ハ綱目第五十八條ノ種別ニ依リ同第五十七條ノ目的ヲ達スルヲ以テ本旨トス

第四條 布教師ニシテ任意又ハ特請ニ依リ五日以上布教セントスルトキハ豫メ其區域及布教日割ヲ定メ宗務本所並ニ其布教地ノ宗務所ニ届出ツヘシ

前項ノ布教終了ノ時ハ日誌ヲ作り宗務本所ニ報告スルモノトス

第五條 内地ニ於ケル布教區劃ハ宗務所ノ區分ニ依ル

第二章 管長親化

第六條 親化ハ花園教會ヲ策勵シ其趣旨ヲ擴張スルヲ目的トス

第七條 親化ヲ左ノ三種ニ分ツ

- 一、管長ノ慈慮ニ出テタルモノ
- 二、定期親化
- 三、寺院ノ特請ニ依ルモノ

第八條 慈慮ニ出ツル親化ハ豫メ宗務本所ヨリ區域ヲ定メ二ヶ月以前ニ其旨該教區宗務所長ヘ布達シ諸般ノ準備ヲ命ス

第九條 定期親化ハ毎年一教區ニ亘リ執行ス

第十條 定期親化ニ要スル經費ハ往復旅費ヲ除ク外該教區ノ負擔トス

第十一條 定期親化ハ宗務本所ヨリ六ヶ月前ニ其開教區當番ノ宗務所長ヘ布達シ諸般ノ準備ヲ命ス

第十二條 親化特請ノ場合ハ豫メ左ノ諸件ヲ定メ三ヶ月以前ニ宗務所長ヲ經テ宗務本所ヘ上申ス

ヘシ

- 一、旅程順序
- 二、開教日數
- 三、佛事法要ノ種類及次第

第十三條 特請親化ニ屬スル諸般ノ經費ハ全部特請者ノ負擔トス

第十四條 親化隨員ハ四名ヲ限トス其名稱及職務左ノ如シ

- 執事 一名 親化ニ關スル諸般ノ事務ヲ總理ス
- 布教師 一名 親化ノ主旨ヲ敷演ス
- 侍衣 一名 親下ノ衣鉢ニ侍シ記録ノ事ヲ司ル
- 侍者 一名

第十五條 何種ノ親化タルヲ問ハス當該教區宗務所長又ハ宗務支所長ハ常ニ先導ノ任ニ當リ諸般ノ事務ヲ整理シ執事ニ申牒スヘシ

第十六條 親化地ニ於テハ宗務ニ關スル請願其他

ノ申請ハ何等ノ事情アルモノヲ受理セス

第十七條 管長事故アルトキハ親化代理ヲ派遣スルコトアルヘシ

第十八條 本例ハ親化代理ニモ準用ス

第三章 巡回布教

第十九條 管長ノ命ヲ奉シ各教區ヲ巡回布教スルモノヲ巡教使ト稱ス

第二十條 巡回布教ハ毎年春季宗務本所ニ於テ巡教區域ヲ定メ之ヲ普告ス

第二十一條 宗務所長ハ前條普告ニ對シ巡教日數及巡回順序ヲ定メ直ニ宗務本所ヘ報告スヘシ

第二十二條 巡教使ハ綱目第五十七條ノ趣旨ニ基キ地方ノ風俗人情ニ鑑ミ説教、演説、講話等ノ方式ニ依リ宗旨ヲ宣揚スヘシ

第二十三條 巡教使ハ本派巡教使適任證ヲ有スルモノ又ハ本派寺院住職先住職ニシテ左記各號ノ

資格ヲ有スルモノニ就キ銓衡ノ上之ヲ任用ス

- 一、宗意ニ達スルモノ
- 二、文辯ニ長スルモノ
- 三、學術ニ通スルモノ
- 四、經歷ニ富ムモノ

第二十四條 巡教使ハ宗務本所ヨリ特ニ命セラレタル事件アル場合ニハ布教ノ傍該事務ニ從事スヘシ

第二十五條 巡教使ハ前條ノ場合ヲ除ク外何等ノ事情アルモノ宗務本所及宗務所ニ關スル事務ニ容喙スルコトヲ得ス

第二十六條 巡教使ハ地方寺院、教會ノ情況及布教上勤惰ノ實況ヲ視察シテ宗務本所ヘ復命スヘシ

第二十七條 巡教使ハ本派ノ檀信徒ニシテ孝子、貞婦、義僕其他民衆ノ模範トナル篤行アル者ノ事實ヲ調査シテ宗務本所ヘ復命スヘシ

第二十八條 巡教使ハ威儀進退總テ佛祖ノ清規ニ

準則シ決シテ威權放恣ノ舉動アルヘカラス

第二十九條 巡教使ハ宗務本所ノ指定區域外ノ請

聘ヲ認諾スヘカラス、但通路ノ都合上若クハ指

定寺院ノ開教ニ差支ナキ場合ハ此限ニアラス

第三十條 前條ノ場合ハ其理由ヲ必ス復命書ニ明

記スヘシ

第三十一條 巡回布教ハ二月ヨリ五月迄トス

第三十二條 一教場ニ於ケル布教日數ハ三日以內

トス

ノハ應分ノ慰勞ト賞典ヲ行フ

第三十六條 特種布教ニ從事セントスル者ハ豫メ

其布教實施方法書ヲ作り宗務所長ヲ經テ宗務本

所ヘ届出ツルモノトス

第三十七條 特種布教ニ從事スル者ハ毎月一回以

上其布教日誌ヲ作り宗務本所ヘ報告スヘシ但軍

隊其他ノ布教ヲナシタルモノハ報告書ニ各主宰

者又ハ事務所ノ證明捺印ヲ要ス

第三十八條 新領土及海外布教師ヲ開教使ト稱ス

第三十九條 開教使ハ各地布教管理者ノ承認ヲ經

タル者ニ就キ管長之ヲ任命ス

第四十條 開教使ノ任命ヲ左ノ二種ニ分ツ

一、既設布教場ニ開教使トシテ派遣スル場合

二、特志ヲ以テ新ニ布教場設置ノ爲開教使タラ

ントスル場合

第四十一條 開教使ハ身體健全ニシテ前堂職以上

第四章 特種布教

第三十三條 特種布教ハ記念傳道、大舉傳道等ノ

臨時布教及軍隊、刑務所、工場、青年會、婦人

會等ノ類トス

第三十四條 特種布教ハ各自ノ特志ニ依リ之ヲ行

フモノトス

第三十五條 特種布教ニ相當ノ成績ヲ舉ケタルモ

ノ法階ヲ有スルモノトス

第四十二條 第四十條第一號ノ開教使ニ對シテハ

衣資支給規則ニ依リ相當ノ旅裝費及手當ヲ支給

ス第二號ノ開教使ニ對シテハ本派布教場トシテ

ノ基礎ヲ鞏固ナラシメタル以上ニ於テ相當ノ慰

勞ト賞典ヲ行フ

第四十三條 布教ニ關スル事項及布教師ノ待遇法

等ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 法則第一百十一號管長親化例及第一百

二號巡教例ハ本例發布ト共ニ廢止ス

●布教規則 (教令第四號)

第一章 總則

第一條 本規則ハ布教例第四十三條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 布教師タル者ハ綱目第五十七條ノ目的ヲ體認シ

須臾モ離反スヘカラス

第三條 公任布教師ハ布教例及本規則ヲ嚴守スヘシ之レ

布教規則

ニ違背シタルモノニシテ相當ノ處分ヲ加フヘキ場合ハ

懲誡ノ重キニ從テ處斷ス

第二章 巡教使

第四條 巡教使ハ布教例第二十三條相當ノモノニシテ前

堂職以上ノ法階ヲ有シ性行高潔ニシテ威儀端正ナル者

ニ就キ之ヲ任用ス

第五條 巡教使ハ宗務總長及各部長ノ推薦ニ依リ統務局

會議ヲ經テ管長之ヲ任命ス

第三章 特派布教師

第六條 特派布教師ヲ請願セントスル場合ハ左記ノ諸件

ヲ定メ二ヶ月以前宗務所長ヲ經テ宗務本所ニ上申スヘ

シ

一、開教ノ趣旨

二、開教日數

三、旅程順序

第七條 特派布教師ノ旅費報酬等ハ總テ請願者ノ負擔ト

ス

第四章 旅裝及待遇

布教規則

五〇

五〇

五〇

五〇

五〇

五〇

五〇

五〇

五〇

第八條 巡教使及特派布教師ハ宗務本所ノ指示スル規式ヲ恪守シ傲誕ノ舉止ヲ爲スヘカラス

第九條 巡教使ノ待遇ハ左ノ標準ニ依ル

- 一、赴任、復命及甲乙各部間ノ旅費ハ衣資支給規則ニ依ル但甲乙各部間ノ旅費金額ハ最近經路ニ依ル各部内ニ於ケル巡教使ノ送迎費ハ該部ノ負擔トス
- 二、手當ハ衣資支給規則ニ依ル但一日二回以上開教セシ場合ハ該寺院ヨリ相當ノ報酬ヲ爲スヘキヲ要ス
- 三、地方各寺院ノ巡教使ニ對スル諸般ノ管待ハ可成質素ト誠實ヲ主トシ虚禮ニ涉ラサルコトニ注意スヘシ

第十條 地方寺院住職ハ巡教使及特派布教師ノ舉措進退ニシテ法令ニ違反ノ廉アリタルトキハ宗務本所ニ申告スルコトヲ要ス

第十一條 非常事變ノ外ハ巡教日程ノ變更若クハ日數ノ伸縮ヲ許サス但止ヲ得サル場合ハ宗務本所ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 特派布教師ノ待遇ハ特別規定アルモノ、外巡教使ノ待遇ニ準ス

●普通布教講習會例 (法則第六十七號)

第一條 本例ハ綱目第六十二條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 普通布教講習會ハ宗旨ノ精要ヲ攻究シ且布教ノ方法ヲ討尋シテ一般布教師ノ養成ヲ以テ目的トス

第三條 本講習會ハ隔年一回各教區ニ於テ宗務所長主任トナリ其會場ヲ定メテ七日間以上之ヲ開クモノトス但數教區聯合スルモ妨ナシ

第四條 本講習會ニ要スル經費ハ該教區ノ負擔トス但宗務本所ヨリ相當ノ補助金ヲ下附ス

第五條 本講習會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名
- 主 監 一名
- 講 師 一名
- 幹 事 一名

第六條 會長、主監及講師ハ該教區ノ推薦ニ依リ

管長之ヲ任命シ幹事ハ會長之ヲ命ス

第七條 會長以下各役員推薦ノ銓衡標準左ノ如シ

- 一、會長ハ宗務所長又ハ布教ニ熱心ニシテ經歷ニ富ムモノ但不得己場合ハ此限ニアラス
- 二、主監ハ一派知名ノ布教師タルモノ
- 三、講師ハ師家分上ノモノ但止ムヲ得ザル場合ニハ學識德望ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 四、幹事ハ前堂職以上ノ法階ヲ有スルモノ

第八條 會長以下ノ職務左ノ如シ

- 一、會長ハ會務ヲ總理シ一切ノ監督ニ任ス
- 二、主監ハ會長ヲ輔佐シ且講習員ヲシテ辯論ノ實習ヲ爲サシメ布教ノ方法ヲ講シ尙會長事故アルトキハ其職務ヲ代辨ス
- 三、講師ハ毎日課トシテ二時間ノ宗義提唱ト朝暮ノ參禪ヲ缺クコトヲ得ス但シ前條第三號但書ノ場合ハ此ノ限リニアラス

普通布教講習會例

講本ハ毎回一ヶ月前ニ宗務本所ニ届出ルモノトス

四、幹事ハ會長、主監ノ命ヲ受ケ庶務及會計事務ヲ擔任ス

第九條 時宜ニヨリ科外トシテ名家ノ講演ヲ請フコトアルヘシ

第十條 諸役員及講習員ハ前條ノ日課ニ差支ナキ限地方ニ實地布教ヲ試ムルコトアルヘシ

第十一條 前堂職以上ノ法階ヲ有スルモノハ何人ト雖入會スルコトヲ得但會長ニ於テ適當ト認めタルモノハ此限ニアラス

第十二條 講習員ニシテ本會諸般ノ規則ニ違反シ又ハ會長ノ訓諭ニ從ハサル者アルトキハ會長ヨリ宗務本所ニ具申シテ之ヲ退會セシム

第十三條 講習員ノ費用ハ自辨トス

第十四條 宗務所長ハ其教區内ニ於ケル講習員ノ出席獎勵其他必要ナル事務ヲ掌理スヘシ

第十五條 講習員ハ自己所屬ノ教區外ト雖受講ス

ルコトヲ得

第十六條 講習員ニシテ會期中缺席ナク聽講シタ

ルモノニ對シ講習修了證ヲ授與ス但會期三分ノ

二以上ノ出席者ニハ詮衡ノ上之ヲ授與スルコト

アルヘシ

第十七條 講習修了證ヲ十回以上受ケタルモノハ

現法階ヨリ一級昇進スルコトヲ得

第十八條 會長ハ講習滿了後十日以内ニ左ノ事項

ヲ具シ宗務本所ヘ届出ルモノトス

一、開會ノ場所及時日

二、講習ノ科目及時間數、役員氏名

三、講習員氏名及出席勤惰表

四、附帶ノ法會傳道其他一般狀況ノ摘要

五、會計狀況

第十九條 前各條規定ノ外講習員ノ座作進退等ハ

總テ專門道場ノ規矩ニ準ス

附 則
第二十條 本例ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●高等布教講習會例

(法則第百六十八號)

第一條 本例ハ綱目第六十二條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 高等布教講習會ハ宗旨ノ精要ヲ攻究シ布

教上必要ナル學識ヲ得セシムルヲ以テ目的トス

第三條 高等布教講習會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名

主 監 一名

講 師 一名

助 講 師 若干名

幹 事 一名

第四條 會長、主監、講師及助講師ハ宗務本所ノ

推薦ニ依リ幹事ハ會長ノ具申ニ依リ管長之ヲ任

命ス

第五條 會長以下ノ職務左ノ如シ

會長ハ會務ヲ總理シ一切ノ監督ニ任ス

主監ハ會長ヲ輔佐シ布教ノ方法ヲ講シ會長事故

アルトキハ其職務ヲ代辨ス

講師ハ毎日二時間ノ提唱ト朝暮ノ參禪ヲ擔任ス

助講師ハ會長ノ意見ニ依リ布教ニ必須ナル學科

ヲ擔任ス

幹事ハ會長及主監ノ命ヲ受ケ庶務會計事務ヲ擔

任ス

第六條 講習會ハ隔年一回宗務本所ニ於テ之ヲ開

ク其會期ハ三十日間トス

第七條 講習員ハ左記各號ノ資格ヲ具備シ將來布

教師タル見込アルモノニ就キ選拔ス

一、花園中學校卒業若クハ之ト同等以上ノ學力

ヲ有スルモノ

二、本派前堂職以上ノ法階ヲ有スルモノ

三、專門道場ヘ三ヶ年以上掛搭シタルモノ

四、普通布教講習會修了證ヲ有スルモノ

第八條 宗務所長ハ其區内ニ於テ前條ノ資格ヲ具

備スル講習員ヲ推薦シ履歷書ヲ添ヘ宗務本所へ申請スヘシ

第九條 宗務本所ハ前條申請者中ニ就キ銓衡ノ上之ヲ許可ス但特志ヲ以テ講習員タラントスルモノアルトキハ宗務本所ノ見込ヲ以テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十條 講習員ノ旅費及滞在費ハ自辨トス但宗務本所ハ相當ノ補助ヲナスコトアルヘシ

第十一條 講習員ニシテ講習會諸般ノ規則ニ違反シ又ハ會長ノ訓諭ヲ遵守セサルモノアルトキハ會長ヨリ宗務本所ニ具申シ之ヲ退會セシム

第十二條 規定ノ講習ヲ終リタル講習員ニ對シテハ檢定試験ヲ行ヒ合格シタルモノニハ修了證書ヲ授與ス

第十三條 合格シタル講習員中ノ優良者ニ就キ銓衡ノ上之ニ巡教使適任證ヲ授與ス

第十四條 講習會ニ關スル諸般ノ規定ハ教令ヲ以

テ之ヲ定ム

附 則

第十五條 本例ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●教育例 (法則第一百五號)

第一條 本例ハ綱目第六十二條ニ據リ之ヲ制定ス

第二條 本派僧侶ノ教育ハ左ノ四期ニ分ツ

第一 初等教育 修業期間 六年又ハ八年

第二 中等教育 同 五年

第三 高等教育 同 四年

第四 宗旨專攻 同 二年以上

第三條 初等教育ハ寺院徒弟ニシテ學齡ニ達シタルトキハ小學校課程ヲ履修セシム

第四條 中等教育ハ花園中學校ニ於テ之ヲ授ケ高等教育ハ臨濟宗大學ニ於テ之ヲ授ケ

第五條 花園中學校ハ中學校令規定ノ學科及佛教ノ要義ヲ教授スル所トス

第六條 臨濟宗大學ハ佛教ノ蘊奧ヲ講究シ及ビ之ニ須要ナル學科ヲ教授スル所トス

第七條 宗旨專攻ハ專門道場ニ於テ參禪辨道ヲナ

サシム

第八條 花園中學校及臨濟宗大學ノ經費ハ宗務本所ヨリ支出ス

第九條 本派ハ獎學ノ目的ヲ以テ左ノ優遇法ヲ設ク

一、花園中學校又ハ臨濟宗大學ニ於テ學力優等操行善良ナル學生ヲ選ヒ校費生トシ校費ヲ支給スルコトアルヘシ

二、本派僧侶ニシテ派立又ハ官公私立中學程度ノ學校ヲ卒業シ高等學校若クハ同等以上ノ學校ニ入學シ學業優秀志操堅實身體健全ナルモノニハ應分ノ學資ヲ支給スルコトアルヘシ

三、臨濟宗大學ヲ卒業シタルモノニシテ首座職以上ノ法階ヲ有シ成績優等且志操堅實身體健全ナル者ヲ選ヒ留學ヲ命スルコトアルヘシ
第十條 教育ノ基礎ヲ確立セシムル目的ヲ以テ教育基金ヲ蓄積ス

第十一條 教區又ハ一部内ニ於テ學林ヲ設立セン
トスルトキハ本派私設學林規則ニ依リ宗務本所
ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十二條 大教授、普通學林卒業生、花園學林實
修全科卒業生、花園學院高等部卒業生ハ本例ノ
臨濟宗大學卒業生ト同一ノ資格ヲ有ス

第十三條 花園中學校學則、臨濟宗大學々則、教
育基金及校費生、給費生、留學生ニ關スル規定
ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

副フ爲メ教令第二十二號規定ノ校費生及給費生ノ支給
費ニ充ツ

支給方法ハ宗務本所統務局會議ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第五條 教育基金ハ宗務本所統務局會議ノ議決ヲ經テ確
實ナル有價證券ヲ購入スヘシ

第六條 教育基金ハ本派會計例第二十三條ノ特別須要法
ヲ斟酌シ之カ出納ニ關シテハ宗務本所財務取扱規則ニ
準據スヘシ

第七條 教育基金ノ現金及有價證券其他收支計算簿等ハ
宗會又ハ參事會ノ要求アレハ其檢閲ニ應スヘシ
寄附者ニシテ閱覽ヲ申請スル場合モ亦同シ

●教育基金規則 (教令第十八號)

第一條 本規則ハ教育例第十三條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 教育基金ハ特志者ノ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 前條ノ基金ハ如何ナル理由アルモ教育以外ノ費
途ニ流用又ハ消費スルコトヲ得ス

第四條 教育基金ハ當分ノ中元利蓄積シ或程度ニ達シタ
ルトキハ毎年ノ利子金ハ綱目第八十九條揭示ノ目的ニ

●徒弟教養例 (法則第十三號)

第一條 本例ハ綱目第八十九條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 寺院住職就任後十五ヶ年以内ニ左ノ標準
ニ依リ徒弟ヲ教養スヘシ

特例地 五名以上 別格地 四名以上
準別格地 三名以上 一等地 二名以上
二、三、四、五、六等地 一名以上

第三條 徒弟ヲシテ寺院通常ノ法務ニ從事セシム
ルハ勿論ナリト雖モ綱目第八十九條ノ目的ニ背
反スルコトヲ得ス

第四條 身體不具又ハ虛弱ニシテ教師ノ任ニ堪ヘ
サル者ハ徒弟トナスコト得ス

第五條 徒弟ニハ教育例ニ準シテ初等教育ヨリ順
次進學セシメ僧侶トシテノ資格ヲ具備セシムヘ
シ

第六條 徒弟ヲシテ前條ノ趣旨ニ副ハシムルハ授
業師又ハ該寺住職ノ責任トス但事故ニ依リ授業
師又ハ住職ナキ場合ニハ法類總代及檀信徒總代
ノ責任トス

第七條 第二條規定ノ員數以外ノ徒弟ヲ教養シテ
悉ク首座以上ノ掛籍ヲ爲サシメタル住職ニハ特
ニ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第八條 第二條ノ期間内ニ規定ノ徒弟數ヲ教養セ
サル住職ニ對シテハ徒弟一名ニ付毎年左記標準
ニ依リ教育義金ヲ徵收ス但綱目第七十六條規定
ノ寺院及本派甲種專門道場ノ師家ニ對シテハ之
ヲ免除ス

特例地 一名ニ付 金貳拾圓
別格地 一名ニ付 金拾圓
準別格地 一名ニ付 金拾圓
一等地 一名ニ付 金七圓

- 二、三等地 一名ニ付 金五 圓
- 四 等地 一名ニ付 金參 圓
- 第九條 教育義金ハ宗務本所ノ歳入トス

● 専門道場規則 (教令第十一號)

第一章 總 則

- 第一條 本派専門道場ヲ分テ甲乙二種トシ左ニ掲クル七ヶ所ヲ甲種トス
 - 美 濃 國 正 眼 寺
 - 大 本 山 塔 頭 天 授 院
 - 山 城 國 圓 福 寺
 - 美 濃 國 瑞 龍 寺
 - 攝 津 國 祥 福 寺
 - 尾 張 國 德 源 寺
 - 筑 後 國 梅 林 寺
- 第二條 本規則第二十三條ニ依リ管長ノ認可ヲ得テ設置シタルモノヲ乙種トス

第二章 制 度

- 第三條 専門道場規箴ハ本宗清規例典ニ基キ該道場師家之ヲ定メ學徒ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ
- 第四條 専門道場規箴及諸般ノ規定ニシテ本宗ノ清規例典ニ依ルコト能ハス又ハ必要アリテ新ニ創設スル規箴規定ハ該師家之ヲ定メ輔佐員ノ協議ヲ經テ管長ノ認可ヲ受クベシ
- 第五條 専門道場師家ハ必ス各安居期解制三十日前ニ於テ書式第二號ニ準シ其留錫シタル人名簿ヲ調製シ宗務所長ヲ經テ宗務本所ニ届出ヘシ
- 第六條 學徒ノ制中暫暇ハ授業寺ノ住職兼務住職若クハ寺務管理者ノ申請ニアラサレハ許可スヘカラス但師親ノ大事發生ノ場合ハ此限ニアラス
- 第七條 掛籍揭示ハ一安居毎ニ其現在員ヲ登載シ此規則ニ定メタル師家ヲ始メ輔佐員及評席ノ姓名ヲ列序シ其責任ノ所在ヲ一般ニ熟知セシムヘシ
- 第八條 専門道場掛塔ノ許否ハ本規則ニ抵觸セサル限師家ノ鑑識ヲ以テ之ヲ決スヘシ
- 第九條 専門道場師家ハ學徒ノ申請ニ依リ書式第三號ニ

準シ留錫届出名簿ニ對照シ留錫證明書ヲ附與スヘシ

第十條 宗務本所役員又ハ宗務所長ハ臨時視察スルコトアルヘシ

第三章 師 家

- 第十一條 専門道場師家及専門道場タル寺院住職ノ關係ハ左ノ通之ヲ定ム
 - 一、甲種専門道場タル寺院ノ住職ハ専門道場ノ師家タル資格ヲ具備スルモノニ限ル
 - 二、乙種専門道場ノ師家ハ其寺當該住職ニシテ第一號ノ師家ト同一ノ資格ヲ具備スルヲ要ス
- 第十二條 専門道場師家ノ推薦ハ其道場ノ前師家タル者之ヲ爲スト同時ニ住職請願ヲ爲スヘシ但師家遷化ノ場合ハ遺書若クハ前師家ノ與ヘシ證明書ヲ有スル罷參ノ者之ヲ推薦シ法類ノ加判ヲ以テ本條ニ準シ手續ヲ爲スヘシ
- 第十三條 甲種専門道場師家推薦ニ際シ前條ノ手續ヲ履行シ難キ事情ヲ生シタル場合ニ於テハ輔佐員ニ提議シ是カ決定ヲ請求スヘシ

第四章 役 員

- 第十四條 専門道場ニ於テハ該道場タル寺院ノ法類又ハ所在地寺院住職二名ヲ該師家ヨリ囑託シ之ヲ輔佐員トシ學徒ノ中ヨリ若干名ヲ選抜シ評席ニ列セシメ諸般ノ任務ヲ分掌セシム
- 第十五條 前條評席ニ列スルモノハ専門道場ニ三年以上掛搭シ丁年以上ノ者タルヘシ
- 第十六條 専門道場役員ノ中單頭及副司寮頭ノ二役ハ該師家ノ囑託ヲ受ケタル寺院住職ノ輔佐員二名ノ中ヨリ交番ニ之ヲ司管スヘシ

第五章 安 居

- 第十七條 雨安居ハ曆年四月十五日ヨリ八月十五日ニ至ル雪安居ハ十月十五日ヨリ翌年二月十五日ニ至ル共ニ之ヲ制中トス八月十六日ヨリ十月十四日ニ至リ二月十六日ヨリ四月十四日ニ至ル共ニ之ヲ制間トス
- 第十八條 専門道場ニ掛搭セントスルモノハ書式第一號ニ依リ請願スヘシ但掛搭者ハ年齢十七歳以上トス
- 第十九條 掛搭年月ヲ曆算スルハ雨安居雪安居ヲ合シテ

一年トス

第六章 財 産

第二十條 專門道場附屬財産ハ該寺院附屬財産ト之ヲ區分シ明細帳及什器帳ニ登錄シ師家及輔佐員連署捺印ノ上之ヲ保存シ増減アル毎ニ理由ヲ記入シ捺印スヘシ

第二十一條 專門道場通常金穀ノ出納ハ副司之ヲ管理シ安居前ノ制間ヲ合シ安居ノ期末ニ結算ヲ爲シ該師家ノ證明ヲ得テ後役ニ引繼キ其帳簿ハ嚴重ニ之ヲ保存スヘシ

第七章 補 則

第二十二條 宗務本所ハ甲種專門道場ニ對シ留錫人名簿届出人員ニ準據シ補助金ヲ下附ス

第二十三條 乙種專門道場ヲ創設セントスルトキハ甲種專門道場師家二名以上ノ勸發推薦狀ト共ニ該寺院住職法類總代檀徒又ハ信徒總代連署出願シ管長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 乙種專門道場ノ認可申請ノ場合ハ左記各號ノ書類ヲ添付スヘシ

六二

一、學徒安居ノ用ニ充ツル禪堂ノ圖面但禪堂未設ノ寺院ハ創設認可後三年以内ニ新築スヘシ

二、維持ノ方法

三、安居學徒十五名以上ノ現在留錫人名簿

四、專門道場關係人ノ住所氏名

五、創設認可後三年以内ニ七個以上專門道場師家及學徒ヲ請シ十五座以上ノ開單聚頭會ヲ行フヘシ

第二十五條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ專門道場ノ閉鎖ヲ命シ又ハ與ヘタル認可ヲ取消スコトアルヘシ

一、法令ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキ

二、學徒十五名ニ滿タサルトキ

三、一年以上本規則第五條ニ定メタル届出ヲ爲サ、ルトキ

四、前條第一號第二號又ハ第五號ヲ履行セサルトキ

第二十六條 本規則施行以前ニ出願シ既ニ認可ヲ與ヘタルモノハ本規則ニ依リ設置セラレタルモノト見做ス

第二十七條 沖繩縣北海道朝鮮臺灣ニ於テ乙種專門道場ヲ設置スルハ本規則ノ例ニ依ルヲ要セス

書式第一號(用紙半紙寫)

掛 搭 願 書

府市町 何派寺班何等地何寺住職某徒弟
縣郡村 何派寺班何等地何寺住職某徒弟

姓 名

年 月 日 生

當何年何ヶ月

右宗旨參究ノ爲貴場へ掛搭仕度志願ニ付御許容被成下度尤モ掛搭ノ上ハ道場ノ制規ヲ遵守シ決シテ違反致間敷候條履歷書相添へ以連署願上候也

年 月 日 本 人 姓 名 ㊟

右 寺 住 職 授 業 師 姓 名 ㊟

何々專門道場御中

書式第二號

雨安居留錫人名簿

一、得 度 年月日 府市町何寺住職何某ニ就キ得度

一、法 階 年月日 何職稟承

一、學 業 年月日 何尋常高等小學校卒業
年月日 何中學校卒業
年月日 何大學卒業

一、賞 罰

右相違無之候也

年 月 日 本 人 姓 名 ㊟

何月何日	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月
年初	掛搭	留錫	僧籍	所在地	住職	又	法階	姓 名	生年月日
何月何日	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月
何月何日	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月	何日何月	何年何月

合計何名

府市町 寺班何等地何級何寺住職
縣郡村 寺班何等地何級何寺住職

履 歷 書

專門道場規則

六三

輔佐員 姓名
評席 姓名
(以下準之)

同上

右當道場留錫ノ者ニ相違無之此段御届候也

何年 七月十七日

何年 一月十七日

何 誰

妙心寺派宗務本所御中

何專門道場師印

一、最初掛搭年月日

一、至今何年何ヶ月留錫

右證明ス

年月日

何國何專門道場印

●臨濟宗大學々則 (教令第四十一號)

第一章 總則

第一條 本學ハ專門學校令ニ據リ之ヲ立ツ

第二條 本學ハ臨濟宗ノ宗旨及佛教各宗ノ教義ヲ講究シ

之ニ須要ナル高等專門ノ諸學ヲ教授シ國家有用ノ人物

ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第三條 本學ハ修業年限ヲ五箇年ト定ム

第四條 本學ハ別ニ選科生及聽講生ノ規程ヲ設ク

第五條 本學ノ學生(選科生及聽講生ヲ除ク)ハ在學中徵

兵令第二十三條ニ據リ入營ヲ延期セララル

書式第三號 第何號

掛搭證明書

僧章印

何府何市何町何派何等地何級何寺住職

姓

年月日生

名

第二章 學年學期及休業日

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 一學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、大祭祝日

一、日曜日

第九條 本學ノ學科課程及授業時數ヲ定ルコト左ノ如シ

第三章 學科課程及授業時數

一、本學記念日

一、佛誕生會、佛成道會、佛涅槃會

一、初祖忌

一、無相大師降誕會、無相大師御忌

一、花園法皇御忌

一、春期休業 四月一日ヨリ同七日ニ至ル

一、夏期休業 七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

一、冬期休業 十二月廿五日ヨリ翌年一月十日ニ至ル

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
宗乘	實踐宗乘	四	同上	同上	四	四 (實踐宗乘) (論文起草)
余乘	佛教概論 各宗哲學概論	四	二 各宗哲學概論	六 同上	四 禪宗史	三
支那哲學	講義	四	四	五	五	一〇
支那文學	文讀	四	法文讀	支那哲學史	文學史	支那文學史
		授業時數	授業時數	授業時數	授業時數	授業時數
		每週	每週	每週	每週	每週
		四	四	四	四	四
		二	六	四	四	一
		二	四	三	三	一
		二	四	三	三	一

倫理學	國民道德要旨	二	日本道德史	二	倫理學	二	西洋倫理學	二	佛教倫理	二
教育學					教育學	二	教育史	三	教授法	四
宗教史	佛敎史	四	同上	四	佛敎史	五				
哲學	哲學概論	六	西洋哲學史	二	印度哲學史	二	宗教哲學	二	現代哲學	二
國語學	國語學	三	同上	三						
英文學	演講習讀	五	同上	五	同上	四	同上	四	同上	四
法制及經濟					法學通論	四	同上	二	同上	二
體操	軍事教練	二	同上	二						
計		三六		三四		三四		三二		二五
科外										
獨逸語、佛蘭西語、梵語、巴利語										

第十條 實踐宗乘ハ每週一回之ヲ行ヒ全學生ヲシテ同時ニ必修セシム

第十一條 每學期中六日間ノ接心會ヲ行ヒ全學生ヲシテ同時ニ必修セシム

但第三學期ニ限リ三日間トナスコトアルヘシ

第四章 成績査定及進級卒業

第十二條 成績査定ハ試験ニ依リテ之ヲ行ヒ進級卒業ハ評議會ヲ經テ之ヲ決定ス

第十三條 試験ヲ分チテ學期試験及學年試験ノ二種トス
學期試験ハ每學期末ニ於テ其ノ學期間教授シタル學課ニツキ之ヲ行ヒ學年試験ハ一學年末ニ於テ其ノ學年間教授シタル學課ニツキ之ヲ行フ

但第三學期ニ限リ學期試験ヲ行ハサルコトアルベシ

第十四條 試験ノ成績ハ評點ヲ以テ之ヲ表ハシ一學科目百點ヲ以テ最高トシ六十點以上ヲ合格トス

第十五條 一學科目ノ學期試験點ノ平均ヲ以テ其ノ學科目ノ學期評點トシ學期評點ニ學年試験點ヲ加ヘ二除シタルモノヲ其ノ學科目ノ學年評點トシ全學科目ノ學年

臨濟宗大學々則

評點ノ平均ヲ以テ學年成績トス
學年成績六十點以上ノ者ヲ合格トス

但一學期間ニ於ケル各學科目ノ缺課時間數其ノ學科目ノ全授業時數ノ三分ノ一以上ニ及ブモノハ其ノ學期末ニ於ケル其學科目ノ學期試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 學年成績合格ノ者ヲ學年修了者トシテ進級セシメ第五學年修了者ヲ卒業トシ之ニ卒業證書(第四號書式)ヲ授與ス

第十七條 學年成績合格ノ者ト雖モ左記各號ノ一ニ該當スル時ハ學年修了者タルコト能ハス

一、學年評點五十點未滿ナルモノ三學科目以上ニ及フトキ

二、一學年間ノ缺席日數全授業日數ノ三分ノ一以上ニ及フトキ

三、一學年間ノ接心會缺席日數全接心會日數ノ過半ニ及フトキ

但接心會缺席日數全接心會日數ノ過半ニ及ブモノト

雖モ已ムヲ得サル事故ニ依ルモノニ限り正式ノ届出ヲ待テ評議會ヲ經タル後別ニ取扱法ヲ講スルコトアルヘシ

第十八條 試験ニ缺席シタル者ニハ追試験ヲ行ハス

但シ學期試験ニ缺席シタルモノニシテ缺席理由正當ト認めタルモノニハ學期評點ノ十分ノ八以下ノ見込點ヲ與フルコトアルヘシ、學年試験ニ缺席シタルモノニシテ缺席理由正當ト認めタルモノニハ試験終了後二日以内ニ於ケル本人ノ願出ヲ待テ評議會ヲ經タル後、次學年ノ始メニ追試験ヲ行フコトアルヘシ

第十九條 學期試験ニ於テ不正ノ行爲アリタルモノハ其ノ學期ノ全學科目ニ亘ル學期評點ヲ零トシ、學年試験ニ不正ノ行爲アリタルモノハ全學科目ノ學年試験點ヲ零トス

第五章 入 退 學

第二十條 入學ハ學年ノ始メヨリ三十日以内ニ於テ之ヲ許可ス

第二十一條 第一學年ニ入學ヲ志願シ得ヘキ者ハ品行方

正、身體健全、志操堅實ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノタルヘシ

一、中學校卒業者

二、專門學校入學者檢定規定ニ依リ指定ヲ受ケタル者
三、專門學校入學者試験檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

但該入學志願者ノ數募集定員ニ超過スル時ハ中學校卒業ノ程度ニ依リ國語、漢文、英語、歴史ニ就キ選抜試験ヲ行フ

第二十二條 第二學年以上ニ入學ヲ志望スル者アル時ハ前條ノ資格ヲ具備シ且ツ志望學年以下ノ全學科目ニツキ編入試験ヲ受ケ合格シタル者ニ限り之ヲ許可ス

但學科課程相同シキカ又ハ夫以上ノ他ノ專門學校ヨリ本學ヘ轉學ヲ願出ツル者アル時ハ試験ヲ用キスシテ志望學年ヘ編入スルコトアルヘシ

但中途編入者、中途轉入者ニハ師範學校、中學校、高等女學校教員無試験檢定ノ取扱ナシ

第二十三條 入學志願者ハ入學願書(第一號書式)履歷書

(第二號書式)卒業試験成績ト品行ニ關スル當該學校長ノ證明書ニ入學檢定料ヲ添ヘ三月三十一日迄ニ願出ツヘシ

第二十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ直ニ保證人ヲ定メ保證人連署ノ上在學證書(第三號書式)ニ戸籍謄本ヲ添ヘ提出スヘシ

保證人ハ學生ノ身上ニ關スル一切ノ責任ヲ負フ者ニシテ正副二人トス正保證人ハ其ノ學生ノ授業師法類又ハ父兄後見人トシ、副保證人ハ本學附近ニ居住スル寺院住職又ハ一家計ヲ立ツル成年男子トス

但保證人ニシテ不適當ト認めタル時ハ之カ改定ヲ命スルコトアルヘク、正保證人ニシテ本學附近ニ居住スル時ハ副保證人ヲ要セサルコトアルヘシ

第二十五條 學生ハ修業半途ニシテ漫リニ休學又ハ退學スルコトヲ許サス

但病氣其他已ムヲ得サル事故ニ依リ休學又ハ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第二十六條 休學又ハ退學ヲ願出ツル者ニシテ其學期分納額ノ授業料其他ノ義務ヲ完了セサル時ハ之ヲ許可セス

第二十七條 休學ハ一ケ年以上ニ亘ル可ラス
但兵役ニ服スル場合ハ其ノ期間休學ヲ許可ス

第二十八條 願ニ依リ退學シタル者一ケ年以内ニ再入學ヲ願出ツル時ハ詮議ノ上原級ニ編入スルコトアルヘシ

第六章 學 費

第二十九條 入學志願者ハ入學檢定料金五圓ヲ納付スヘシ

第三十條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料金參圓ヲ納付スヘシ

第三十一條 授業料ハ一人一ケ年金五拾圓トシ左ノ如ク
三學期ニ分チ始業日ヨリ十五日以内ニ納付スヘシ

第一學期 金拾八圓
第二學期 金拾八圓
第三學期 金拾四圓

學期中途ニ於テ入學スル場合ハ入學許可ノ日ヨリ十五

日以内ニ其ノ學期分納額ヲ納付スヘシ

第三十二條 休學中ハ授業料ヲ免除ス

但休學中ト雖モ休學ノ事故止ミ授業ニ出席スル場合

ハ日割ヲ以テ授業料ヲ納付スヘキモノトス

第七章 賞 罰

第三十三條 學生ノ賞罰ハ評議會ヲ經テ之ヲ執行ス

第三十四條 品行方正學力優等ニシテ他ノ學生ノ模範ト

ナルモノニハ賞狀又ハ賞典ヲ授與ス

第三十五條 品行不良ニシテ學則ヲ確守セス學生タルノ

本分ニ違背スル者ハ其ノ情狀ニヨリ輕重ヲ査定シ誠論
謹慎、停學、除名又ハ放學ニ處ス

第三十六條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ放學ニ處ス

一、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、正當ノ理由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル
者

四、理由ノ如何ニ拘ラス引續キ一ヶ年以上缺席シタル
者

五、出席常ナラサル者

第三十七條 懲罰處分中ノ者ト雖モ謹慎、悔悟ノ實情ヲ

認ムヘキ者ハ懲罰ヲ輕減シ又ハ免赦スルコトアルヘシ

但重罰ハ此ノ限りニ非ス

第八章 寄 宿 舍

第三十八條 寄宿舍ハ適當ノ家庭ヨリ通學シ得サル學生

ヲ收容シ特別ノ訓育ヲナス所トス

第三十九條 寄宿舍ニ入ラントスル者ハ保證人連署ノ上

入舍願ヲ差出スヘシ

第四十條 必要ト認ムル時ハ學生ニ入舍又ハ退舍ヲ命

スルコトアルヘシ

第四十一條 寄宿舍ニ在リテハ常ニ舍監ノ教訓ニ從ヒ學

則及舍則ヲ確守シ道念ノ涵養ト品性ノ陶冶トニ努ムヘ

シ

第四十二條 病氣其他已ムヲ得サル事故ノタメ退舍セン

トスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出スヘ

シ

第四十三條 寄宿舍ニ關スル細則ハ學長別ニ之ヲ定ム

第九章 職 制

第四十四條 本學ニ左ノ職員ヲ置ク

學長 一名

主 監 一名

學生監 一名

教 授 若干名

監 事 若干名

教務係、會計係、圖書係、庶務係

舍 監 若干名

校 醫 若干名

第四十五條 學長ハ本宗ノ宗匠中ヨリ管長之ヲ特任ス

第四十六條 學長ハ本學ヲ統理經營ス、其職務ノ要領左

ノ如シ

一、實踐宗乘科ヲ擔任シ學生ノ道念涵養ニ努ムルコト

二、職員ノ任免ニ關スル意見ヲ上申スルコト

三、職員ヲ監督スルコト

四、本學則ニ據リ施行細則ヲ設クルコト

五、學生ノ入退學及賞罰等ニ關スルコト

臨濟宗大學々則

第四十七條 主監ハ學長ノ經營ヲ佐ケ諸般ノ事務ヲ監督

ス、其職務ノ要領左ノ如シ

一、職員ヲ督勵スルコト

二、學年末ニ於テ一學年間ノ學事狀況ヲ調査スルコト

三、次學年ノ施設ニ關スルコト

四、教科書ヲ選定スルコト

五、會計庶務寄宿舍事務等ヲ監督スルコト

第四十八條 學生監ハ本學ノ内外ニ亘リ學生ノ風紀ヲ監

督シ學風ノ振肅ヲ企劃シ常ニ學生ノ學業及操行ノ向上

ヲ慮ル

第四十九條 教授ハ學科ヲ教授シ研究ノ方法ヲ指導ス

第五十條 監事ハ學長及主監ノ命ニ從ヒ諸般ノ事務ヲ

分擔掌理ス

第五十一條 舍監ハ學長及主監ノ命ヲ承ケ寄宿舍ノ事務

ヲ處理シ學生監ト協調シテ在舍生ヲ訓育董督ス

第五十二條 校醫ハ體格檢査及本學衛生ニ關スル責務ヲ

遂行ス

第五十三條 職員ハ擔任職務ノ外總テ學生ノ品性ヲ向上

セシムルコトニ努ムヘシ

第五十四條 本學ニ功勞アル者又ハ學術上功績アル者ニ對シ學長ノ推薦ニ依リ名譽教授ノ稱號ヲ與フルコトアルヘシ

第十章 評議會

第五十五條 本學職員ヲ以テ評議會ヲ組織ス

第五十六條 學長ハ評議會ノ會長トナル學長事故アル時ハ主監之ニ代ル

第五十七條 學長ハ必要ニ應シテ評議會ヲ召集シ左記事項ニ關シ審議セシム

一、授業上ノ得失ニ關スル件

二、學生ノ道念涵養品性陶冶ニ關スル件

三、學科ノ連絡及進度ニ關スル件

四、其他學長主監及學生監ノ提出ニ拘ル諮詢事項

第五十八條 學長ハ每學年ノ始メ職員中ヨリ若干名ノ評議員ヲ任命スヘシ

第五十九條 學長ハ必要ニ應シテ評議員會ヲ召集シ評議會ニ代ヘシムルコトヲ得ルモノトス

第六十條 評議會及評議員會ノ決議ハ之ヲ議事録ニ留ムヘシ

第十一章 選科生及聽講生規程

第六十一條 選科生規定ハ本學則第二十一條所定ノ資格ヲ有セスシテ本學ノ課程ヲ修メントスル者ノタメニ之ヲ設ケ甲乙二種ニ分ツ

一、選科甲 英文學ヲ除キ他ノ學科目全部ヲ履修セシム

二、選科乙 宗乘、餘乘、支那哲學、支那文學及國語學、國文學ノ四科ノミヲ履修セシム

第六十二條 選科入學志願者ハ入學試験ニ合格セル者ニ限り入學ヲ許可ス

第六十三條 選科甲入學試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ國語、漢文、歷史、英語ニツキ之ヲ行フ

第六十四條 選科乙入學試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ國語、漢文、歷史ニツキ之ヲ行フ

第六十五條 選科生ハ在學中途ニシテ甲ヨリ乙ニ轉シ又ハ乙ヨリ甲ニ轉スルヲ許サス

第六十六條 聽講生規程ハ本學則第二十一條所定ノ資格

ヲ有セス且ツ在學中試験ヲ受ケスシテ本學課程ノ一部又ハ全部ヲ聽講セントスルモノ、爲ニ之ヲ設ク

第六十七條 相當ノ學歷アル證明書ヲ提出スル者ハ詮議ノ上無試験ニテ選科生又ハ聽講生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第六十八條 選科修了者ニハ修了證書(第五號書式)ヲ授與ス

第六十九條 特別ノ規定アル場合ノ外本學則第一章乃至第八章ハ之ヲ選科生及聽講生ニ準用ス

補則

第七十條 舊學則ニ依リ四箇年學習ノ上卒業セル者ハ引續キ新學則ニ依ル第五學年ニ編入セシム

第七十一條 舊學則ニヨリ第三學年ヲ修了セル者及其以下ノ修了者ハ順次新學則ニ依ル上級ニ編入セシメ第五學年ヲ了ヘ卒業セシム

七十二條 新學則中第六章學費ノ項ニ規定セル授業料入學檢定料及入學料ハ大正十四年度新入學生ヨリ之ヲ

臨濟宗大學々則

實施ス

第一號書式(美濃野紙楷書)

入學願
府縣都市町村何派寺班何等地方何寺徒弟(又ハ某何男) 姓名
右者今般貴學第何學年へ入學志願ニ付御檢定ノ上御許可被成下度此段履歷書及檢定料相添へ授業師(又ハ保證人)連署ヲ以テ願上候也 年月日
本人 姓名 名印
授業師(又ハ保證人) 姓名 名印
臨濟宗大學々長 氏 名殿

第二號書式(同上)

履歷書
府縣都市町村何派寺班何等地方何寺住職某徒弟 姓名
右者今般貴學第何學年へ入學志願ニ付御檢定ノ上御許可被成下度此段履歷書及檢定料相添へ授業師(又ハ保證人)連署ヲ以テ願上候也 年月日
本人 姓名 名印
授業師(又ハ保證人) 姓名 名印
臨濟宗大學々長 氏 名殿

第三號書式(同上)

收入 參 錢 在 學 證 書

印紙

私儀今般御允許ヲ得テ入學仕リ候ニ就テハ御規
則等堅ク相守リ勤學可仕候也

年 月 日

府縣郡市町村何派寺班何等地位何寺住職
某 徒 弟 名 氏 名 ⑩

前文中某、在學中同人ニ係ル一切ノ事件ハ本人
ノ貴學ニ於ケル學籍ヲ脱シ候後タリトモ我等ニ
於テ引受可申候依テ保證候也

年 月 日

府縣郡市町村何派寺班何等地位何寺住職
正保證人 氏 名 年 月 日 生 ⑩

府縣郡市町村何派寺班何等地位何寺住職
副保證人 氏 名 年 月 日 生 ⑩

臨濟宗大學々長 氏 名 殿

第四號書式

卒業證書

府縣何派寺班何等地位何寺徒弟 氏 名 年 月 日 生

右者本學全學科ノ課程ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタ
リ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

臨濟宗大學々長 氏 名 職學長印

契印

第何號

第五號書式

修了證書

府縣何派寺班何等地位何寺徒弟 氏 名 年 月 日 生

右者本學選科何種ノ學科課程ヲ修了セリ仍テ之
ヲ證ス

年 月 日

臨濟宗大學々長 氏 名 職學長印

契印

第何號

第六號書式

證明書

何科 府縣何派寺班何等地位何寺 何科 徒弟 氏 名 年 月 日 生

右者何年何月ヨリ何年何月迄本學ニ學ヒ頭書ノ
學科ヲ聽講セリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

臨濟宗大學々長 氏 名 職學長印

契印

第何號

花園中學校學則 (教令第四十七號)

第一章 目的

第一條 本校ハ中學校令ニ據リ男子ニ須要ナル高等普通
教育ヲナシ特ニ國民道德ノ涵養ニカムルヲ以テ目的
トス

第二章 學年、學期及休業日

第二條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
花園中學校學則

第三條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第四條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

祝日、大祭日
日 曜 日
本校記念日
夏期休業 七月廿一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
冬期休業 十二月廿五日ヨリ一月七日ニ至ル

第三章 學科課程及授業時數

第五條 學科課程及授業時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

學年	科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	道德要旨	一	同上	同上	同上	同上
國語及漢文	講讀作文	八	同上	講讀作文法	講讀作文法	講讀作文法
英語	發音綴字講讀會話 作文書取習字	七	講讀會話習字	講讀會話作文法	同上	同上
歷史	日本地理史	三	滿洲地理史	東洋地理史	西洋地理史	國史、西洋史、自然地理
地理	國史	三	世界地理	世界地理	世界地理	人文地理
數學	算術	四	代數	幾何	幾何	代數幾何
博物	動植物	二	同上	生理及衛生	博物通論	三角
物理及化學				物理學	物理學	物理學
法制及經濟						法制經濟
圖畫	寫生畫、臨畫	一	同上	同上	同上	同上
體操	普通體操	五	同上	同上	同上	同上
計	學校教練	三	同上	同上	同上	同上

第四章 入退學

第六條 入學ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス但シ缺員アル時ハ第二學期ノ始メヨリ十日以内ニ限り考查ノ上

臨時入學ヲ許可スルコトアルベシ

第七條 入學ヲ許可スベキモノハ品行方正身體健全志操堅實ニシテ左ノ數號ニ依ルベキモノトス

- 一、第一學年ニ入學シ得ル者ノ年齡ハ滿十二才以上トス其他ノ學年ニ入ル者ノ年齡モ亦之ニ準ズ
- 二、尋常小學校卒業ノ者ハ第一學年へ入學ヲ許可ス若シ該志願者ノ數入學定員ヲ超過シタル時ハ出身小學校長ノ内申ニ係ル事項、人物考查及身體検査ニ依リテ之ヲ選拔ス
- 三、第一學年ニ入學ヲ志願スル者ニシテ尋常小學校ヲ卒業セザル者ハ入學定員ニ滿タザル場合ニ限り尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ國語、算術、國史、地理、理科ニツキ檢定ヲ行フ
- 四、第二、三、四學年ニ入學ヲ許可スベキ者ハ相當ノ年齡ニ達シ當該學年程度ニ於ケル學力考查ニ合格シタル者トス
- 但シ第五學年へハ新ニ入學スルヲ許サズ
- 五、他ノ中學校在學中ニシテ本校ニ轉學ヲ願出ヅル者アル時ハ本校ニ於テ缺員アル場合ニ限り相當學年へ轉入ヲ許可スベシ

花園中學校學則

- 學校長ノ轉學照會ヲ要シ必要ト認ムル時ハ本人ニツキ學科考查ヲ行フコトアルベシ
- 第八條 入學志願者ハ入學願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)及ビ入學考查料ヲ添へ出身小學校長ヲ經由シテ願出ヅベシ
- 但シ出身小學校長ハ入學願書進達ノ際當該兒童ノ小學校ニ於ケル最終ニケ年ノ學業成績身體ノ狀況、特性其他必要ナル事項ニ付詳細調査シタル内申書ヲ付スルヲ要ス
- 第九條 入學ヲ許可セラレタルモノハ直ニ保證人ヲ定メ在學證書(第三號書式)ニ戶籍謄本ヲ添へ差出スベシ
- 第十條 修業半途ニシテ漫リニ休學退學又ハ轉學スルヲ許サズ
- 但シ病氣其他已ムヲ得ザル事故ニヨリ理由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ヅル時ハ(第四號書式)詮議ノ上許可スルコトアルベシ
- 第十一條 願ニ依リ退學シタルモノニシテ一ケ年以内ニ再入學ヲ願出ヅル時ハ詮議ノ上原級ニ編入スルコトアルベシ

ルベシ

第十二條 兵役ニ服スルモノハ其期間休學ヲ許可ス

第五章 成績査定及進級卒業

第十三條 成績ハ學業操作及ビ出缺ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十四條 學業成績ハ平常ノ學業成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

平常ノ成績ニ對シテハ評點ヲ附シ各學科目共百點ヲ以テ最高トス

第十五條 一學期間ニ於ケル各學科目ノ平常點ニヨリテ學期評點ヲ査定シ全學科目ノ學期評點ヲ平均セルモノヲ其學期ノ學業成績點トス

各學科目ノ三學期評點ヲ三除シタルモノヲ學年評點トシ全學科目ノ學年評點ヲ平均セルモノヲ以テ其學年ノ學業成績點トス

第十六條 一學年間ノ學業成績六十點以上ニシテ各學科目ノ評點四十點以上ナル者ヲ學年修了者トシ進級セシメ第五學年修了ヲ以テ卒業トシ卒業證書(第五號書式)ヲ授與ス

第十七條 操作査定ハ各學期末ニ於ケル職員ノ評議會ニ依リ之ヲ行ヒ甲、乙、丙、丁ノ四等ニ分ツ、學年末ニ於テ操作丁ナル者ハ進級セシメズ

第十八條 一學年間授業日數ノ三分ノ一以上缺席シタルモノハ學年修了者ト認メズ

但シ正當ノ事由アルモノハ評議ノ上進級又ハ卒業セシムルコトアルベシ

第十九條 入學志願者ハ入學考査料金參圓ヲ納付スベシ

第二十條 授業料ハ年額金五拾圓トシ左ノ如ク三學期ニ分チ始業日ヨリ十五日以内ニ必ラズ納付スベシ

第一學期 金拾八圓

第二學期 金拾八圓

第三學期 金拾四圓

學期中途ニ於テ入學スル場合ハ入學許可ノ日ヨリ十五日以内ニ必ラズ其學期分納額ヲ納付スベシ

第二十一條 學期中途ニ於テ休學、退學又ハ轉學ヲ願出ヅル場合ハ必ラズ其學期分納額ノ授業料ヲ納付スベシ

第廿二條 授業料ヲ怠納スル者ハ登校ヲ停止ス、怠納一ヶ月以上ニ及ブ者ハ除名ス、此場合ハ保證人代テ授業料納付ノ義務ヲ完了スルモノトス

第廿三條 如何ナル事由アルモ既納ノ入學考査料及授業料ハ之ヲ返付セズ

第廿四條 特別ノ事情アルモノニハ授業料ノ一部若シクハ全部ヲ免除スルコトアルベシ

第七章 賞 罰

第廿五條 生徒ノ賞罰ハ職員ノ評議會ヲ經テ之ヲ行フ

第廿六條 學力優等ナル者、品行方正ナル者及ビ一學年間精勤セル者ニハ賞狀ヲ授與ス

第廿七條 學則及ビ學則施行細則ヲ遵守セズ生徒タルノ本分ニ違背セル者ハ其情狀ニ依リ輕重ヲ査定シ、戒飭謹慎、停學、除名又ハ放校ニ處ス

第廿八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名又ハ放校ニ處ス

一、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

第八章 保 證 人

第廿九條 保證人ハ本校ト相俟チテ其生徒ノ監督保護ノ任ニ當リ且本人身上ニ關スル一切ノ責務ヲ有スルモノトス

第三十條 保證人ハ正副二人トス正保證人ハ生徒ノ父兄後見人又ハ其ニ相當スルモノニシテ副保證人ハ京都市内、又ハ本校ヨリ一里以内ニ居住シ一家計ヲ立ツル男子タルベシ、若シ正保證人ニシテ其責務ヲ盡シ能ハザル場合ニハ副保證人之ニ代ルベキモノトス

但シ正保證人ニシテ京都市内又ハ本校ヨリ一里以内ニ居住スル者タルトキハ副保證人ヲ要セズ

第卅一條 保證人ハ印鑑ヲ差出スベシ

但シ用紙ハ本校ヨリ交附ス

花園中學校學則

一、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、理由ノ如何ニ拘ハラズ引續キ一ケ年以上缺席シタル者

四、正當ノ理由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

五、出席常ナラザル者

第九章 保 證 人

第三十條 保證人ハ本校ト相俟チテ其生徒ノ監督保護ノ任ニ當リ且本人身上ニ關スル一切ノ責務ヲ有スルモノトス

第三十一條 保證人ハ正副二人トス正保證人ハ生徒ノ父兄後見人又ハ其ニ相當スルモノニシテ副保證人ハ京都市内、又ハ本校ヨリ一里以内ニ居住シ一家計ヲ立ツル男子タルベシ、若シ正保證人ニシテ其責務ヲ盡シ能ハザル場合ニハ副保證人之ニ代ルベキモノトス

但シ正保證人ニシテ京都市内又ハ本校ヨリ一里以内ニ居住スル者タルトキハ副保證人ヲ要セズ

第卅一條 保證人ハ印鑑ヲ差出スベシ

但シ用紙ハ本校ヨリ交附ス

花園中學校學則

一、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

第卅二條 保證人ハ其生徒ノ在學中ハ勿論學籍ヲ脱シタル後ト雖モ在學中ニ起リタル事件ニ關シテハ其責任ニ任ズベキモノトス

第卅三條 保證人ハ自己又ハ其生徒ノ身分ニ異動ヲ生ジタル時若シクハ轉居又ハ改印シタル時ハ直チニ届出ヅベシ

第卅四條 保證人ニシテ其責任ヲ盡スコト能ハザル事情發生シタル時ハ直ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ在學證書ヲ改ムベシ

但シ事故一時ニ止マル者ハ其期間ヲ定メ届出ノ上代人ヲ置クコトヲ得

第卅五條 保證人ハ其生徒ノ授業料其他ノ義務ニ關シテ學校ヨリ通知ヲ受ケタル時ハ五日以内ニ必ラズ之ヲ完了スベシ

第卅六條 保證人又ハ其代人ニシテ不適當ト認めタル時ハ學校ハ之ガ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第九章 寄 宿 舍

第卅七條 寄宿舍ハ適當ノ家庭ヨリ通學シ得ザル生徒ヲ

寄宿セシメ訓育スル所トス

第卅八條 寄宿舍ニ入ラントスル者ハ保證人連署ノ上願出ヅベシ(第六號書式)

第卅九條 學校長ニ於テ必要ト認めル時ハ生徒ニ入舍又ハ退舍ヲ命ズルコトアルベシ

第四十條 病氣其他已ムヲ得ザル事故ノ爲メ退舍セントスル者ハ其事由ヲ具申シ保證人連署ノ上願出ヅベシ

其他寄宿舍ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十章 職 制

第四十一條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 一名
- 主 幹 一名
- 幹 事 若干名
- 教務係、會計係、庶務係、圖書係
- 生徒監 一名
- 教 諭 若干名
- 舍 監 若干名
- 校 醫 若干名

第四十二條 學校長ハ本校ヲ統理經營ス其職務ノ主要左ノ如シ

- 一、職員ノ任免ニ關スル意見ヲ上申スルコト
- 二、學則ニ關スル施行細則ヲ設クルコト
- 三、施設會計ニ關スルコト
- 四、職員ヲ督勵統率スルコト
- 五、生徒ノ入退學進級卒業ニ關スルコト
- 六、生徒ノ賞罰ニ關スルコト

第四十三條 主幹ハ學校長ノ命ヲ承ケ學校經營ノ事務ヲ補佐シ學校長事故アル時ハ之ニ代リ其職務ヲ處理スベキモノトス其職務ノ主要左ノ如シ

- 一、每學年末ニ於テ其學年間ノ學事狀況ヲ調査シ學校長ニ申告スルコト
- 二、教務係ト協調シ次學年ノ施設ニ關スル意見ヲ學校長ニ申告スルコト
- 三、教務係ト協調シ次學年ノ教科書ヲ選定スルコト
- 四、其他本校經營上必要ト認めタル事項ニ關スル意見ヲ學校長ニ申告スルコト

花園中學校學則

第四十四條 幹事ハ學校長ノ指揮ニ從ヒ其經營事務ヲ補助シ會計庶務等ニ關スル諸般ノ事務ヲ分掌ス

第四十五條 生徒監ハ學校長ノ命ヲ稟ケ本校ノ内外ニ亘リテ生徒ヲ監督シ校風ノ振肅ヲ企劃シ常ニ生徒ノ學業及操行ノ向上ヲ圖ル

第四十六條 教諭ハ學校長ノ指揮ニ從ヒ授業ヲ擔任シ常ニ生徒ノ人格向上ニ努メ品性陶冶ヲ圖ル

第四十七條 舍監ハ學校長ノ指揮ニ從ヒ寄宿舍内ニ於ケル生徒訓育ノ任務ヲ掌ル

第四十八條 校醫ハ體格檢査及學校衛生ニ關スル責務ヲ遂行ス

第四十九條 職員ハ擔任職務ノ外總テ本校ノ教育方針ニ據リ生徒ノ品性ヲ向上セシムルコトニ努ムベシ

附 則

第五十條 本學則施行上必要ノ細則ハ學校長別ニ之ヲ定ム

第一號書式

入學願
 現住所 氏 年月日生
 右之者今般御校第何學年へ入學致サセ度候ニ付御考査ノ上御許可相成度別紙履歷書出身學校長内申書並ニ入學考査料相添へ此段願上候也
 年月日
 住所 右父兄(後見人、授業師) 氏 名
 花園中學校長氏名殿

第二號書式

履歷書
 氏名(振假名ヲ附スベシ) 年月日生
 本住所 氏 名
 種痘 賞學歴
 以上
 年月日 氏 名
 備考(但シ僧侶ニ限リ宗派及得度法階等ノ事項ヲ學歴ノ次ヘ記入スベシ)

第三號書式

在學證書
 參錢收入 印紙貼附 本人及保 證人消印
 私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御規則等堅ク相守ルベキハ勿論學業半途ニシテ漫リニ退學轉學等致間敷仍テ證書如斯候也
 年月日
 現住所 本籍 職業、何某何男又ハ弟 氏 名
 右何某今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御規則等堅ク相守ラセ候ハ勿論本人在學中ニ關スル

第四號書式(美濃野紙、楷書)

退學願
 第何學年何組 氏 名
 私儀今般何々ノ事由ニ依リ退學致度候間御許可被成下度保證人連署ヲ以テ此段願上候也
 年月日
 右本人 正保證人 副保證人 氏 氏 氏 名 名 名
 花園中學校長氏名殿
 備考(休學願、轉學願、退舍願等之ニ準ズ)

第五號書式

卒業證書
 道府縣 族籍 (僧籍) 氏 名
 右者本校規程ノ全課程ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス
 年月日 花園中學校長氏名 印
 校 印
 第何號

學資金其他一切ノ事件ハ御校ノ學籍ヲ脱シ候後タリトモ私(共)引受ケ其任ヲ盡スベク此段保證候也

花園中學校長氏名殿
 現住所 本籍 族籍、職業 正保證人 副保證人 氏 氏 氏 名 名 名
 生年月日 生年月日 生年月日

花園中學校學則

入 舍 願	第何學年何組	名
私儀今般入舍致度尤モ御許可ノ上ハ御舍則堅ク相守ルヘク候仍テ身元引受證相添保證人連署ヲ以テ此段願上候也	年月日	右本人 氏 名 [㊤] 生年月日
現住所	本籍	花園中學校長氏名殿
族籍、職業、本人トノ續柄	正保證人 氏 名 [㊤]	

身元引受證	現住所	本籍
右者今般入舍御許可相成候ニ就テハ在舍中本人ニ關スル一切ノ事件ハ總テ私ニ於テ引受ケ義務相欲間敷仍テ證書如斯候也	族籍、職業、本人トノ關係	花園中學校長氏名殿
年月日	現住所	(副)保證人 氏 名 [㊤]
	本籍	

●私設學林規則 (敕令第十四號)

第一條 本派私設學林ハ花園中學校ニ入學スルコト能ハサル者ヲ入學セシムル所トス

第二條 學林ヲ私設セントスルモノハ宗務本所ノ認可ヲ受クルト同時ニ私立學校令ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 前條ニ依リ設立認可ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舍、寄宿舎等ノ圖面ヲ添ヘ宗務本所ニ申請スヘシ

一、目的

二、名稱

三、位置

四、學則

五、經費及維持法

但第一、第二、第三、第五號及校地、校舍、寄宿舎ノ變更ハ宗務本所ニ届出ルト同時ニ監督官廳ニ開申シ第四號ノ變更ハ宗務本所ノ認可ヲ受クルト同時ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

ヲ添ヘテ宗務本所ニ申請スルト同時ニ監督官廳ニ申請スヘシ

第四條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一、修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項
- 二、學科課程、授業時間ニ關スル事項
- 三、試験ニ關スル事項
- 四、入學、退學ニ關スル事項
- 五、授業料、義財等ニ關スル事項
- 六、賞罰ニ關スル事項
- 七、寄宿舎ニ關スル事項
- 八、職名並ニ其職務ニ關スル事項

第五條 私設學林ニ於テハ一學級ニ一人以上ノ教員ヲ置クヘシ

第六條 私設學林ニ於テハ學林ヲ代表シテ校務ヲ掌理スル者又ハ教職員タル認可ヲ受ケントスルトキハ履歷書

私設學林規則

第七條 私設學林ニ於テハ左記事項ノ狀況ニ就キ每半年ニ調査シ前半期ハ七月十日、後半期ハ翌年一月十日限

- 一、現在學徒、學年及學級別員數
 - 二、當該學期ニ於ケル教職員ノ異動並ニ其他ノ情況
 - 三、學徒員數ノ増減及卒業ニ關スル狀況
- 第八條 私設學林ノ教職員ニシテ不適當ト認ムルトキハ宗務本所ハ其與ヘタル認可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第九條 私設學林ノ設備授業及其他ノ事項ニシテ不完全ナリト認ムルトキハ宗務本所ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 左ノ場合ニ於テハ宗務本所ハ私設學林ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

- 一、法令ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二、六ヶ月以上規定ノ授業ヲ爲サ、ルトキ
- 三、第九條ニ依リ宗務本所ノ爲シタル命令ヲ實行セサ

ルトキ
第十一條 第八條、第九條、第十條ニ定メタル制裁ヲ受ケタルトキハ當該學林關係者ハ其旨直ニ監督官廳ヘ開申スヘシ

第十二條 私設學林ニ於テハ初等學科ヲ修了サセル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス

補 則

第十三條 私設學林ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ本規則ノ規定ニ依ラシム

第十四條 本規則ニ依リ認可シタル私設學林ニ對シテハ宗務本所ハ毎年若干ノ補助金ヲ下附スルコトアルヘシ

●寄託學生規則 (教令第二十一號)

第一條 本派教育例ノ主旨ヲ認識シタル者ニシテ本派ニ寄託ヲ出願シタル各宗派僧侶ヲ花園中學校又ハ臨濟宗大學ヘ入學セシムルコトヲ得

第二條 各宗派ノ當事者ハ其入學僧侶ノ處分ヲ本派ニ委

任シ在學中ノ費用ヲ負擔スヘシ

第三條 寄託生ニ關スル事項ノ協定ハ自他兩派ノ委員ニ於テ締結ス
寄託生取扱細則ハ別ニ之ヲ定ム

●校費生留學生給費生規則

(教令第二十二號)

第一條 本規則ハ教育例第十三條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本派學校在學中ノ者ニシテ校費ノ支給ヲ受クル者ヲ校費生ト稱シ臨濟宗大學ヲ卒業後内地又ハ外國各學校ヘ留學ヲ命セラレタルモノヲ留學生ト稱シ教育例第九條第二號ニ依リ學費ヲ給與セラル、者ヲ給費生ト稱ス

第三條 校費生ハ當該學長ノ具狀ニ依リ宗務本所ニ於テ之ヲ許可確定シ留學生ハ教育例第九條第三號ニ該當スルモノニ就キ宗務本所之ヲ選抜シ給費生ハ同條第二號ニ該當スル者ニ就キ宗務本所之ヲ定ム

第四條 校費生留學生給費生ノ員數及之ニ支給スヘキ金額ハ其都度宗務本所ニ於テ之ヲ定ム

第五條 留學生ノ專攻スヘキ學科及其場所ハ宗務本所之ヲ指定ス但其修學期ハ大概一箇年トス學業ノ科目ニ依リ之ヲ伸長スルコトアルヘシ又修業一定ノ年限アルモノハ其年限ニ依ル

第六條 宗務本所ハ其適當ト認メタル者ヲ選任シ留學生給費生ノ監督ヲ囑託スルコトアルヘシ

第七條 前條監督ヲ置キタル場合ニ於テハ留學生給費生ヨリ宗務本所ヘ提出スヘキ文書ハ其監督ヲ經由スヘシ

第八條 留學生給費生ノ誓約書ハ保證人二名以上ノ連署ヲ要シ所屬宗務所長ノ證明ヲ得テ宗務本所ヘ差出スヘシ保證人二名ノ中一名ハ法類ノ者一名ハ親族系ノ者トス

第九條 留學生、給費生ハ毎年二回(一月、七月各末日)其學業程度ニ關スル報告書ヲ宗務本所ヘ差出スヘシ

第十條 留學生給費生ハ成業ノ後受領シタル學業證書及修業中ノ始末書ヲ宗務本所ヘ差出スヘシ但學業證書ハ

校費生留學生給費生規則

檢閲ノ上本人ヘ返附スヘシ

第十一條 留學生、給費生ニシテ疾病又ハ止ヲ得サル事故ノ爲臨時休業ヲ願出タル時ハ特ニ之ヲ許可シ其修學期ヲ延長スルコトアルヘシ但休學期間ハ一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 校費生、留學生、給費生ニシテ操行不良又ハ成業ノ見込ナキモノト認ムルトキハ其許可ヲ取消シ給費ヲ廢止ス

第十三條 校費生、留學生、給費生ハ成業ノ後左ノ期間内宗務本所指定ノ職務ニ従事スル義務ヲ有ス
一、校費生、給費生ハ其支給ヲ受ケタル年數ニ應シ五ケ年以内二ケ年以上

二、留學生ハ其支給ヲ受ケタル年數ニ等シキ期間
三、中途退學シタルモノハ前二項ノ一ニ準ス

第十四條 疾病又ハ止ヲ得サル事故ニ依リ前條ノ義務ヲ遂行スルコト能ハサル者ハ其事由ヲ具シテ服務ノ猶豫又ハ免除ヲ宗務本所ニ請願スルコトヲ得

第十五條 前條ノ義務アル者更ニ別種ノ研究ニ従事シ又

ハ高等ノ學校ニ入學スルカ爲ニ其服務ノ猶豫ヲ請願スル者ニ對シ宗務本所ハ事由調査ノ上之ヲ許可ス

第十六條 左記ノ一ニ該當スル者アルトキハ修學中支給シタル學資ノ全部又ハ幾分ヲ本人若クハ保證人ヨリ償還セシム

- 一、第十二條ニ依リ其許可ヲ取消サレタル者
- 二、校費生、留學生、給費生ニシテ校則ニ依リ退學又ハ除名セラレタル者
- 三、第十三條規定ノ義務ヲ盡サ、ル者但第十四條ニ依リ宗務本所ノ許可ヲ得タルモノハ此限りニアラス
- 四、第十三條規定ノ職務從事中懲戒ニ依リ其職ヲ免セラレタル者

●宗務所長會議例 (法則第六十二號)

- 第一條 本例ハ綱目第四十條ニ基キ之ヲ制定ス
- 第二條 宗務所長會議ハ宗務本所ニ於テ之ヲ開ク
- 第三條 宗務所長會議ハ必要アル場合ニ之ヲ召集ス
- 第四條 宗務所長會議ハ管長ノ諮問ニ應シ法則敎令ノ執行ニ關スル方法其他敎區ノ事務執行上ニ於テ必要ト認ムル案件ヲ審議ス
- 第五條 宗務本所ハ召集期日ヲ定メ少クトモ二ヶ月以前ニ諮問案ヲ添付シテ宗務所長ニ通牒スヘシ
- 第六條 宗務所長ニ於テ前項ノ通牒ヲ受ケタル時ハ直ニ宗務支所長會ヲ召集シテ該諮問案ニ就テ講究スヘシ
- 第七條 宗務所長ハ此ノ會議ニ於テ敎區ノ事務執行ニ關スル建議案ヲ提出スルコトヲ得

第七條 宗務所長會議ニ會長一名ヲ置キ部長中ヨリ管長之ヲ命ス

第八條 會議ノ議決方法ハ宗會例ヲ準用ス

第九條 宗務所長會議ハ三日ヲ會期トス但時宜ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

●參事會例 (法則第七十四號)

- 第一條 參事會ノ員數ハ正員五名補員五名トス補員ハ正員ノ關ケタル場合ニ之ヲ補充スルモノトス
- 第二條 參事會員ハ宗會ニ於テ宗會議員中ヨリ投票ニ依リ之ヲ選舉ス
- 第三條 選舉ハ正員補員各別ニ之ヲ行ヒ先ヅ正員ヲ選舉シ次ニ補員ヲ選舉ス
- 第四條 投票ハ一人一票ニ限リ單記トス
- 第五條 有効投票ノ多數ヲ得タルモノヲ高點者ヨリ順次五名ヲ當選トス投票同數ナルトキハ法薦ノ長ヲ取リ同薦ノモノハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 參事會正員ニ缺員ヲ生シタル場合ハ補員ノ高點者ヨリ得票順ニヨリ順次ニ之ヲ補充ス補充ニ依リ就任シタル正員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第七條 參事會ニハ正員ノ互選ヲ以テ選出シタル會長副會長各一名ヲ置ク

第八條 會長ハ閉會中參事會ヲ代表スルコトヲ得會長事故アルトキ又ハ缺職シタルトキハ副會長之ヲ代理ス

第九條 參事會員ノ任期ハ其ノ選舉セラレタル宗會ヨリ次期宗會ニ於テ後任參事會員ノ選舉セラレ、迄トス

但シ任期滿限ノ後ト雖モ後任者ノ確定スルマテ其ノ任期ヲ繼續ス

第十條 參事會ハ參事會員三名以上出席スルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ズ

第十一條 宗務本所ハ毎年參月參事會ヲ召集ス

第十二條 臨時緊急ノ必要アル場合ニハ臨時會ヲ召集スルコトアルヘシ

第十三條 參事會ハ二日ヲ以テ會期トス必要アル場合ニハ宣示ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ宣示ニ依ル

第十四條 管長ハ參事會ノ議決ニシテ不當ト認メタルトキハ閉會若クハ停會ヲ命スルコトヲ得

第十五條 參事會ハ其ノ決議シタル事項ニ付キ宗務總長ト意見ヲ異ニシタル場合ニハ管長ニ稟請シテ決裁ヲ受クルコトヲ得

第十六條 參事會ハ宗會ニ於テ議決セシ法則及其ノ他重要ナル事件ノ施行ニ付管長又ハ宗務本所ノ諮詢ニ應ス

第十七條 宗務本所歳入、歳出、豫算超過又ハ豫算外ノ支出ガ其ノ年度豫算額ノ十分ノ一ヲ超過スル場合ニハ參事會ハ之ガ承認ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 參事會ハ必要アル場合ニハ宗務本所各部ノ帳簿及金員、物件ヲ調査スルコトヲ得

第十九條 參事會ハ既往承認事件ノ要領及決議事項ノ顛末ヲ宗會ニ於テ報告スヘシ

●宗會例 (法則第八號)

第一章 召集、成立及開會

第一條 宗會召集ノ宣示ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ一ヶ月以前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 宗會議員ハ召集ノ宣示ニ指定シタル期日ニ於テ議場ニ出頭スヘシ

第三條 議長副議長ハ定期宗會毎ニ各一名ツ、議員ノ中ヨリ各別ニ選舉シ最多數ノ投票ヲ得タルモノヲ管長ニ上申シ任命ヲ請フヘシ但同數ノ時ハ法薦ノ長ヲ採リ同薦ノ時ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ議長副議長ノ任命セラル、マテハ監正部長ニ於テ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 議員ヲ左ノ五組ニ分チ組毎ニ互選ヲ以テ組長ヲ置キ諸傳達ノ事ヲ司ラシム

第一組、第一區、第二區、第三區、第四區、第七區

第二十條 參事會ノ經費ハ宗務本所之ヲ支出ス
第二十一條 本例ニ明文ナクシテ他ノ法則教令ニ於テ參事會ニ關スル規定アルモノハ其ノ法則教令ニ從フ

附 則

本例ノ施行ニ依リ法則第六十一號參事會例ハ之ヲ廢止ス

本例施行ノ際現ニ參事會員ノ職ニ在ル者ハ本例ニ依リ任命セラレタル者ト見做ス但シ其ノ任期ハ舊參事會例ニ依リ任命セラレタル者ノ殘任期間トス

第二組 第五區、第六區、第八區、第九區、第十區、第十一區

第三組 第十三區、第十五區、第十六區

第四組 第十二區、第十四區、第十七區、第十八區、第二十區

第五組 第十九區、第二十一區、第二十二區、第二十三區、第二十四區

第五條 議長、副議長ノ任命終リタルトキハ宗務總長ヨリ管長ニ稟啓シテ開會ノ式ヲ舉クヘシ

第二章 議長、副議長及書記

第六條 議長、副議長ハ各一名トス

第七條 議長、副議長ノ任期ハ次期定期宗會開會迄トス

第八條 議長、副議長辭職又ハ其他ノ事故ニ依リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍ホ前任者ノ任期ニ依ル

第九條 議長ハ宗會ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ

外ニ對シテ宗會ヲ代表ス

第十條 議長ハ閉會ノ間ニ於テ仍ホ宗會ノ事務ヲ指揮ス

第十一條 議長ハ委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但表決ノ數ニ與カラス

第十二條 議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十三條 議長、副議長共ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシム

第十四條 書記ハ議事録及文書案ヲ作り其他ノ事務ヲ掌理ス

第三章 宗會ノ經費

第十五條 宗會ノ經費ハ宗務本所之ヲ支出ス

第十六條 召集ニ應シタル議員ハ規則ニ從ヒ左ノ諸費ヲ受クルコトヲ得

旅費 日當 滞在費

第四章 委員

第十七條 宗會ノ委員ハ常任委員及特別委員ノ二

種トス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分テ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各組ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其任ニ在ル者トス特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ宗會ノ選舉ヲ以テ特ニ付托ヲナスモノトス

第十八條 常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第十九條 宗會ハ成立ノ日直ニ左ノ常任委員ヲ選舉スヘシ

豫算委員 若干名

建議請願委員 五名

警誡委員 五名

第二十條 常任委員會及特別委員會ハ其委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 委員會ハ議員ニ限リ傍聽ヲ許ス但委

員會ノ決議ニ依リ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十二條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ宗會ニ報告スヘシ

第二十三條 委員會ハ宗會ノ議事ニ差支ナキ時間ヲ以テ之ヲ開設ス

第二十四條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ各委員長ハ其主任ノ宗務本所委員ニ通牒スヘシ

第二十五條 宗務本所委員及宗務本所職員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シテ發言スルコトヲ得但表決ノ數ニ與カラス

第二十六條 委員ノ選舉ハ宗會ノ公選ト議長ノ任命トノ二法トシ其都度議長ハ宗會ニ問フテ之ヲ定ム

第二十七條 委員ニ選舉セラレタル者ハ辭避スルコトヲ得ス

第二十八條 建議案ヲ提出シタル者ハ委員會ニ列

シ其主意ヲ辯明スルコトヲ得但表決ノ數ニ與カ
ラス

第五章 會 議

第二十九條 議長ハ議事日程ヲ定メ豫メ宗會ニ報
告ス議事日程ハ宗務本所ヨリ提出シタル議案ヲ
先ニスヘシ但他ノ議事緊要ノ場合ニ於テ宗務本
所ノ同意ヲ得タル時ハ此限ニアラス

第三十條 法則ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決ス
ヘシ但宗務本所ノ要求若クハ議員三名以上ノ要
求ニ依リ宗會ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多
數ヲ以テ可決シタル時ハ三讀會ノ順序ヲ省略ス
ルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ヲ發議シ及議場ニ於テ議案
ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二名以上ノ贊
成アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

第三十二條 議員提出案ノ順序ハ議長之ヲ定メ會
議ニ付スル前宗務本所ニ照會スヘシ

九四

第三十三條 宗務本所ハ何時タリトモ既ニ提出シ
タル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得議員ノ
提出案未タ議題トナラサル場合亦同シ

第三十四條 議決シタル議案ハ議長ヨリ宗務總長
ヲ經由シテ之ヲ管長ニ稟啓スヘシ

第六章 開場及閉場

第三十五條 議場ハ午前八時ニ開キ午後四時ニ閉
ツ但議長ノ意見又ハ宗務本所ノ請求ニ依リ時限
ヲ伸縮スルコトヲ得

第三十六條 開場及閉場ハ擊柝ヲ以テ之ヲ報ス

第三十七條 議事開始ニ先タチ立誦大悲呪一卷、
大師眞前ニ回向シ閉場ノ時四句誓願三遍了テ退
場スヘシ

第七章 停會及閉會

第三十八條 管長ハ何時タリトモ二日以内ニ於テ
宗會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

宗會停會ノ後再ヒ開會スルトキハ前會ノ議事ヲ

繼續スヘシ

第三十九條 宗會ノ閉會ハ宣示ヲ以テ之ヲ舉行ス

第八章 祕 密 會 議

第四十條 宗會ハ左ノ場合ニ於テ祕密會トナスコ
トヲ得

一、議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ宗會之
ヲ可決シタルトキ

二、宗務本所ヨリ請求ヲ受ケタルトキ

第四十一條 議長又ハ議員三名以上ヨリ祕密會議
ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セ
シメ討論ヲ用キスシテ可否ヲ決スヘシ

第九章 發 言 順 序

第四十二條 宗會ノ議事ハ第一讀會、第二讀會、

第三讀會ニ區別ス

第一讀會ニ於テハ議長ヨリ議案ヲ各議員ニ紹介
シ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシム此際宗務本所提出
案ハ宗務本所委員ヨリ、議員提出案ハ其議案提

出者ヨリ議題ノ要領ヲ説明シ議員ノ質問アレハ

之ニ答フ議長ニ於テ質問終結ト認ムルトキハ議
案ノ總體ニ付討論ヲ許シ討論終結ト認ムルトキ

ハ議長ヨリ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ議場ニ
問ヒ可決シタルトキハ第二讀會ノ時日ヲ報告ス
ヘシ

第二讀會ニ於テハ第一讀會ヲ通過シタル議案ヲ
逐條審議スヘシ

動議及修正說ハ二名以上ノ贊成ヲ以テ成立ス

逐條審議終結ト認ムルトキハ議長ハ同案ノ第三
讀會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ議場ニ問ヒ可決シタル
トキハ第三讀會ノ時日ヲ報告スヘシ

第三讀會ニ於テハ第二讀會ヲ通過シタル議案ヲ
覆議スヘシ動議及修正說ハ五名以上ノ贊成ヲ得
ルニ非サレハ成立セス

第四十三條 議員議場ニ在リテハ姓名ヲ稱ヘス席
次ノ番號ヲ用フヘシ

第十章 議案修正

第五十一條 議案第二讀會、第三讀會ニ於テ修正
說數派ニ分レ原案ト共ニ消滅シタルトキハ議長
ハ特ニ委員ヲシテ適宜ノ修正案ヲ作ラシメ更ニ
之ヲ會議ニ付スヘシ

第五十二條 修正說ハ原案ニ先タチ可否ヲ決スル
ヲ法トス

第五十三條 豫算案ニ就キ議場ニ於テ動議ヲ發ス
ル者ハ五名以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲
スコトヲ得ス

第十一章 議事表決

第五十四條 宗會ノ議事ハ過半數ノ同意ヲ以テ之
ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第五十五條 可否ヲ決スルノ法ハ記名投票、無記
名投票及起立ノ三種トシ議長便宜ニ之ヲ擇ム

第五十六條 出席議員ハ總テ表決ノ數ニ漏ル、コ
トヲ得ス

第四十四條 發言セントスル者ハ起立シテ議長ヲ

呼ビ自席ノ番號ヲ稱ヘ議長ノ許可ヲ得テ發言ス
ヘシ討論問答總テ各員直接ニ應酬スヘカラス

第四十五條 同一事件ニ付再度發言スルコトヲ得
ス但初說ヲ補ヒ又ハ其誤解ヲ辯明シ及他ノ質問
ニ答フルハ此限ニ非ス

第四十六條 一議題未タ決セサルニ他ノ事件ニ移
ルヘカラス

第四十七條 發言中議長ヨリ無用ノ言論ト認メラ
レ注意ヲ受ケタルトキハ其發言ヲ中止シ又ハ取
消スヘシ

第四十八條 辯論長キニ涉ルモノハ演壇ニ登リテ
之ヲ述フヘシ

第四十九條 辯論未タ畢ラサルモ論旨既ニ盡キタ
リト認ムルトキハ議長ハ之ヲ表決ニ付スヘシ

第五十條 議場ニ於ケル辯論ハ總テ人身上ノ毀譽
褒貶ニ涉ルコトヲ禁ス

第十二章 小會 議

第五十七條 小會議ハ議長ノ見込又ハ議員ノ請求
ニ依リ時間ヲ限リ之ヲ開設ス

第五十八條 小會議ハ副議長之ヲ整理シ其結果ヲ
議長ニ報告スヘシ

第五十九條 小會議ハ傍聽ヲ禁ス

第十三章 宗務本所職員及宗務本所委員

第六十條 宗務本所職員及宗務本所委員ノ發言ハ
何時タリトモ之ヲ許スヘシ但之カ爲メニ議員ノ
演述ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第六十一條 宗會ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルト
キハ宗務本所職員及宗務本所委員ハ何時タリト
モ該委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第六十二條 委員會ハ議長ヲ經由シテ宗務本所委
員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第六十三條 宗務本所職員及宗務本所委員ハ宗會
ノ議事ニ於テ總テ表決ノ數ニ與カラス

第六十四條 議事日程及議事ニ關スル報告ハ議員

ニ分配スルト同時ニ之ヲ宗務本所ニ送付スヘシ

第六十五條 宗務本所委員ハ議事整理ノ爲メ議長
ノ顧問ヲ受ケ又ハ議長ヲ幫助スルコトアルヘシ

第十四章 質問

第六十六條 議員ハ宗務本所ニ對シテ質問ヲ爲サ
ントスルトキハ五名以上ノ賛成者アルヲ要ス

質問ハ總テ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ
連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第六十七條 質問主意書ハ議長之ヲ宗務本所ニ轉
送シ宗務本所職員ノ答辯ヲ求ムヘシ若シ答辯ヲ
爲サ、ルトキハ議長ヨリ其理由ヲ明示スヘシ

第六十八條 宗務本所職員ノ答辯ニ對シテハ議員
建議ノ動議ヲ起スコトヲ得

第十五章、上申、建議及請願

第六十九條 宗會ヨリ管長ニ上申スルコトアルト
キハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ相見ヲ請ヒ之

ヲ奉呈スルコトヲ得

建議ハ文書ヲ以テ宗務本所ニ提出スヘシ

第七十條 宗會ニ於テ上申又ハ建議ノ動議ハ五名以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第七十一條 本派僧侶ヨリ宗會ニ提出スル建言及請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議長ニ差出スヘシ

第七十二條 建言及請願書ハ議長ニ於テ請願委員ニ付シテ之ヲ審査セシム

委員請願書ヲ以テ規程ニ適ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第七十三條 請願委員ノ要求アルトキハ議長ハ其事件ヲ議事ニ付スヘシ

第七十四條 宗會ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ議長ハ之ニ添書ヲ付シ其請願書ヲ宗務本所ニ送付シ事宜ニ依リ採否ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第七十五條 左記各號ノ一ニ該當スル請願書ハ宗會之ヲ受クルコトヲ得ス

- 一、本派綱目ヲ變更スルノ趣意ヲ含ムモノ
- 二、請願ノ名義又ハ其體式ニ違フモノ
- 三、管長ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ宗務本所又ハ宗會ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キタルモノ

第十六章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 議員ニシテ選舉例ニ記載シタル被選資格ヲ失ヒタルトキハ退職者ト見做ス

第七十七條 宗會ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十八條 議員其資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ宗會ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但自身ノ資格審査ニ關スル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其表決ニ與カルコトヲ得ス

第十七章 請假、辭職及補闕

第七十九條 議長ハ二日ニ超エサル議員ノ闕席ヲ

許可スルコトヲ得但請假ハ宗會ニ問テ之ヲ決ス期限ナキモノハ之ヲ許スコトヲ得ス

第八十條 議員ハ正當ノ理由ヲ具シ議長ニ届出テスシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十一條 宗會ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十二條 何等ノ事由ニ拘ハラズ議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ宗務本所ニ通牒シ議員ノ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十八章 紀律及傍聽人取締

第八十三條 會議中議員本例ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長之ヲ警告シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日會議ノ畢ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十四條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議

長ハ當日ノ會議ヲ中止スルコトヲ得

第八十五條 傍聽人ハ左ノ者ニ限リ之ヲ許可ス但事宜ニ依リ其員數ヲ制限シ又ハ之ヲ禁スルコトアルヘシ

一、本派僧侶

二、本派檀信徒ニシテ議員ノ紹介アルモノ

第八十六條 傍聽人ハ名刺ヲ書記ニ呈シ許可ヲ受クヘシ

第八十七條 傍聽人ハ傍聽席ノ外猥リニ他ニ出入スヘカラス

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ストキモ亦同シ

第十九章 議員 警誠

第八十八條 宗會ハ議員ニ對シ警誠ノ權ヲ有ス

第八十九條 議員中本例ニ違ヒ他ノ忠告ヲ容レズ議長ノ警告ヲ聽カスシテ宗會ノ體面ヲ汚シ議場

ノ秩序ヲ紊ルノ行爲ヲ爲ストキハ議長ハ警誠委員ニ付シテ審査セシメ其報告ヲ待テ警誠ヲ執行ス

第九十條 警誠ハ宗會ノ表決ヲ要セス

第九十一條 警誠ヲ分テ左記四項トシ行爲ノ輕重ニ從ヒ議長之ヲ適用ス

一、譴 誡

議場ニ於テ之ヲ面責シ謝辭ヲ述ヘシム

二、停 席

時日ヲ限リ議場ノ出頭ヲ停止ス但日數二日ヲ踰ユヘカラス

三、自 損

告諭シテ自ラ職ヲ辭セシム

四、除 名

除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ決議ヲ要ス

第九十二條 宗會ニ於テ受ケタル警誠ニ對シテハ

抗告上訴スルコトヲ許サス

第九十三條 宗會ニ於テ議員ヲ警誠シタル時ハ其

顛末ヲ管長ニ稟啓スヘシ

第九十四條 議員ヲ自損又ハ除名ノ警誠ニ付シタルトキハ議長ハ宗務本所へ通牒シ該議員選舉區

ニ對シ補闕選舉ノ執行ヲ求ム

●宗會議員選舉例 (法則第七十五號)

第一章 選舉ニ關スル區域

第一條 宗會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス
選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 投票區ハ部ノ管轄區域ニ依ル但シ特別ノ事情アリト認ムルトキハ教令ノ定ムル所ニ依リ數部ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ得

第三條 開票區ハ選舉區ノ管轄區域ニ依ル

第四條 教區又ハ部ノ區域ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第五條 本派寺院住職ニシテ前堂職以上ノ法階ヲ有スル男僧ハ現任職地ノ選舉區内ニ於テ選舉權ヲ有ス

宗會議員選舉例

第六條 前條ニ該當スル者ニシテ年齡滿三十年以上ノ者ハ現任職地ノ選舉區内ニ於テ被選舉權ヲ有ス

第七條 左ニ掲クル者ハ選舉權ヲ有セス
一、懲戒例ニ依リ停權以上ノ處分ヲ受ケ未タ復權セサル者

二、刑事ノ被告人トナリ未決中ノ者

三、選舉人名簿調製期日ニ於テ宗費ノ滯納アル者

四、兼務住職及副住職

第八條 左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス但シ第一號乃至第四號ニ該當スル者ニシテ選舉期日發布ノ日ヨリ十日以内ニ宗務本所ニ辭職ヲ願出テ

タル者ハ此ノ限ニ在ラス

一、宗務總長、部長及所員

二、宗務所長、宗務支所長及所員

- 三、本派専門道場師家
- 四、本派公立及公認學校教職員
- 五、前條各號ニ該當スルモノ

第三章 選舉人名簿

第九條 宗務本所ハ毎年十月二十日現在ニ依リ第五條ニ該當スル者ノ選舉資格ヲ調査シテ選舉人名簿ヲ調製シ十一月五日ヨリ五日間以内ニ宗務所長及宗務支所長ニ送附スベシ

選舉人名簿ハ教區並ニ部ニ分チ選舉人ノ氏名、寺院名及其ノ臺帳番號等ヲ記載スヘシ

第十條 宗務支所長ハ選舉人名簿受領ノ日ヨリ十五日間宗務支所ニ於テ之ヲ縦覽ニ供スヘシ

宗務支所長選舉人名簿ヲ受領シタルトキハ遲滞ナク縦覽期間ヲ部内ニ通知スヘシ

第十一條 選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ選舉人ハ理由書及證據ヲ具ヘ其ノ修正ヲ宗務本所或ハ宗務支所ニ申立ツルコトヲ得

宗務支所ニ於テ前項ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク此ノ旨ヲ宗務本所ヘ進達スヘシ

縦覽期間ヲ經過シタルトキハ第一項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 宗務本所ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ宗務所、宗務支所及申立人ヘ通知スヘシ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ

宗務所、宗務支所ニ於テ前項修正ノ通知ニ接シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修正スヘシ

第十三條 前條ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ宗務本所ヘ再審査ヲ申立ツルコトヲ得

第十四條 宗務本所ニ於テ前條再審査ノ申立ヲ受

ケタルトキハ更ニ其ノ理由ヲ再審シ之ヲ決定スヘシ

第十二條ノ規定ハ前項ニ之ヲ準用ス

第十五條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス但シ前條宗務本所ノ決定ニ依ル修正ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人名簿ハ次年ノ十二月十九日マテ之ヲ据置クヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ依リ必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

前項選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覽確定ニ關スル期間等ハ宗務本所ヨリ之ヲ普告ス

第四章 投票用紙

第十六條 投票用紙ニハ選舉人ノ住職寺院ニ對應シタル臺帳番號ヲ附スヘシ

第十七條 宗務本所ハ投票用紙ヲ選舉期日發布ト同時ニ投票管理人ニ送附スヘシ

宗會議員選舉例

第十八條 投票管理人ハ選舉人ニ對應シタル投票用紙ヲ選舉期日前十五日以内、前八日迄ニ選舉人ニ交附スヘシ

第十九條 投票用紙ノ交附ヲ受ケタル選舉人ハ該用紙ヲ彼此流用シ又ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

第五章 選舉、投票及投票所

第二十條 總選舉ハ議員ノ任期終了ノ日ヨリ三十日前ニ之ヲ行フ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ三日以内ニ限り之ヲ延長シ又ハ短縮スルコトヲ得

宗會解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選舉ハ解散ノ日ヨリ四十日以上五十日以内ニ之ヲ行フ

總選舉ノ期日ハ宣示ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ發布ス

第二十一條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ投票ハ一人一票ニ限リ單記記名トス

第二十二條 宗務支所長ハ投票管理人トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス但シ第二條但シ書ノ場合ニ於テハ合併セラレタル部ノ宗務支所長ハ投票管理人タルコトヲ得ス

第二十三條 投票所ハ宗務支所ニ之ヲ設ク

第二十四條 投票管理人ハ選舉ノ宣示ニ接シタル日ヨリ七日以内ニ投票所及其ノ期日ヲ該投票區ノ選舉人へ通告スヘシ

第二十五條 投票所ハ午前八時ニ開キ午後五時ニ閉ツ

第二十六條 議員候補者又ハ推薦人ハ其ノ選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ五日前迄ニ投票管理人ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出タル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ
前項ノ規定ニ依ル投票立會人二人ニ達セサルト

キ若クハ二人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人トシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ二人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後二人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理人ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ二人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ投票立會人ヲ選任スルコト能ハス若ハ著シク困難ナルトキハ投票管理人ハ部内ニ於テ第五條ニ該當スル者ノ中ヨリ投票立會人ヲ選任スルコトヲ得
投票管理人ハ正當ノ理由ナクシテ投票立會人ヲ解任スルコトヲ得ス
第二十七條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ至

リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲナスヘシ

第二十八條 自ラ投票所ニ出頭爲シ難キ選舉人ハ書留郵便ヲ以テ投票ヲ投票所ニ郵送スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第二十五條所定ノ閉所時間迄ニ到達シタルモノヲ以テ有効トス

第二十九條 選舉人名簿ニ登録セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十條 選舉人名簿ニ登録セラレタル者選舉人名簿ニ登録セラル、コトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

第三十一條 投票管理人ハ如何ナル理由アルモ一旦投票ヲ受理シタル後之ヲ選舉人へ還附スルコトヲ得ス

第三十二條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理人ハ其ノ旨ヲ告ケ投票所ニ在ル選舉人ノ投票結了スルヲ待テテ投票函ヲ閉鎖スヘ

宗會議員選舉例

シ

投票函閉鎖後ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 投票區内選舉人全部ノ投票ヲ了リタルトキハ第二十五條ノ規定ニ拘ラス投票管理人ハ其ノ旨ヲ告ケ投票所ヲ閉鎖スルコトヲ得

第三十四條 投票管理人ハ投票録二通ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ一通ヲ開票管理人へ進達シ一通ハ之ヲ議員ノ任期間保存スヘシ

第三十五條 投票管理人ハ投票函及投票録一通ヲ密封シ管理人及立會人封印ノ上投票ノ翌日迄ニ之ヲ開票管理人ニ本人持參シ又ハ書留郵便ヲ以テ發送スヘシ

第三十六條 選舉人ハ該選舉區ノ投票所ニ就キ參觀席ニ於テ投票所ノ參觀ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 投票所ニ於テ喧騒ニ涉リ秩序ヲ紊シ又ハ投票ニ關スル勸誘等ヲ爲ス者アリタルトキ

ハ投票管理人ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ
投票所外ニ退出セシムヘシ
前項ノ規定ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタ
ル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票
管理人ハ投票所ノ秩序ヲ紊ル虞ナシト認ムル場
合ニ於テ投票ヲナサシムルコトヲ妨ケス

第六章 開票及開票所

第三十八條 開票管理人ハ其ノ開票區内ノ宗務所
長之ニ當リ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

但シ一選舉區ニシテ數教區ニ亘ルトキハ宗務本
所ハ宗務所長中ニ就キ開票管理人ヲ指定スヘシ
第三十九條 開票所ハ當該開票管理人所在ノ宗務
所ニ之ヲ設ク

第四十條 開票ハ選舉期日後七日以内ニ之ヲ行
フヘシ開票管理人ハ豫メ開票ノ場所日時ヲ選舉
區内ノ選舉人ニ通告スヘシ

第四十一條 第二十六條ノ規定ハ開票立會人ニ之

ヲ準用ス

第四十二條 開票管理人ハ開票期日開票所ニ於テ
開票立會人立會ノ上投票録ヲ開絨シ投票函ヲ開
キ投票區毎ニ投票録ト對照シテ投票ヲ點檢計算
スヘシ

第四十三條 選舉人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參
觀ヲ求ムルコトヲ得

第四十四條 投票ノ効力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽
キ開票管理人ノ之ヲ決定スヘシ

第四十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一、成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二、議員候補者ニアラサル者ノ氏名ヲ記載シタ
ルモノ

三、一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記
載シタルモノ

四、被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタ
ルモノ

五、議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ認知シ
難キモノ

六、選舉人ノ無印又ハ代印ノモノ

七、選舉人ノ氏名ヲ遺脱セシモノ

八、成規ノ事項以外ノ他事ヲ記入シタルモノ但
シ身分敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限
ニ在ラス

九、自選シタルモノ

第四十六條 投票ハ有効無効ヲ區別シ開票管理人
立會人ト共ニ密封シ一ケ年間開票管理人タル宗
務所長之ヲ保存スヘシ

第四十七條 開票管理人ハ開票録ヲ作り開票ニ關
スル顛末ヲ記載シ開票立會人ト共ニ署名捺印シ
投票録ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ
第四十八條 開票所ノ取締ニ就テハ第三十七條ノ
規定ヲ準用ス

第七章 選舉會

宗會議員選舉例

ヲ準用ス

第四十二條 開票管理人ハ開票期日開票所ニ於テ
開票立會人立會ノ上投票録ヲ開絨シ投票函ヲ開
キ投票區毎ニ投票録ト對照シテ投票ヲ點檢計算
スヘシ

第四十三條 選舉人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參
觀ヲ求ムルコトヲ得

第四十四條 投票ノ効力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽
キ開票管理人ノ之ヲ決定スヘシ

第四十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一、成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二、議員候補者ニアラサル者ノ氏名ヲ記載シタ
ルモノ

三、一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記
載シタルモノ

四、被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタ
ルモノ

第四十九條 選舉會ニ於テハ第三十八條所定ノ開
票管理人ヲ選舉長トス選舉長ハ選舉會ニ關スル
事務ヲ擔任ス

第五十條 選舉會場ニ關シテハ第三十九條ノ規
定ヲ準用ス

第五十一條 選舉會ハ開票終了ニ引續キ之ヲ開ク

第五十二條 開票立會人タリシモノヲ以テ選舉立
會人ト爲シ第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第五十三條 選舉長ハ選舉立會人立會ノ上開票録
ニ就キ當選人及當選人ト爲リ得ル次點者ノ順位
ヲ定ムヘシ

第五十四條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムル
コトヲ得

第五十五條 選舉長ハ選舉録二通ヲ作り選舉會ニ
關スル顛末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ署名捺印
シ一通ヲ宗務本所ヘ進達シ一通ハ之ヲ議員ノ任
期間保存スヘシ

第五十六條 選舉會場ノ取締ニ就キテハ第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第八章 議員候補者及當選人

第五十七條 議員候補者タラントスル者ハ選舉期日ノ發布アリタル日ヨリ選舉期日前十五日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サムトスルトキハ前項ノ期間内ニ其ノ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ期間内ニ届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選舉ノ期日ノ前日迄議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者ハ選舉長ニ届出ヲ爲スニアラサレハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

議員候補者死亡シタルトキハ法類總代ハ戶籍抄本或ハ之ニ代ルヘキ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ
前五項ノ届出アリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ各投票管理人ニ通知シ管理人ハ之ヲ區内選舉人へ通知スヘシ

第五十八條 議員候補者届出又ハ推薦届出ヲ爲サントスル者ハ議員候補者一人ニ付金百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ選舉長へ供託スルコトヲ要ス

前項ノ供託物ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ宗務本所ノ臨時歳入ニ編入セラル、コトヲ承認スル旨ノ書面ヲ供託ノ際供託書ト同時ニ提出スヘシ

一、議員候補者ノ得票數其ノ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有効投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一ニ達セサルトキ

二、議員候補者選舉ノ期日前十五日以内ニ議員

候補者タルコトヲ辭シタルトキ但シ議員候補者ニシテ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有効投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ法臈ノ長ヲ採リ同臈ノトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條又ハ第七十三條ノ規定ニ依ル異議申請ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選舉會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ第六十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキハ選舉長ハ第五十三條ノ決定ニ基キ直ニ當選人ヲ

宗會議員選舉例

定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ第一項但シ書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定ムルコトヲ得ス

第六十條 當選人選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第六十一條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ書留郵便ヲ以テ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選人ノ氏名ヲ該選舉區内ノ宗務所長、宗務支所長ニ通知スヘシ

當選人無キトキ又ハ當選人其ノ選舉區ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ該選舉區内ノ宗務所長、宗務支所長ニ通知シ且ツ之ヲ宗務本所ニ報告スヘシ

第六十二條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ十日以内ニ書留郵便ヲ以テ選舉長へ

當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ其ノ期間ヲ經過シタルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス
選舉長前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ宗務本所ニ報告スヘシ

第六十三條 左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ宗務本所ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ二十日前ニ之ヲ發布シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十九條第三項第四項ニ依リ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一、當選人無キトキ又ハ當選人其ノ選舉區ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルトキ
- 二、當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ
- 三、當選人第六十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ
- 四、第七十一條又ハ第七十三條ノ規定ニ依リ異

議申請ノ結果當選人無キニ至リ又ハ當選人其ノ選舉區ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルニ至リタルトキ

第十章ノ規定ニ依ル異議申請ノ提出期間中ハ前項ノ規定ニ依ル選舉ヲ行フコトヲ得ス其ノ提出アリタル場合ニ於テ審理中亦同シ
第一項ノ選舉ノ期日ハ第十章ノ規定ニ依ル申請ノ提出期間滿了ノ日、其ノ申請アリタル場合ニ於テハ第七十四條ノ規定ニ依リ異議申請ノ決定シタル旨ノ宗務本所ノ通知ノ日又ハ第八十五條ニ依ル普告ノ日ヨリ三十日ヲ超ユルコトヲ得ス
第一項各號ノ一ニ該當スル事由議員ノ任期ノ終ル前六ヶ月以内ニ生シタルトキニ於テ其ノ數議員定數ノ十分ノ二ニ達セザルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス
第六十四條 當選人確定シタルトキハ宗務本所ハ其ノ氏名ヲ派内ニ普告シ現任者任期滿了ノ翌日

ニ當選證書ヲ附與ス

第六十五條 第十草ノ規定ニ依ル申請ノ結果選舉若ハ當選無効ト爲リタルトキハ宗務本所ハ直ニ其ノ旨ヲ派内ニ普告スヘシ

第九章 議員ノ任期及補闕

第六十六條 議員ノ任期ハ四ヶ年トス但シ宗會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ルマテ在任ス

第六十七條 議員闕員ヲ生シタルトキハ宗務本所ハ其ノ闕員ト爲リタル議員カ就任後三ヶ月以内ニ於テ闕員ト爲リタル場合ニ於テ第五十三條規定ノ次點者アルトキハ直ニ議員闕員ト爲リタル旨ヲ選舉長ニ通知スヘシ
選舉長ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ第五十九條第四項第五項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ムヘシ

第六十八條 前條ニ該當スル者無キトキ又ハ議員就任三ヶ月以後ニ於テ闕員ヲ生シタルトキハ補

闕選舉ヲ行フ

第六十九條 補闕選舉ハ第二十條第二項第三項ヲ準用シ其ノ他ハ凡テ本例ニ依リテ之ヲ行フヘシ
第七十條 補闕議員ハ其ノ前任期ノ殘任期間在任ス

第十章 異議申請

第七十一條 選舉ノ効力ニ關シ異議アル選舉人又ハ議員候補者ハ選舉長ヲ被申請人トシ選舉ノ日ヨリ二十日以内ニ宗務本所ニ再審査ヲ請求スルコトヲ得
第七十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限リ宗務本所ハ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ
第七十三條ノ規定ニ依ル異議申請ニ於テモ其ノ選舉前項ノ場合ニ該當スルトキハ宗務本所ハ其ノ全部又ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ

第十一章 懲 誡

第七十六條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ停權ニ處ス

一、詐僞ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル者

二、當選ヲ得若クハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ賄賂ヲ授受シ又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタル者

第七十七條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ降階ニ處ス

一、投票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人ノ投票ニ干渉シタルトキ

二、法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタルトキ

三、演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス前條並ニ本條ニ掲クル非違ヲ爲サシムル目的ヲ以テ人ヲ

第七十三條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被申請人トシ第六十四條ノ普告ノ日ヨリ二十日以内ニ宗務本所ニ再審査ヲ請求スルコトヲ得但シ第五十九條第一項但書ニ定メラレタル得票ニ達シタリトノ理由、第五十九條第五項若ハ第六十條ノ規定ニ該當セストノ理由ニ依ル異議申請ノ場合ニ於テハ選舉長ヲ被申請人トスヘシ

第七十四條 本章ノ規定ニ依ル異議申請ニ付審査決定アリタルトキハ之ヲ當該選舉區ノ宗務所長及宗務支所長ニ通知スヘシ

第七十五條 本章ノ規定ニ依ル異議申請ヲ爲サムトスル者ハ預納金百圓ヲ供託スルコトヲ要ス原告敗訴ノ場合ニ於テハ審査費用ハ原告ノ負擔トス但シ審査確定ノ日ヨリ七日以内ニ審査費用ヲ完納セサルトキハ預納金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴ス

教唆煽動シタルトキ

第七十八條 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ降階ニ處ス

一、當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ議員候補者ノ身分經歷ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタルトキ

二、當選ヲ得シメサル目的ヲ以テ議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタルトキ

第七十九條 左ノ各項ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ剝職ニ處ス

一、氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタルトキ

二、投票ヲ偽造變造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタルトキ

三、投票管理人、開票管理人、選舉長、立會人ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ選舉會場、開票所若

宗會議員選舉例

ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞若ハ奪取シタルトキ

四、選舉人、議員候補者、議員候補者タラントスル者、選舉運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ

第八十條 選舉事務ニ關係アル公職員ニシテ第七十六條乃至第七十九條ノ非違ヲ爲シタルトキ

ハ一等重キニ依リテ處斷ス

第八十一條 選舉事務ニ關係アル公職員ニシテ故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ職權ヲ濫用シテ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキハ降階ニ處ス

前項ノ行爲ニ因リ投票又ハ選舉ヲ無効ナラシメタルトキハ剝職ニ處ス

第八十二條 立會人正當ノ事故ナクシテ本例ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ停權ニ處ス

故意ニ其ノ義務ヲ缺キ投票又ハ選舉ヲ無効ナラシメタル者ハ降階ニ處ス

第八十三條 第七十九條第二項ノ懲誠ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前項ニ掲クル以外ノ本章ノ懲誠ノ時効ハ六ヶ月ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第八十四條 本例ニ依ル懲誠及其ノ手續ハ懲誠例及懲誠處分例ヲ適用ス

第八十五條 當選人其ノ選舉ニ關シ本章ニ掲クル非違ヲ爲シ懲誠ニ處セラレタルトキハ宗務本所ハ其ノ旨ヲ普告スヘシ

第十二章 補 則

第八十六條 選舉ニ關スル費用ニ付テハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十七條 選舉ニ關スル異議申請ニ付テハ宗務本所ハ他ノ事務ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ審査ヲ爲シ五十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第八十八條 第二條但書ノ規定ニ依ル選舉ニ對スル本例ノ適用ニ付テハ之ヲ一投票區ト看做ス

附 則
本例ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス本例ノ施行ニ依リ法則第十號議員選舉例ハ之ヲ廢止ス

別 表

第一選舉區	第一教區	一人
第二選舉區	第二教區	二人
第三選舉區	第三教區	一人
第四選舉區	第四教區	一人
第五選舉區	第五教區	一人
第六選舉區	第六教區	一人
第七選舉區	第七教區	一人
第八選舉區	第八教區	一人
第九選舉區	第九教區	一人
第十選舉區	第十教區	一人
第十一選舉區	第十一教區	一人
第十二選舉區	第十二教區	一人
第十三選舉區	第十三教區	一人

第十二選舉區 第十四教區 一人

第十三選舉區 第十五教區 二人

第十四選舉區 第十六教區 一人

第十五選舉區 第十七教區 二人

第十六選舉區 第十八教區 二人

第十七選舉區 第十九教區 一人

第十八選舉區 第二十教區 二人

第十九選舉區 第二十一教區 二人

第二十選舉區 第二十二教區 一人

第二十一選舉區 第二十三教區 一人

第二十二選舉區 第二十四教區 一人

第二十三選舉區 第二十五教區 一人

第二十四選舉區 第二十六教區 一人

通計三十人

●宗會議員選舉例施行規則

(教令第五十一號)

宗會議員選舉例施行規則

第一章 選舉區、選舉權、被選舉權及選舉人名簿

第一條 選舉人三名以下ノ部ノ選舉ハ宗會議員選舉例第二條但書ヲ適用ス其ノ何レノ部ニ併合スヘキカハ宗務本所ニ於テ之ヲ指定ス

第二條 部ノ管轄區域變更ノ爲メ選舉人ノ部屬ニ異動ヲ生シタルトキハ宗務本所ハ選舉人名簿ヲ訂正スヘシ

第三條 宗會議員選舉例第八條但書ニ依ル辭職ハ書類ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ發送ト同時ニ被選舉權ヲ獲得スルモノトス但シ該書類ノ發送ハ書留郵便ニ依ルヘシ

第四條 選舉人名簿ハ宗務所長、宗務支所長ニ於テ二ヶ年間之ヲ保存スヘシ

第二章 投票用紙及投票

第五條 投票管理人事故アルトキハ宗務本所ハ該部内選舉人中ヨリ臨時代理人ヲ命ス

第六條 投票立會人ノ届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ投票立會人ノ氏名、寺院名ヲ記載シ且ツ本人ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第七條 宗會議員選舉例第十八條ノ規定ニ依ル投票用紙

ノ交附ハ各選舉人へ手交又ハ書留郵便ニ依ルヘシ但シ
選舉人へ手交ノ場合ハ本人ヲシテ交附簿ニ受領ノ年月
日ヲ記入シ署名捺印セシムヘシ

第八條 投票郵送ノ書留郵便封筒ニ「投票在中」ト標記
スヘシ

第九條 投票所ニハ投票人名簿ヲ備ヘ投票シタル選舉人
ノ氏名ヲ記録スヘシ

第十條 投票管理人ハ投票在中ノ書留郵便ヲ受領シタル
トキハ投票人名簿ニ之ヲ記録スルト共ニ其ノ受領年月
日時ヲ郵送封筒裏面ニ記入シ投票函ニ投入シテ之ヲ保
管スヘシ

第十一條 投票管理人ハ投票所開所ト同時ニ立會人ト共
ニ投票函ヲ開キ投票人名簿ト對照シテ郵送投票ノ數ヲ
點檢シ再ヒ其ノ投票ヲ投票函ニ投入スヘシ

第十二條 投票ハ投票管理人及立會人ノ面前ニ於テ選舉
人自ラ之ヲ投票函ニ投入スヘシ

第十三條 投票記載ノ場所ハ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ不
正ノ手段ヲ用フル事能ハサラシムル爲メ相當ノ設備ヲ

爲スヘシ

第十四條 投票函ハ嚴重ナル錠ヲ卸シ外部ヨリ在中ノ投
票ヲ視ヒ又ハ濫リニ取出スコト能ハサルヘク裝置スヘ
シ

第十五條 宗會議員選舉例第三十二條ノ規定ニ依リ投票
函ヲ閉鎖シ錠ヲ卸シタルトキハ投票管理人ハ其ノ鍵ヲ
密封シ投票立會人ト共ニ封印ヲ施シ投票函ト同封ニテ
發送スヘシ

第十六條 投票函ハ其ノ閉鎖後開票管理人ニ送致スル爲
メノ外之ヲ投票所外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十七條 投票ニ關スル書類ハ投票管理人ニ於テ議員ノ
任期間之ヲ保存スヘシ

第三章 開 票

第十八條 第五條ノ規定ハ開票管理人ニ、第六條ノ規定
ハ開票立會人ニ之ヲ準用ス

第十九條 開票審査ハ立會人立會ノ上開票管理人ニ於テ
各部別ニ投票録ト對照シテ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フモ
ノトス但シ朗讀、計算及整理等ノ事務ハ開票管理人ノ

命シタル事務員ヲシテ之ニ當ラシムルコトヲ得

一、送致サレタル投票函及鍵ニ異狀ナキヤヲ檢ス

二、投票録ヲ朗讀ス

三、投票函ヲ開キ郵送投票ト他トヲ區分ス

四、郵送投票ノ封筒ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタ
ルモノハ封ノ儘省除ス

五、郵送投票ノ封筒ヲ開キ他ノ投票ト共ニ之ヲ檢シ違
規ニシテ無効ト決定シタルモノハ封ノ儘之ヲ省除
ス

六、開票ニ附スヘキ投票ヲ用紙番號順ニ整理シ順次ニ
開封ス

七、開封シタル投票ヲ檢シテ違規ニシテ無効ト決定シ
タルモノハ之ヲ省除ス

八、純正投票記載ノ被選舉人氏名ヲ朗讀シ議員候補者
ノ得票數ヲ計算ス

第二十條 前條ノ計算終リタルトキハ開票管理人ハ投票
區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第二十一條 開票管理人ハ各投票區毎ニ開票明細書ヲ作

宗會議員選舉例施行規則

立會人ト共ニ捺印スヘシ

第二十二條 開票ニ關スル書類ハ開票管理人ニ於テ議員
ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第二十三條 開票審査終了ノ後、選舉人ニシテ投票ヲ閱
覽セントスル者ハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ書類ヲ以テ
開票管理人ニ請求スヘシ

開票管理人前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ開票立會人タ
リシ者ノ立會ノ下ニ之ヲ閱覽セシメ終了ノ後ハ更ニ宗
會議員選舉例第四十六條ノ規定ニ依リ之ヲ保存スヘシ
立會人ニシテ事故アルトキハ立會人ニ於テ選舉區内ノ
選舉人中ヨリ代理人ヲ指定シ立會セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ代理人ヲ得難キ場合ハ開票管理人ハ
該選舉區内ノ選舉人中ヨリ立會人ヲ選任シテ立會セシ
ムヘシ

立會ノ爲メ要スル費用ハ請求人ノ負擔トス

第四章 選 舉 會

第二十四條 第五條ノ規定ハ選舉長ニ之ヲ準用ス

第二十五條 選舉會ニ關スル書類ハ選舉長ニ於テ議員ノ

任期間之ヲ保存スヘシ

第二十六條 宗會議員選舉例第五十九條第三項ニ依リ選舉會ヲ開ク場合ニ於テハ同例第五十二條ニ準シ同例第七十四條ノ通知ニ接シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第五章 議員候補者及當選人

第二十七條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ議員候補者タルヘキ者ノ氏名、寺院名（推薦届出ノ場合ニ於テハ併セテ推薦届出者ノ氏名、寺院名）ヲ記載シ且ツ宗會議員選舉例第五十八條第二項ニ依ル供託金處分承認書ヲ添附スヘシ議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲メ選舉期日十五日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二十八條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出アリタルトキハ選舉長ハ直チニ議員候補者ノ屬スル部ノ投票管理人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル投票管理人ハ當該議員候補者死亡シタルコトヲ知リタルトキハ直チニ其ノ旨ヲ選舉長ニ報告スヘシ
選舉長ハ議員候補者ノ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ其ノ死亡シタルトキハ直チニ其ノ旨ヲ投票管理人ニ通知スヘシ

第二十九條 議員候補者選舉ノ期日前十六日迄ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ、選舉ノ期日ニ於ケル投票所ヲ開ク迄ニ死亡シタルトキ若シクハ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲メ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ選舉ノ全部無効ト爲リタルトキハ宗會議員選舉例第五十八條第一項ノ供託物ノ還附ヲ請求スルコトヲ得

議員候補者ノ得票數宗會議員選舉例第五十八條第二項各號ノ規定ニ該當セサルモノナルトキハ其ノ選舉及當選ノ効力確定後直チニ同例第五十八條第一項ノ供託物ノ還附ヲ請求スルコトヲ得
前二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ選舉長ハ直チニ之ヲ還

附スヘシ

第六章 選舉ニ關スル費用

第三十條 選舉人名簿及投票用紙ノ調製ニ用スル費用ハ宗務本所ノ負擔トス

第三十一條 選舉事務ノ爲メ宗務所長、選舉長、開票管理人ニ於テ要スル費用及選舉會場又ハ開票所ニ要スル費用ハ該選舉區ノ負擔トス

第三十二條 選舉事務ノ爲メ宗務支所長、投票管理人ニ要スル費用ハ該部ノ負擔トス但シ宗會議員選舉例第二條但書ノ場合ニ於テハ費用ノ三分ノ一ヲ合併セラレタル部ノ負擔トス

第三十三條 第三十一條ノ關係教區二以上アル場合ニ於テハ其ノ支辨スヘキ費用ハ寺院數ニ比例シテ之ヲ負擔スヘシ

第三十四條 投票管理人ニ於テ選任シタル投票立會人ニハ該部ヨリ開票管理人、選舉長ニ於テ選任シタル開票立會人及選舉立會人ニハ該選舉區ヨリ何レモ其ノ職務ノ爲メニ要スル費用ヲ給ス

宗會議員選舉例施行規則

前項ノ支給ハ衣資支給規則第十二條第三級、第十八條第三級ニ準ス

第七章 様式

第三十五條 選舉人名簿及投票用紙ハ別記様式ニ依リ宗務本所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三十六條 投票函ハ別記様式ニ依リ投票所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三十七條 投票録、開票録、開票明細書及選舉録ハ別記様式ニ依リ之ヲ作製スヘシ

第三十八條 立會人ノ届出書及之ニ添附スヘキ承諾書、議員候補者ノ届出書又ハ推薦届出書、供託金處分承認書並ニ議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書ハ別記様式ニ準シ之ヲ作製スヘシ

第八章 補則

第三十九條 投票録、開票録、開票明細書、選舉録ハ各作製義務者ニ於テ其ノ謄本ヲ作製シ選舉人又ハ議員候補者ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

附則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

別記

選舉人名簿様式

臺帳番號	寺院名	氏名	事故欄

備考一、宗務本所ノ決定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ理由ノ大要及修正ノ年月日ヲ事故欄ニ記入シ職印ヲ押捺スヘシ
 二、名簿ノ表紙及卷末ニハ左ノ通り記載スヘシ

(表紙)

昭和年月日現在調
 選舉人名簿
 妙心寺派宗務本所

(卷末)

此ノ選舉人名簿ハ宗會議員選舉例第九條ニ依リ調製シ昭和 年十二月二十日確定シ以後昭和 年十二月十九日マテ有効トス
 妙心寺派宗務本所

投票用紙様式

縦凡五寸

分五寸七凡横

第一折目
 第二折目
 第三折目

宗會議員投票用紙番號	被選舉人氏名	昭和 年 月 日
------------	--------	----------

宗會議員投票
 妙心寺
 派宗務
 本所之印

第 教區
 氏 名 ㊦

用紙番號

宗會議員選舉例施行規則

表

宗會議員投票
 妙心寺
 派宗務
 本所之印

第 教區
 氏 名 ㊦

用紙番號

裏

封

備考一、用紙ハ折疊ミタル場合ニ於テ外部ヨリ被選舉人氏名ヲ透視シ得サル紙質ノモノヲ用フヘシ
 二、開票スルニハ投票用紙ノ上下ノミシンノ在ル處ヨリ外側ヲ取り去リ第三折目ヲ切ルベシ

三、選舉期日ノ年月日ハ印刷スヘシ
 四、選舉人氏名下ノ印ハ實印又ハ住職印ヲ押捺スヘシ
 封緘印ハ認印又ハ封印ニテモ差支ヘナシ

投票函様式

厚 仕上凡八分
 高 凡八寸
 幅 凡八寸
 横 凡五寸

一、投票口ハ一個トス
 二、投票口ノ蓋ハ蝶番ニ造リ投票終レハ蓋ヲ爲シ錠ヲ卸ス様装置スルコト

右昭和 年 月 日執行宗會議員選舉ニ於ケル投票立會人(開票立會人)ト相定メ候間別紙本人ノ承諾書相添ヘ届出候也
 昭和 年 月 日

議員候補者

氏 名 印

投票管理人(開票管理人)

氏 名 殿

(又ハ議員候補者何某推薦人氏名印)

立會人ノ届出書ニ添附スベキ承諾書様式

投票立會人(開票立會人)承諾書

昭和 年 月 日執行ノ宗會議員選舉ニ於ケル投票立會人(開票立會人)タルコトヲ承諾候也
 昭和 年 月 日

何府 何市 何町 大字何 何寺住職
 何縣 何郡 何村

氏 名 印

立會人ノ届出書様式

投票立會人(開票立會人)届

何府 何市 何町 大字何 何寺住職
 何縣 何郡 何村

氏 名

議員候補者氏名殿

(又ハ 議員候補者何某推薦人) 氏 名 殿

宗會議員候補者

氏 名

選舉 昭和 年 月 日宗會議員選舉

右宗會議員選舉例第五十八條ニ依ル供託金壹百圓(國債證書)相添ヘ推薦届出候也
 昭和 年 月 日

何府 何市 何町 大字何 何寺住職
 何縣 何郡 何村

推薦人 氏 名 印

議員候補者ノ届出書様式

宗會議員候補者届

何府 何市 何町 大字何 何寺住職
 何縣 何郡 何村

氏 名

選舉 昭和 年 月 日宗會議員選舉

右宗會議員選舉例第五十八條ニ依ル供託金壹百圓(國債證書)相添ヘ立候補届出候也
 昭和 年 月 日

氏 名 印

第何選舉區選舉長

氏 名 殿

供託金處分承認書様式

供託金處分承認書

一金壹百圓也

右宗會議員選舉例第五十八條第一項ニ依ル供託金ハ同第二項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ宗務本所ノ臨時歳入ニ編入セラルコトヲ承認候也
 昭和 年 月 日

議員候補者ノ推薦届出書様式

宗會議員候補者推薦届

何府 何市 何町 何大字 何寺住職
 何縣 何郡 何村

宗會議員選舉例施行規則

候補者タルコトヲ辭スル場合ニ限り記載スヘシ

投票録様式

宗會議員候補者
氏名 印
(又ハ推薦人 氏名印)

第何選舉區選舉長
氏名 殿

第何教區第何部
宗會議員投票所投票録

- 一、午前何時開所 午後何時閉所ス
 - 二、當投票區内選舉權ヲ有スルモノ 何人
内選舉權ヲ自棄シタルモノ 何人
 - 三、當日投票セシ投票數 何票
 - 四、郵便ニ依リ到着シタル投票數 何票
- 合計 何票

議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書様式

宗會議員候補者 氏名

宗會議員候補者 氏名

事由 昭和 年 月 日何々ノ爲メ被選舉權ヲ
有セサルニ至リタリ

右辭退届出候也

昭和 年 月 日

宗會議員候補者
氏名 印

投票管理人
氏名 印

第何選舉區選舉長
氏名 殿

備考、事由ハ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルタメ議員

投票立會人
氏名 印

(以下何名アルモ同シ)

備考、様式ニ掲グル事項ノ外投票管理人ニ於テ投票ニ
關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘ
シ

開票管理人
氏名 印

(以下何名アルモ同シ)

備考、様式ニ掲クル事項ノ外開票管理者ニ於テ開票ニ
關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘ
シ

開票録様式

- 第何選舉區宗會議員開票所開票録
- 一、午前何時開所 午後何時閉所ス
 - 二、各投票所ヨリ送致セル投票總數 何票
内成規違反ニ付省除シタルモノ 何票
 - 三、純正投票數 何票
得票數

何票 氏名

(以下何名アルモ同ジ)

- 四、各部別ノ内容ハ開票明細書ノ通り
 - 開票管理人ハ此ノ開票録ヲ作り開票明細書ト共ニ之ヲ
朗讀シタル上開票立會人ト共ニ茲ニ署名捺印ス
- 昭和 年 月 日

宗會議員選舉例施行規則

開票明細書様式

開票明細書
第何教區第何部

- 一、投票總數 何票
- 内イ、成規違反ニ付郵送封筒ノ儘省除シタルモノ 何票
- ロ、成規違反ニ付キ開票前省除シタルモノ 何票
- 二、開票ニ付スヘキ投票數 何票
- 内 成規違反ニ付開票後省除シタルモノ 何票

三、純正投票數 何票
 得票數 氏名
 何票 氏名
 何票 氏名
 (以下何名アルモ同シ)

右

昭和 年 月 日

備考一、此ノ開票明細書ハ各部毎ニ作製スヘシ

二、年月日ノ下ニ管理人及立會人ノ檢印ヲ押捺ス
 ヘシ

何票 氏名
 (以下何名アルモ同シ)

四、議員定數何人ヲ以テ有効投票ノ總數何票ヲ除シ
 テ得タル數ハ何票ニシテ此ノ四分ノ一ノ數ハ何
 票ナリ
 議員候補者中其ノ得票數此ノ數ニ達スル者左ノ
 如シ

何票 氏名
 何票 氏名
 何票 氏名
 (以下何名アルモ同シ)

右ノ内有効投票ノ最多數ヲ得タル左記ヲ以テ當選
 人トス

氏名

(定員二名以上ノ場合ハ列記スルコト)

五、當選人トナリ得ル次點者ノ氏名並ニ順位左ノ如
 シ

氏名 氏名

選舉錄樣式

第何選舉區宗會議員選舉會選舉錄

一、午前何時開所 午後何時閉所

二、選舉長ハ選舉立會人立會ノ上各議員候補者ノ得
 票總數ヲ朗讀シタリ

三、各議員候補者ノ得票數左ノ如シ

何票 氏名

選舉長ハ此ノ選舉錄ヲ作り之ヲ朗讀シタル上選舉立會
 人ト共ニ茲ニ署名捺印ス

昭和 年 月 日

選舉長

氏名 印

選舉立會人

氏名 印

(以下何名アルモ同シ)

備考、樣式ニ掲クル事項ノ外選舉長ニ於テ選舉會ニ關
 シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

當選證書樣式(用紙鳥ノ子、大奉書四ツ切大)

宗會議員當選證書

何府 何市 何町 何寺住職
 何縣 何郡 何村

氏名

右第何選舉區ニ於テ宗會議員ニ當選セシコトヲ證ス

昭和 年 月 日

妙心寺
 派宗務
 本所之印

妙心寺派宗務本所

●管長選舉例 (法則第七十六號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第三十五條ニ依リ之ヲ制定ス
第二條 管長ノ任期ハ五ケ年トシ再選ヲ妨ケス但シ滿期後ト雖モ後任管長就職ニ至ル迄其ノ職務ヲ執行ス

第二章 選舉權及被選舉權

第三條 左記ノ要件ヲ具備スルモノハ被選舉權ヲ有ス

一、本派ノ法派ヲ相承シ專門道場ノ師家タルニ堪フル者

二、德望一世ヲ風化シ事理ニ精通シタル者

第四條 前條規定ノ外選舉權及被選舉權ニ關シテハ宗會議員選舉例第五條、第六條、第七條、第八條第五號ノ規定ヲ準用ス

第三章 選舉人名簿

第五條 管長選舉ハ宗會議員選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ

第四章 投票用紙

第六條 宗務本所ハ投票用紙ヲ選舉期日發布ト同時ニ宗務支所長ニ送附スヘシ

第七條 宗務支所長ハ選舉人ニ對應シタル投票用紙ヲ選舉期日前十五日以内、前八日迄ニ選舉人ニ交附スヘシ

第八條 投票用紙ニ關シテハ宗會議員選舉例第十條、第十九條ノ規定ヲ準用ス

第五章 選舉及投票

第九條 管長ハ滿期三ヶ月前宣示ヲ以テ後任管長選舉期日ヲ定メ第二十九條所定ノ候補者姓名ト共ニ之ヲ發布ス

第十條 宗務支所長ハ選舉ノ宣示ニ接シタル日ヨリ七日以内ニ其ノ期日ヲ該部内ノ選舉人ニ通告ス

スベシ

第十一條 選舉ハ宗務本所ニ於テ行ヒ選舉長ハ監正部長之ニ當ル

第十二條 選舉人ハ選舉期日迄ニ書留郵便ヲ以テ投票ヲ宗務本所ニ發送スヘシ但シ開票期日前日迄ニ到着セサルモノハ之ヲ受理セス

宗務本所ハ投票受理簿ヲ備ヘ選舉人ヨリ送付セシ投票ヲ到着順ニ登録スヘシ

第十三條 一旦宗務本所ニ到着シタル投票ハ如何ナル理由アルモ之ヲ選舉人ニ還附スルコトヲ得ス

第十四條 管長選舉投票ニ關シテハ宗會議員選舉例第二十一條、第二十九條、第三十條ノ規定ヲ準用ス

第六章 開票及開票所

第十五條 開票ハ宗務總長臨鑑、選舉長司管ノ下ニ各部長及宗務所長二名立會ノ上之ヲ行フ係員

ハ宗務總長之ヲ指定ス

第十六條 開票所ハ宗務本所ニ之ヲ設ク

第十七條 開票ハ選舉期日後五日以上七日以内ニ之ヲ行フヘシ選舉長ハ開票期日ヲ派内ニ普告スヘシ

第十八條 投票ノ効力ハ部長及立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第十九條 選舉人ハ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 開票所ニ於テ喧騒ニ涉リ秩序ヲ紊シ又ハ執務ノ妨害ヲナス者アリタルトキハ選舉長之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ開票所外ニ退出セシムヘシ

第二十一條 選舉長ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ部長及立會人ト共ニ署名捺印シ管長ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第二十二條 開票及開票所ニ關シテハ宗會議員選

舉例第四十五條、第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第七章 選 舉 會

第二十三條 選舉會ハ宗務總長臨鑑、選舉長司管ノ下ニ各部長及宗務所長二名立會ノ上之ヲ行フ係員ハ宗務總長之ヲ指定ス

第二十四條 選舉會場ハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 選舉人ハ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 選舉場ノ取締ニ就テハ第二十條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 選舉長ハ選舉録ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ部長及立會人ト共ニ署名捺印シ滿一ケ年間之ヲ保存スヘシ

第二十八條 其ノ他選舉會ニ關シテハ宗會議員選舉例第五十一條、第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第八章 管長候補者及當選人

第二十九條 現任管長ハ選舉發布ニ先チ顧問會ニ

諮詢シ被選舉權ヲ有スル者ノ中候補者五名ヲ指定スヘシ

第三十條 當選人確定シタルトキハ現任管長ハ請狀ヲ作り專使ヲ以テ本人ノ承諾ヲ請フヘシ

第三十一條 當選人ノ承諾ヲ得タルトキハ現任管長ハ文部大臣へ稟告シ認可ヲ受ケ其ノ姓名ヲ派内一般へ告示スヘシ

第三十二條 當選人ニ關シテハ宗會議員選舉例第五十九條、第六十條、第六十三條及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第九章 異 議 申 請

第三十三條 異議申請ニ關シテハ宗會議員選舉例第七十一條乃至第七十五條ノ規定ヲ準用ス

第十章 懲 誡

第三十四條 選舉違反ニ關スル懲誡ニ付テハ宗會議員選舉例第七十六條乃至第八十五條ノ規定ヲ準用ス

第十一章 補 則

第三十五條 選舉ニ關スル異議申請ニ付テハ宗務本所ハ他ノ事務順序ニ拘ラス速ニ其ノ審査ヲ爲シ五十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

附 則

本例ハ次ノ選舉ヨリ之ヲ施行ス本例ノ施行ニ依リ法則第二號管長選舉例ハ之ヲ廢止ス

●管長選舉例施行規則

(教令第五十二號)

第一條 管長選舉例第七條ノ規定ニ依ル投票用紙ノ交附ハ選舉人へ直接交附又ハ書留郵便ニ依ルヘシ但シ選舉人へ直接交附ノ場合ハ本人ヲシテ投票用紙交附簿ニ受領年月日ヲ記入シ署名捺印セシムヘシ

第二條 投票郵送ノ書留郵便封筒ニハ「投票在中」ト標記スヘシ

第三條 宗務本所ハ投票函ヲ備へ選舉人ヨリ送附セシ投票長選舉例施行規則

票ヲ投入シ嚴重ニ之ヲ保管スヘシ

投票函ハ嚴重ナル錠ヲ卸シ外部ヨリ在中ノ投票ヲ覗ヒ又ハ濫リニ取出スコト能ハサルヘク裝置スヘシ

第四條 開票審査ハ管長選舉例第十五條ノ規定ニ依ル諸員列席ノ上投票函ヲ開キ投票在中ノ郵便物ヲ教區別ニ區分シタル後教區順ニ依リ左ノ順序ヲ以テ之ヲ行フ
一、投票在中ノ郵便封筒ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ封筒ノ儘省除ス
二、郵便封筒ヲ開キ投票ヲ取出シテ之ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ封筒ノ儘省除ス
三、開票ニ附スヘキ投票ヲ開キ番號順ニ之ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ之ヲ省除ス
四、純正投票記載ノ被選舉人氏名ヲ朗讀シ管長候補者ノ得票數ヲ計算ス

第五條 前條ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ教區毎ニ管長候補者ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第六條 選舉長ハ教區毎ニ開票明細書ヲ作り立會人ト共ニ捺印スヘシ

第七條 開票審査終了ノ後選舉人ニシテ投票ヲ閱覽セン
トスル者ハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ書類ヲ以テ之ヲ選
舉長ニ請求スヘシ

選舉長ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ開票立會人タリ
シ宗務所長二名立會ノ下ニ之ヲ閱覽セシメ終了ノ後ハ
更ニ選舉長ニ於テ立會人ト共ニ密封シ規定ノ期間中
之ヲ保存スヘシ

開票立會人タリシ宗務所長ニ事故アルトキハ他ノ宗務
所長ヲシテ之ニ當ラシム

立會ノ爲メ要スル費用ハ請求人ノ負擔トス

第八條 開票並ニ選舉會ニ關スル書類ハ選舉長ニ於テ滿
一ヶ年間之ヲ保存スヘシ

第九條 選舉事務ノ爲メ宗務支所長ニ於テ要スル費用ハ
該部ノ負擔トス

第十條 開票及選舉立會人ニ選任シタル宗務所長ニハ職
務ノ爲メニ要スル費用ヲ給ス

前項ノ支給ハ衣資支給規則第十二條第一級同第十八條
第一級ニ準ス

第十一條 投票用紙ハ宗會議員選舉投票用紙ノ様式ニ準
シ宗務本所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第十二條 開票録、開票明細書、選舉録ハ宗會議員選舉
例施行規則ニ示ス様式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第十三條 開票録、開票明細書、選舉録ハ選舉長ニ於テ
其ノ原本ヲ調製シ選舉人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱
覽セシムベシ

附 則
本令ハ次ノ選舉ヨリ之ヲ施行ス

●宗務總長選舉例 (法則第百七十七號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第四十條ニ依リ之ヲ制定ス

第二章 選舉權及被選舉權

第二條 宗務總長及部長ハ現職ノ儘立候補スルコ
トヲ得

第三條 前條規定ノ外選舉權及被選舉權ニ關シテ
ハ宗會議員選舉例第五條乃至第八條ノ規定ヲ準
用ス

第三章 選舉人名簿

第四條 宗務總長選舉ハ宗會議員選舉人名簿ニ依
リ之ヲ行フ

第四章 投票用紙

第五條 宗務本所ハ投票用紙ヲ選舉期日發布ト同
時ニ宗務支所長ニ送附スベシ

第六條 宗務支所長ハ選舉人ニ對應シタル投票用

宗務總長選舉例

紙ヲ選舉期日前十五日以内、前八日迄ニ選舉人
ニ交附スベシ

第七條 投票用紙ニ關シテハ宗會議員選舉例第十
六條、第十九條ノ規定ヲ準用ス

第五章 選舉及投票

第八條 宗務總長選舉ハ現任者滿期三ヶ月以前宣
示ヲ以テ選舉期日ヲ定メ之ヲ發布ス

選舉期日ハ選舉發布ノ日ヨリ三十日以内トス
第九條 宗務支所長ハ選舉ノ宣示ニ接シタル日ヨ
リ七日以内ニ其ノ期日ヲ該部内ノ選舉人へ通告
スベシ

第十條 選舉ハ宗務本所ニ於テ行ヒ選舉長ハ監正
部長之ニ當ル

第十一條 選舉人ハ選舉期日迄ニ書留郵便ヲ以テ
投票ヲ宗務本所ニ發送スベシ但シ開票期日前日
迄ニ到着セザルモノハ之ヲ受理セズ宗務本所ハ
投票受理簿ヲ備へ選舉人ヨリ送附セシ投票ヲ到

着順ニ登録スベシ

第十二條 一旦宗務本所ニ到着シタル投票ハ如何ナル理由アルモ之ヲ選舉人ニ還附スルコトヲ得ズ

第十三條 宗務總長選舉投票ニ關シテハ宗會議員選舉例第二十一條第二十九條第三十條ヲ適用ス

第六章 開票及開票所

第十四條 開票ハ宗務總長臨鑑、選舉長司管ノ下ニ部長及第十五條規定ノ立會人立會ノ上之ヲ行フ係員ハ宗務總長之ヲ指定ス

第十五條 宗務總長候補者又ハ推薦人ハ選舉人中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ開票立會人二名ヲ定メ開票期日ノ五日前迄ニ選舉長ニ届出ヅルコトヲ得但シ宗務總長候補者死亡シ又ハ宗務總長候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出タル開票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル開票立會人二人宛ニ達セザル

トキ若ハ二人宛ニ達セザルニ至リタルトキ又ハ開票立會人トシテ參會スル者開票所ヲ開クベキ時刻ニ至リ二人宛ニ達セザルトキ若ハ其ノ後二人宛ニ達セザルニ至リタルトキハ選舉長ハ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ二人宛ニ達スル迄ノ開票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ開票ニ立會セシムベシ

前項ノ場合ニ於テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ開票立會人ヲ選任スルコト能ハズ若ハ著シク困難ナルトキハ選舉長ハ本例第四條ニ該當スル者ノ中ヨリ開票立會人ヲ選任スルコトヲ得

開票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ
選舉長ハ正當ノ理由ナクシテ開票立會人ヲ解任スルコトヲ得ズ

第十六條 開票所ハ宗務本所ニ之ヲ設ク

第十七條 開票ハ選舉期日後五日以上七日以内ニ之ヲ行フベシ

選舉長ハ開票期日ヲ派内ニ普告スベシ

第十八條 投票ノ効力ハ部長及立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スベシ

第十九條 選舉人ハ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 開票所ニ於テ喧騒ニ涉リ秩序ヲ紊シ又ハ執務ノ妨害ヲナス者アリタルトキハ選舉長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハザルトキハ開票所外ニ退出セシムベシ

第二十一條 選舉長ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ部長及開票立會人ト共ニ署名捺印シ宗務總長ノ任期間之ヲ保存スベシ

第二十二條 開票及開票所ニ關シテハ宗會議員選舉例第四十五條、第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第七章 選舉會

宗務總長選舉例

第二十三條 選舉會ハ宗務總長臨鑑、選舉長司管ノ下ニ部長及選舉立會人立會ノ上之ヲ行フ係員ハ宗務總長之ヲ指定ス

第二十四條 開票立會人タリシ者ヲ以テ選舉立會人ト爲シ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 選舉長ハ選舉録ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ部長及選舉立會人ト共ニ署名捺印シ滿一ケ年間之ヲ保存スベシ

第二十六條 選舉會ニ關シテハ第十六條、第十九條、第二十條、宗會議員選舉例第五十一條及第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第八章 宗務總長候補者及當選人

第二十七條 宗務總長候補者タラントスル者ハ選舉期日ノ發布アリタル日ヨリ選舉期日前十五日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ヅベシ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ宗務總長候補者ト爲サントスルトキハ前項ノ期間内ニ其

ノ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得
 前二項ノ期間内ニ届出アリタル宗務總長候補者
 死亡シ又ハ宗務總長候補者タルコトヲ辭シタル
 トキハ前二項ノ例ニ依リ選舉ノ前日迄宗務總長
 候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲スコトヲ得
 宗務總長候補者ハ選舉長ニ届出ヲ爲スニアラザ
 レバ宗務總長候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得
 宗務總長候補者死亡シタルトキハ法類總代ハ戶
 籍抄本或ハ之ニ代ルベキ市町村長ノ證明書ヲ添
 ヘ直ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ヅベシ
 前五項ノ届出アリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ
 旨ヲ派内ニ普告スベシ
 第二十八條 宗務總長候補者ノ届出又ハ推薦届出
 ヲ爲サントスル者ハ候補者一人ニ付金五百圓又
 ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ宗務本所へ供
 託スルコトヲ要ス

前項ノ供託物ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ
 於テ宗務本所ノ臨時歳入ニ編入セラルルコトヲ
 承認スル旨ノ書面ヲ供託ノ際供託書ト同時ニ提
 出スベシ
 一、宗務總長候補者ノ得票數有効投票數ノ五分
 ノ一ニ達セザルトキ
 二、宗務總長候補者選舉期日前十五日以内ニ宗
 務總長候補者タルコトヲ辭シタルトキ但シ
 宗務總長候補者ニシテ死亡シ又ハ被選舉權
 ヲ有セザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラ
 ズ
 第二十九條 有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ
 當選人トス但シ有効投票總數ノ四分ノ一以上ノ
 得票アルコトヲ要ス
 當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同ジキトキハ法類
 ノ長ヲ採リ同薦ノトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
 本例第九章ノ規定ニ依ル異議申請ノ結果更ニ選

舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ
 於テハ選舉會ヲ開キ之ヲ定ムベシ
 當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又
 ハ被選舉權ヲ有セザルニ至リタルトキハ選舉長
 ハ選舉會ニ於テ決定セル當選人ト爲リ得ル次點
 者ノ順位ニ基キ直ニ當選人ヲ定ムベシ
 前二項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ
 當選人ト爲ラザリシ者選舉期日後ニ於テ被選舉
 權ヲ有セザルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定
 ムルコトヲ得ズ

第三十條 當選人ニ關シテハ宗會議員選舉例第六
 十條、第六十一條、第六十二條、第六十三條第
 一項乃至第三項及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第九章 異議申請

第三十一條 異議申請ニ關シテハ宗會議員選舉例
 第七十一條乃至第七十五條ノ規定ヲ準用ス

第十章 懲

誠

宗務總長選舉例施行規則

第三十二條 選舉違反ニ關スル懲誠ニ付テハ宗會
 議員選舉例第七十六條乃至第八十五條ノ規定ヲ
 準用ス

第十一章 補

則

第三十三條 選舉ニ關スル異議申請ニ付テハ宗務
 本所ハ他ノ事務順序ニ拘ラズ速ニ其ノ審査ヲ爲
 シ五十日以内ニ之ヲ決定スベシ

附 則

本例ハ次ノ選舉ヨリ之ヲ施行ス本例ノ施行ニ依
 リ法則第六十號教務本所執事選舉例ハ之ヲ廢止
 ス

●宗務總長選舉例施行規則

(教令第五十三號)

第一條 宗務總長選舉例第三條ニ準用セル宗會議員選舉
 例第八條但書ニ依ル辭職ハ書類ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ發
 送ト同時ニ被選舉權ヲ獲得スルモノトス但シ該書類ノ

發送ハ書留郵便ニ依ルベシ

第二條 宗務總長選舉例第六條ノ規定ニ依ル投票用紙ノ交附ハ選舉人へ直接交附又ハ書留郵便ニ依ルベシ但シ選舉人へ直接交附ノ場合ハ本人ヲシテ投票用紙交附簿ニ受領年月日ヲ記入シ署名捺印セシムベシ

第三條 開票立會人ノ届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ開票立會人ノ氏名寺院名ヲ記載シ且ツ本人ノ承諾書ヲ添附スベシ

第四條 投票郵送ノ書留郵便封筒ニハ「投票在中」ト標記スベシ

第五條 宗務本所ハ投票函ヲ備へ選舉人ヨリ送附セシ投票ヲ投入シ嚴重ニ之ヲ保管スベシ
投票函ハ嚴重ナル錠ヲ卸シ外部ヨリ在中ノ投票ヲ覗ヒ又ハ濫リニ取出スコト能ハザルヘク裝置スベシ

第六條 開票審査ハ宗務總長選舉例第十四條ノ規定ニ依ル諸員列席ノ上投票函ヲ開キ投票在中ノ郵便物ヲ教區別ニ區分シタル後教區順ニ依リ左ノ順序ヲ以テ之ヲ行フ

- 一、投票在中ノ郵便封筒ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ封ノ儘省除ス
- 二、郵便封筒ヲ開キ投票ヲ取出シテ之ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ封ノ儘省除ス
- 三、開票ニ附スベキ投票ヲ開キ番號順ニ之ヲ檢シ違規ニシテ無効ト決定シタルモノハ之ヲ省除ス
- 四、純正投票記載ノ被選舉人氏名ヲ朗讀シ宗務總長候補者ノ得票數ヲ計算ス

第七條 前號ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ教區毎ニ各總長候補者ノ得票數ヲ朗讀スベシ

第八條 選舉長ハ教區毎ニ開票明細書ヲ作り立會人ト共ニ捺印スベシ

第九條 開票審査終了ノ後選舉人ニシテ投票ヲ閱覽セントスル者ハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ書類ヲ以テ之ヲ選舉長ニ請求スベシ

選舉長ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ開票立會人タリシ者ノ立會ノ下ニ之ヲ閱覽セシメ終了ノ後ハ更ニ選舉長ニ於テ立會人ト共ニ密封シ規定ノ期間中ニ之ヲ保存ス

ベシ

立會人ニシテ事故アルトキハ立會人ニ於テ選舉人中ヨリ代理人ヲ指定シ立會セシムベシ

前記ノ規定ニ依ル代理人ヲ得難キ場合ニハ選舉長ハ選舉人中ヨリ立會人ヲ選任シテ立會セシムベシ
立會ノ爲メ要スル費用ハ請求人ノ負擔トス

第十條 宗務總長選舉例第二十九條第三項ニ依リ選舉會ヲ開ク場合ニ於テハ同例第二十四條ノ規定ニ準シ異議申請ノ審査決定アリタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スベシ

第十一條 總長候補者届出又ハ推薦届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ總長候補者タルベキ者ノ氏名、寺院名（推薦届出ノ場合ニ於テハ併セテ推薦届出者ノ氏名、寺院名）ヲ記載シ且ツ宗務總長選舉例第二十八條第二項ニ依ル供託金處分承諾書ヲ添附スベシ

總長候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ被選舉權ヲ有セザルニ至リタル爲メ選舉期日十五日以内ニ總長候補者タルコトヲ辭スル場合ニ

宗務總長選舉例施行規則

於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第十二條 總長候補者選舉期日前十六日迄ニ總長候補者タルコトヲ辭シタルトキ、選舉期日前日迄ニ死亡シタルトキ若クハ被選舉權ヲ有セザルニ至リタルタメ總長候補者タルコトヲ辭シタルトキ、又ハ選舉全部無効トナリタルトキハ宗務總長選舉例第二十八條第一項ノ供託物ノ還附ヲ請求スルコトヲ得

總長候補者得票數宗務總長選舉例第二十八條第二項各號ノ規定ニ該當セザルモノナルトキハ其ノ選舉及當選ノ効力確定後直チニ同例第二十八條第一項ノ供託物ノ還附ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ宗務本所ハ直チニ之ヲ還附スベシ

第十三條 選舉長ニ於テ選任シタル開票立會人及選舉立會人ニハ職務ノ爲ニ要スル費用ヲ供ス

前項ノ支給ハ衣資支給規則第十二條第一級、第十八條第一級ニ準ス

第十四條 投票用紙ハ宗會議員選舉投票用紙ノ様式ニ準

氏名

シ宗務本所ニ於テ之ヲ調製スベシ
第十五條 開票録、開票明細書及選舉録ハ宗會議員選舉
例施行規則ニ示ス様式ニ準ジ之ヲ調製スベシ

第十六條 立會人ノ届出書及之ニ添附スベキ承諾書、總
長候補者ノ届出書又ハ推薦届出書、供託金處分承諾書
並ニ總長候補者タルコトヲ辭スルコトノ届出書ハ別記
様式ニ準ジ之ヲ作製スベシ

第十七條 開票録、開票明細書、選舉録ハ選舉長ニ於テ
其ノ謄本ヲ調製シ選舉人又ハ總長候補者ノ請求アリタ
ルトキハ之ヲ閱覽セシムベシ

附 則
本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

別 記

立會人ノ届出書様式

開票立會人届
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村

右昭和 年月 日執行ノ宗務總長選舉ニ於ケル開票
立會人ト相定メ候間別紙本人ノ承諾書相添ヘ届出候也
昭和 年月 日
宗務總長候補者
氏名 氏名印

選舉長
氏名 殿
(又ハ宗務總長候補者何某推薦人 氏名印)

立會人ノ届出書ニ添附スベキ承諾書様式

開票立會人承諾書
昭和 年月 日執行ノ宗務總長選舉ニ於ケル開票立
會人タルコトヲ承諾候也
昭和 年月 日
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
氏名 氏名印

宗務總長候補者
氏名 氏名印

氏名 殿
(又ハ宗務總長候補者何某推薦人)
氏名 殿

宗務總長候補者ノ届出書様式

宗務總長候補者届
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
宗務總長候補者 氏名

選舉 昭和 年月 日宗務總長選舉
右宗務總長選舉例第二十八條ニ依ル供託金五百圓(國
債證書)相添ヘ立候補届出候也
昭和 年月 日 氏名印

選舉長
氏名 殿

宗務總長候補者ノ推薦届出書様式

宗務總長候補者推薦届
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
宗務總長選舉例施行規則

宗務總長候補者 氏名
選舉 昭和 年月 日宗務總長選舉
右宗務總長選舉例第二十八條ニ依ル供託金五百圓(國
債證書)相添ヘ立候補届出候也
昭和 年月 日
何府 何市 何町 大字何 何寺住職
何縣 何郡 何村
推薦人 氏名印

選舉長
氏名 殿

供託金處分承認書様式

供託金處分承認書
一金五百圓也
右宗務總長選舉例第二十八條ニ依ル供託金ハ同第二項
ノ規定ニ依リ處分セラル、コトヲ承認候也
昭和 年月 日
宗務總長候補者
氏名 氏名印

選舉長 (又ハ推薦人 氏名印)
氏名殿

總長候補者タルコトヲ辭スル場合ニ限り記載ス
ベシ

宗務總長候補者タルコトヲ
辭スルコトノ届出書様式

宗務總長候補者辭退届

宗務總長候補者 氏名

事由、昭和 年 月 日何々ノ爲メ被選舉權ヲ
有セザルニ至リタリ

右辭退届出候也

昭和 年 月 日

宗務總長候補者

氏名印

選舉長

氏名殿

備考、事由ハ被選舉權ヲ有セザルニ至リタル爲メ宗務

●褒 賞 例 (法則第三號)

- 第一條 本例ハ綱目第三十五條ニ依リ之ヲ制定ス
- 第二條 管長ニ於テ賞典ヲ行フトキハ總テ本例ニ依ル
- 第三條 賞典ハ宗務支所長ノ申請ニ依リ宗務所長之ヲ調査シテ宗務本所ヘ具狀スベシ
- 第四條 宗務本所監正部長ハ該調査ヲ統務局會議ニ附シ可決シタルモノハ宗務總長ヲ經テ管長ニ稟啓ス
- 第五條 宗務本所監正部長ハ第三條ノ申請ヲ待タズ本派ノ公職ニ在ル者及派内一般僧侶ノ功績顯著ナル者ニ對シ第四條ノ手續ヲ經テ賞典ヲ行フコトアルベシ
- 第六條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ別表ニ定メタル品等ニ由リ賞典ヲ行フ
- 一、新ニ寺院ヲ創立シ又ハ廢寺ヲ再興シタル者

褒 賞 例

- 二、教會所ヲ建設シ其維持法ヲ立テタル者
- 三、寺院堂塔ヲ新築改造シ其維持法ヲ確立セシ者
- 四、國家社會ノ公益ヲ興シタル者
- 五、民望高ク宗風ヲ振起セシ者
- 六、著述ヲ以テ布教興學ニ資シタル者
- 七、教育ニ從事シ後進策勵ノ効果實蹟ヲ舉ゲタル者
- 八、本派ノ公職ニ從事シ特殊ノ功績アリシ者
- 九、布教興學上特殊ノ功績アリシ者
- 十、金員物件ヲ大本山妙心寺又ハ寺院ニ寄贈シ其維持保存ヲ輔翼セシ者
- 十一、多數ノ檀信徒ヲ増殖シ寺門ヲ興隆シタル者
- 十二、道念堅固ニシテ世出世間ノ敬仰厚キ者
- 十三、爲法爲派拔群ノ功勞アル者
- 十四、本派僧侶ニシテ八十歳以上ノ者

十五、教区内ノ各部ニシテ十ヶ年以上本派總テノ納金期ヲ誤ラズ完納シタルモノ

十六、同一寺院ニ滿三十ヶ年以上住職シ寺門維持ニ功勞アル者

品等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
賞典	金五拾圓	金參拾圓	金貳拾圓	金拾五圓	金拾圓	金五圓	金參圓	賞狀
表	以下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	
格								

第七條 前條各號ニ就キ特殊ノ功績アルモノハ銓衡ノ上法階一級ヲ昇進セシムルコトアルベシ

第十條 賞典物品ハ受賞者ノ外使用スルコトヲ得ズ

第八條 生前ノ功勞ヲ表旌スル賞典ハ法階ノ追贈又ハ香資トス

第十一條 賞典物品ハ之ヲ賣買シ又ハ他人ヘ讓與スルコトヲ得ズ

第九條 賞典ノ種類左ノ如シ
法階昇進 袈娑 直綴 安陀會 絡子 珠數
中啓 扇子 書籍 織物地 金圓

第十二條 本派檀信徒ニ對スル賞典ハ本例ヲ準用ス

●懲 誠 例 (法則第四號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第三十五條ニ依リ之ヲ制定ス
第二條 本例ハ本派僧侶ニシテ違規ノ行爲アルモノニ之ヲ適用ス

第三條 左記各號ニ該當スルモノハ情狀ヲ酌量シテ減誠スルコトヲ得

一、所爲ノ未ダ發覺セザル前ニ自首セシ者
二、年齢七十歳以上十六歳以下ノ者
三、違規ノ情狀憫諒スベキ者

第四條 所犯二箇以上併發ノ時ハ一ノ重キニ依リテ處斷ス

第五條 再犯以上ハ其該當誠目ヨリ一等重キ誠目ニ依テ處分ス

第六條 他人ヲ教唆シテ違規ノ行爲ヲナサシメタルモノハ主犯者ト同一ノ誠目ニ依テ處斷ス

懲 誠 例

第七條 他人ノ犯狀ヲ知り故ラニ隱蔽シタルモノハ主犯者ヨリ一等ヲ減ズ

第八條 奪階以上ノ懲誠ニ處セラレタルトキハ別ニ住職罷免ノ宣告ニ依ラズシテ同時ニ住職ヲ免セラルモノトス

第九條 本例ニ正條ナクシテ他ノ法則教令ニ明文アルモノハ其法則教令ニ從フ

第十條 派内ノ各公職員又ハ宗會議員ニシテ停權以上ノ懲誠處分ヲ受ケタルトキハ免職ノ手續ヲナサズ當然其職ヲ失フモノトス

第二章 誠 目

第十一條 懲誠ヲ分チテ左ノ六種トス

第一種 擯斥 本派僧侶ノ分限ヲ剝奪ス

第二種 奪階 住職ヲ罷免シ前堂職以上ノ法階ハ首座職ニ貶シ藏主職以上ハ知客職ニ貶シ知客職及沙彌職ハ僧侶ノ分限ヲ停止ス

- モノ
- 二、身分資格ヲ詐リ又ハ服制ヲ僭濫シタルモノ
- 三、故意ヲ以テ法侶ヲ輕侮凌辱シタルモノ
- 四、故意ヲ以テ不實ノ申告ヲ爲シタルモノ
- 五、住職法階ノ進退ニ關シ私意ヲ以テ故障ヲナスモノ
- 六、罰金又ハ拘留ニ處セラレタルモノ
- 七、停權又ハ譴責ノ處分ヲ受ケ尙改悛ノ實ナキ者
- 八、故意ヲ以テ法則教令ヲ遵守セサル者
- 九、宗費賦課徵收例第十一條ノ申告アリタル者但シ本號ニ依ル處分ハ六ヶ月以上一ヶ年以下ニ限り現法階ヨリ一級ヲ下シ納金義務ヲ完了シタルトキハ直ニ現法階ニ復セシム
- 第十六條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ停權ニ處ス
 - 一、規定ノ法要ヲ營辨セサル者若クハ濫リニ寺院ヲ異教徒ニ貸與シ又ハ寺院ノ尊嚴ヲ瀆スベ

- キ用途ニ供シタル者
- 二、欺誑又ハ強誘ニ依リ派内寺院ノ檀徒ヲ奪ヒ又ハ射利ノ目的ヲ以テ轉檀セシメタル者
- 三、師資法類相爭ヒ宗務本所役員及宗務所長ノ說諭ニ服從セザル者
- 四、過失ニ依リ寺院堂宇ヲ烏有ニ歸セシメタル者
- 五、科料ニ處セラレタル者
- 六、本派ノ公式ヲ亂シタル者
- 七、宗務本所ノ訓示及普告ヲ遵守セザル者
- 第十七條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ譴責ニ處ス
 - 一、猥褻鄙俚ノ說教法話ヲナス者
 - 二、托鉢免許規則ニ觸ル、者
 - 三、宗務本所、宗務所又ハ宗務支所ニ對シ虚構ノ陳述ヲナシタル者
 - 四、寺有財産ノ異動ニ關シ成規ノ手續ヲナサザル者

●懲誠處分例 (法則第五號)

第一章 總 則

- 第一條 本例ハ綱目第三十五條ニ依リ之ヲ制定ス
- 第二條 懲誠ハ管長ノ名ヲ以テ宣誠狀ヲ作り宗務總長旨ヲ承ケ之ヲ執行ス
- 第三條 懲誠ハ行政官廳又ハ宗務所長及宗務支所長ノ請求ニ依リ若クハ違規ノ嫌疑アルトキ之ヲ審理ス
- 第四條 宗務所長以外ノ者ニ於テ違規ノ事實アルコトヲ覺知シタル時ハ宗務所長ニ申告スルコトヲ得但其事項ニシテ若シ宗務所長又ハ其師弟ニ關シ或ハ宗務所長ニ於テ請求ヲ爲スコトヲ拒絕シタルトキハ直ニ宗務本所ニ申告スルコトヲ得
- 第五條 刑事上又ハ行政上ノ處罰ヲ受ケタル事實判明シタルトキハ第十二條ノ手續ニ依ラズ直ニ之ヲ處分ス

懲誠處分例

- 第六條 刑事上ノ處罰ヲ受ケ其執行ヲ猶豫セラレタル者ニ對シテハ原罪ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ處分スルコトヲ得但刑ノ執行猶豫ヲ取消サレタルトキハ更ニ原罪ニ依リテ處分ス
- 第七條 違規ノ所爲ニシテ其發覺後ニ至リ自首ヲ爲スコトアルモ自首ハ効力ヲ有セズ

第二章 申告及請求手續

- 第八條 宗務所長違規ノ者アリト認ムルトキハ充分ノ證據ヲ備ヘテ懲誠ヲ請求スベシ
- 第九條 申告者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ申告スベシ
- 第十條 申告書ニハ違規ノ顛末ヲ詳記シ證據ヲ添ヘ署名捺印スベシ但口頭ノ場合ニ於テハ證據ヲ提供スベシ
- 第十一條 申告者ハ其申告ヲ取下ケ又ハ變更スル事ヲ得

第三章 懲 誠 審 理

第四章 懲 誠 執 行

第十七條 懲誠處分決定シタルトキハ宗務所長及宗務支所長ヲ經テ宣誠狀ヲ本人ニ交付シ宗務支所長ヲシテ之ヲ執行セシム

第十八條 本人若シ所在不明ニシテ宣誠狀ヲ交付シ難キトキハ之ヲ法類總代ニ交付ス

第十九條 宗務支所長ハ宣誠狀交付ノ手續ヲ詳記シ之ヲ宗務本所ヘ報告スベシ

第五章 懲 誠 ノ 効 力

第二十條 懲誠例第十三條以下ノ宣誠狀ヲ受クル者剛復ニシテ命令ニ抗スルトキハ審理ノ手續ニ依ラスシテ之ヲ擯斥ニ處ス

第二十一條 宣誠狀ニ依リ懲誠ヲ受クベキ期間ハ宣誠狀受領ノ即日ヨリ法文例第五條ノ規定ニ依ル

第六章 特 免 及 復 階

第二十二條 擯斥ニ處セラレタル者改悛ノ實アリ

第十二條 懲誠ニ關スル一切ノ證憑供述等ハ監正

部長之ヲ審査シ各部長ノ意見ヲ徵シ宗務總長ヲ經テ管長ノ決裁ヲ請フ

第十三條 管長ハ宗務所長及宗務支所長ヲシテ違規ノ事實ヲ調査セシムルコトアルベシ

第十四條 左記各號ノ場合ニハ決裁前ニ參事會長ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

一、擯斥奪階又ハ剝職ニ處スベキ場合

二、本派役員ヲ懲誠ニ處スベキ場合

三、刑法ニ依リ處分ヲ受ケタルモノヲ特免スベキ場合

第十五條 宣誠狀ニハ違規ト認ムベキ事實及證憑

ヲ明示シ且懲誠例ヲ適用シ其理由ヲ付スベシ前條各號ノ場合ニハ參事會長ノ意見ヲ徵シタル

コトヲ附記スベシ

第十六條 本派役員ニシテ違規ノ行爲アルトキハ休務ヲ命シ然ル後懲誠審理ニ附ス

ト認ムルトキハ滿三年ノ後第二十七條ノ手續ニ依リ再ヒ本派ニ歸入セシムルコトヲ得但住職任免例ノ規定ニ準據スルヲ要ス

第二十三條 奪階及剝職ニ處セラレタルモノ改悛ノ實アリト認ムルトキハ奪階ハ滿二年剝職ハ滿一年ノ後特免スルコトヲ得但此場合ニ在テハ法階及前任住職權ヲ復得ス若シ現任住職アル場合ニハ特免ヲ得タル者ヲ以テ先住職ト爲シ兼務住職アル場合ニハ之ヲ退職者ト見做シ特免ヲ得タル者ヲ以テ住職ト爲ス

第二十四條 降階又ハ停權ニ處セラレタル者改悛ノ實アリト認メラル、時ハ法階ヲ復得シ又ハ復權セシムルコトヲ得

第二十五條 懲誠處分中ト雖本人ノ所爲全ク宗派ノ爲又ハ寺院ノ爲ニ出テタル實跡ヲ認メタルトキハ特免復階セシムルコトヲ得

第二十六條 懲誠處分ノ後左記各號ノ一ニ該當ス

懲誠處分例

ルモノアルトキハ管長ハ第二十二條乃至第二十

四條ノ規定ニ拘ハラズ赦免スルコトアルベシ

一、皇室又ハ國家ノ慶弔ニ際シ大赦特赦アリタル時

二、派内ノ重大慶弔ニ際シタル時

第二十七條 特免復階ハ宗務所長及宗務支所長ノ

上申又ハ被懲誠人ノ徒弟若クハ法類總代ノ哀願ニ依テ之ヲ行フ

第二十八條 特免復階ハ監正部長之ヲ審理シ各部長ノ意見ヲ徵シ宗務總長ヲ經テ管長ニ稟啓シ之カ決裁ヲ請フモノトス

第七章 再 審

第二十九條 被懲誠人ハ懲誠處分ニ對シテ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得

剝職以上ノ被懲誠者ニシテ前項ノ申立アリタル場合ハ再審確定ニ至マデ寺院ノ代表權ヲ停止ス

第三十條 左記各號ノ場合ニハ再審ノ申立ヲ爲ス

●寺班例 (法則第十二號)

第一章 總 則

- 第一條 本例ハ綱目第八十三條ニ依リ之ヲ制定ス
- 第二條 寺班ハ寺班調査會ノ評決ニ基キ管長之ヲ差定シ寺班狀ヲ附與ス之ヲ通式トス
- 第三條 寺院ノ請願ニ依リ管長特ニ寺班ヲ稟就昇進セシムルコトアルヘシ之ヲ別式トス
- 第四條 寺班ノ稟就昇進ハ通式ト別式トニ拘ハラズ共ニ規定ノ寺班義納金ヲ納付セシム
- 第五條 寺院ノ請願ニ依リ相當ノ理由アリト認ムルトキハ寺班調査會ノ評決ヲ經テ降班ヲ許スコトアルヘシ
- 第六條 寺班ノ稟就及昇進請願ハ寺院住職又ハ兼務住職及寺務管理者ノ責務トス
- 第七條 稟就昇進共ニ第二條ノ通式ニ依リ定メラレタル寺班ハ其寺院ニ於テ辭避スルコトヲ得ズ

コトヲ得ズ

一、譴責ニ處セラレタル場合

二、刑事上ノ犯罪ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタル場合

第三十一條 再審申立ノ期間ハ宣誠狀受領ノ日ヨリ十五日トス

第三十二條 再審ノ申立ハ書面ヲ以テ其再審ヲ求ムル理由及事實ヲ詳記スベシ

第三十三條 再審ハ宗務總長之ヲ審理シ各部長參事會長ノ意見ヲ徵シ管長ノ決裁ヲ請フ

第三十四條 審理ノ結果再審ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其申立ヲ却下シ其申立ヲ理由アリトスルトキハ宣誠狀ヲ取消シ更ニ宣誠ヲ爲スベシ

第三十五條 審理上必要アリト認ムルトキハ懲戒關係人ヲ召喚スルコトアルベシ

前項ニ要スル費用ハ總テ被懲戒人ノ負擔トス

第三章 寺班等級

第十一條 寺班及等級ヲ左表ノ通定ム

特例地	別格地	準別格地	一等地	二等地	三等地	四等地	五等地	六等地	七等地	八等地	
特例地	別格地	準別格地	一等地	二等地	三等地	一級	二級	三級	一級	二級	三級

第二章 寺班狀

第八條 寺班狀雛形左ノ如シ

曲尺一尺一寸

何府何郡何町	何縣何郡何村	何寺
授與本派寺班何等寺格者也		
年月日	印	
大本山妙心寺		

寸四尺一尺曲

第九條 寺班狀ハ本例ニ定メタル手續ヲ終リタル日宗務本所之ヲ附與ス

第十條 事故ニ依リ寺班狀ヲ紛失シタル時ハ其理由ヲ明記シタル願書ヲ進達シ其交付ヲ請フヘシ

寺班例

八等地 一級 二級 三級

第四章 寺班義納金

第十二條 寺班義納金ヲ左ノ如ク定ム

- 特別地 金七百圓
- 別格地 金五百圓
- 準別格地 金四百圓
- 一等地 金參百圓
- 二等地 金貳百五十圓
- 三等地 金貳百圓
- 四等地 金百五十圓
- 五等地 金百圓
- 六等地 金五十圓
- 七等地 金拾圓
- 八等地 金五圓

第十三條 寺班稟就ノ寺班義納金ハ前條所定ノ金額ヲ納附セシム

第十四條 寺班昇進ノ寺班義納金ハ新等級ノ寺班

義納金ヨリ舊等級ノ寺班義納金ヲ差引タル金額ヲ納附セシム

第十五條 寺班義納金ノ總額ヲ寺班金ト稱シ之ヲ本派ノ基本財産トス其保管方法ハ宗會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第十六條 寺班金ヨリ生スル毎年ノ利子ハ宗務本所ノ歳入トス

附 則

第十七條 明治十八年制定寺班規約寺班章程及其改正ヲ加ヘタルモノ又ハ舊寺班例等、及之ニ關スル諸般ノ規定ニシテ本例ニ牴觸セザルモノハ悉ク遵由ノ効力ヲ有ス

●寺班調査會例

(法則第五百五十九號)

第一條 本例ハ綱目第八十三條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 本會ハ宗務總長、各部長及參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 本會ハ別ニ敎令ヲ以テ定ムル所ノ寺院收入調査規則ニ準據シ寺班等級ノ昇降ヲ協議決定スルモノトス但寺班例第三條ノ場合ハ本例ヲ適用セス

第四條 本會ニ於テ決定シタル寺班等級ニ對シテ異議アル場合ハ再審ヲ申請スルコトヲ得
異議申請者ハ異議申請中ノ理由ヲ以テ之カ義務ヲ免ル、コトヲ得ス

第五條 本會ハ毎年定期參事會召集ノ期ヲ以テ開會スヘシ但臨時必要ノ場合ハ臨時會ヲ開クコト

寺班調査會例

ヲ得

第六條 本會ハ會員ノ半數以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

第七條 本會ノ開會日數ハ其都度宣示ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本會員ノ滞在費及其他ノ經費ハ參事會例ニ準據ス

第九條 本例ニ明文ナキモ寺院收入調査規則及寺班例其他法則敎令等ニ於テ本會ニ關スル規定アルモノハ之ニ準由スヘシ

第十條 本例第四條ノ再審申請ハ寺班等級決定後第一次ノ宗會ニ請願スヘシ

宗會ニ於テ再審ノ理由アリト認メタル時ハ宗會ハ之ニ意見ヲ附シ寺班調査會ニ移送シ再議ニ附セシム

●寺院收入調査規則

(教令第二十三號)

一五六

第一條 本派寺院收入物ハ此規則ニ依リテ之ヲ調査處理スルモノトス

第二條 本派寺院ノ收入額ハ左記各號ニヨリ住職ヲシテ其實際ヲ取調ヘ別記標式ニ準シ之ヲ申告セシム

一、本派寺院收入ヲ左ノ通り分類ス

第一類 寺院及住職ノ受クヘキ諸信施收入

第二類 寺有土地ヨリ生スル所得ノ收入

第三類 寺有金ヨリ生スル所得ノ收入

第四類 寺有建物ヨリ生スル所得ノ收入

第五類 以上類別以外ノ物件ヨリ生スル所得ノ見込

收入

第六類 名義及所有主ノ如何ニ拘ハラズ事實寺有ニ屬スル土地家屋ヨリ生スル所得ノ收入

二、本條收入ノ表示ハ事實ヲ主トシ收入ノ物件品物數量ヲ記シ更ニ物件ハ時價ニ換算シテ收入ヲ定ムヘ

キモノトス

三、第一類所屬ノ收入ハ三ヶ年ヲ通シテ一括シ之ヲ三分シテ一ヶ年ニ相當スル平均ノ收入額ヲ定ムヘキ

モノトス

山林ノ收入ハ第二類ニ屬シ立木ノ伐採下草ノ刈取リ及果實ノ收穫之レニ攝ス

立木ハ其伐採認可ヲ得タル年度ノ増收入トスヘシ立木ニシテ年々伐採スルモノハ年度收入トスヘシ

四、第三類乃至第六類ハ一ヶ年間ノ收入ヲ記スヘシ但年々收入ニ異動アルモノハ第一類收入ニ準スヘシ

第三條 寺院ニシテ一定期間ニ收入ヲ得ルモノ又ハ數年

ニ涉リ一回ノ收入ヲ得ルモノ若クハ他ノ權利ニ屬スル

モノヲ使用シテ之ニヨリ收益ヲ得ラルヘキモノアルト

キハ別記標式末尾欄ニ記入スヘシ

第四條 住職ハ前記收入取調申告書ヲ作成シ宗務支所長

ヘ提出シ宗務支所長ハ該調査書ヲ部内會議ニ附シ部内

會多數ノ評決ヲ經テ前記標式ニ記入調印スヘキモノト

ス

第五條 宗務所長ハ該取調書ヲ宗務支所長會ニ附シ其評

決シタルモノニ與書シ宗務本所ヘ進達スヘシ

第六條 宗務所長及宗務支所長ハ該取調書ニ不正ノ點ア

リト認ムルトキハ之ヲ修正又ハ再議セシム若シ應セザ

ルトキハ査閱ノ上其旨副申書ニ明記スヘシ

第七條 宗務本所ハ前記取調書ヲ寺班調査會ニ附シ其評

決ヲ管長ニ具申シテ該寺收入額ヲ確定ス此確定額ニ對

シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 各寺院住職ハ他寺院ノ收入調査ニ不正ノ廉アル

コトヲ發見シタル場合ハ之ヲ寺班調査會ヘ申告スヘシ

第九條 一定期間内ニ取調書ヲ進達セサル向ニ對シテハ

調査會ニ於テ其寺院ノ收入額ヲ認定スルコトアルヘシ

其際ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十條 寺院收入取調上ニ不正ノ所爲アリタルトキハ懲

誠例ニ照シ處分スヘシ

○妙心寺派寺院收入取調申告書

第 教區第 部

何 縣 府 郡 市 町 村 寺 班 何 等 地 何 級 院 寺

第一類 檀徒信徒等ノ諸信施收入

種 目	戶數、社	員 數	施入物品物 量換算金額	品 類	施入金額	收入金額	合 計	備 考
	數、寺數							
檀徒								
信 徒								
講 社								
末 寺								
賽物祈禱								
料								
其他施入								
合 計								

參考 一、檀徒欄ハ檀家數ヲ計上シテ員數ヲ記セス信徒ハ戶數ヲ計上スルニ及ハス末寺ハ員數ヲ除ク

二、備考欄ニハ施入金品ニ對スル三ヶ年平均等算出ノ方法ヲ記入スヘシ

第二類 土地所得ノ收入

地 目	官有民有 境内地	田	畑	宅 地	山 林	雜 地	合 計	反別又ハ	地 價 金	評定小作	豊凶平均	小作入付	備 考
								坪數		入付品量 地代金		年 數	

參考 一、寺院境内地上ノ副產物果實ヲ收入トス

二、評定小作入付品量地代金ハ實際契約評定シタル品目數量ヲ記入スヘシ

三、小作入付金納ナルトキハ豊凶平均ヲ記スルニ及ハス雜地ハ池沼草生等其地目ヲ記入スヘシ

第三類 寺有金收入

寺班收入調査規則

種目	目的	品質	元金	百圓ニ對スル 年利率	諸經費純益收入	備考
基本金						
祠堂金						
積立金						
其他寺有金						
合計						

參考 一、寺院基本金及祠堂金其他之ニ類スル積立金ニシテ利殖スルモノハ備考ニ記入スヘシ
二、目的欄ニハ教育費修繕費等一定シタルモノヲ品質欄ニハ公債證書株券類貸付金及預ケ金等ヲ記入スヘシ

第四類 寺有建物ヨリ生スル所得ノ收入

種目	棟數	坪數	現在家屋年評價		備考
			貸收入金額	收入金額	
賃貸家屋					
合計					

參考 一、家屋ハ保存期間ニ別アリテ時ニ變更アリト雖モ今ハ現在家屋ノ評價ヲ記入スルコトヲ要ス
二、賃貸料金ニアラスシテ物品ヲ以テ之ニ充ツル時ハ其物品ノ科目ヲ記入スヘシ
三、賃貸家屋ニシテ借地ナル時ハ其地代等ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五類 寺院實際ノ見込收入

種目	見込收入

參考 前記各類以外ニ收入スヘキ金品ハ部内寺院及各宗務支所長ノ公平ナル見込ヲ以テ評定シ本欄ニ記入スヘシ

第六類 別ニ理由アリテ他人名受ナル土地家屋ニシテ事實寺有ニ屬スルモノ、收入

種目	收入

●直末編入規則 (敎令第五號)

第一條 本規則ハ綱目第七十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 綱目第七十一條第三項ニ定メタル類別ニ依リ直末寺院ヲ一類トシ孫末寺院ヲ二類トシ曾孫末寺院ヲ三類トシ玄孫末寺院ヲ四類トス

第三條 此規則ハ二類乃至四類ノ寺院ニシテ一類タラントスル寺院ノ爲ニ之ヲ定ム

第四條 此規則ニ由リ離末ノ手續ヲ要スヘキハ二類ノ寺院ニシテ小本寺ニ對シ三類四類ノ寺院ニシテ中本寺ニ

直末編入規則

對シテ行フヘキ行爲ノ指示ヲ定ム

第五條 二類以下ノ寺院其直屬ノ中本寺小本寺ノ中其一ニ對シテ離末ノ手續ヲ要シ其ニ及ホスコトヲ要セス

第六條 中本寺小本寺ニ對シテ離末ノ手續ヲ完了シタル寺院ハ大本山妙心寺ノ直末トシテ本派一類ノ寺院タルヘシ

第七條 直末編入ヲ願フ寺院ハ該寺院住職及法類檀徒又ハ信徒熟議ヲ遂ケ該寺院所屬本寺ヘ具狀シテ承諾ヲ受クヘシ但直末編入願書ニハ必ス所屬本寺ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第八條 本規則ニ準シ直末編入ヲ請願スル寺院ハ願書進

達ノ際各寺班等級ニ從ヒ左記ノ香資ヲ大本山妙心寺へ
上納スヘシ

特例地 金 參拾圓

別格地 金 貳拾圓

準別格地 金 拾八圓

一等地 金 拾六圓

二等地 金 拾四圓

三等地 金 拾貳圓

四等地 金 拾圓

五等地 金 八圓

六等地 金 六圓

七等地 金 參圓

八等地 金 壹圓

第九條 大本山妙心寺直末編入後ト雖モ元所屬本寺ニ對
シ必ス相當ノ道義ヲ重シ從來ノ宗盟ヲ缺クヘカラス

●由緒寺院管理例 (法則第百六十號)

第一條 本例ハ綱目第七十六條ニ依リ之ヲ制定ス
第二條 本例ニ於テ由緒寺院ト稱スルハ綱目第七
十六條所定ノ六ヶ寺院トス

第三條 由緒寺院中正眼寺瑞泉寺ノ二ヶ寺ハ大本
山妙心寺ノ直屬トシテ常ニ之ヲ保護管理ス

前項二ヶ寺住職ハ管長ノ特命ニ依ル

第四條 四派本庵ハ該派所屬ノ各寺院之ヲ保護管

理シ之カ住職ハ該派所屬寺院住職ノ公選ニ依リ

當選シタル者ニ就キ管長之ヲ任命ス但其派ニ適

任者ナキ場合ハ他ノ三派中ヨリ推薦スルヲ得

第五條 四派本庵ノ保護方法ニ關シテハ該各派ニ

於テ特ニ規約ヲ設ケ管長ノ認可ヲ經ルコトヲ要

ス

第六條 本例規定ノ由緒寺院ニ對テハ本派經常費
ノ賦課金ヲ免除ス

附 則

第七條 本例ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大本山紀綱寮例 (法則第六十三號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第六十八條ニ基キ之ヲ制定ス

第二條 紀綱寮ハ大本山常住ニ置ク

第三條 大本山妙心寺住職ハ紀綱寮役員ヲ總統シ

テ左記各號ノ事ヲ監理ス

一、微笑祖塔及玉鳳院兩眞前ニ關スル事

二、現境内諸堂宇修繕ノ事

三、大本山塔頭各寺院保護ノ事

四、大本山ニ於テ執行スル法要ノ事

第二章 役員及任期

第四條 紀綱寮ニハ左ノ役員ヲ置ク

議 頭 一 人

龍泉主事

東海主事

靈雲主事

由緒寺院管理例、大本山紀綱寮例

聖澤主事 各一人ツ、

第五條 議頭ハ大本山塔頭寺院住職中ヨリ互選ス

第六條 各主事ハ塔頭寺院住職中ヨリ四本庵ノ慣

例ニ依リ定メタル者ヲ任用ス

第七條 議頭ノ任期ハ滿二ヶ年トス

第八條 四派主事ノ任期ハ各滿二ヶ年トシ常務主

事一名ヲ互選ス

第九條 常務主事ハ大本山常住ニ常在シ紀綱寮ノ

常務ニ服ス

第十條 侍眞、維那、副司及法要執行上缺クヘカ

ラサル役員ノ任命及任期ハ古格慣例ニ依ル

第十一條 宗務總長、各部長、宗務所長ハ紀綱寮

ノ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第三章 職 制

第十二條 左ニ掲クル事項ハ紀綱寮役員之ヲ司管

シ常ニ帳簿ヲ備ヘテ護持保管スヘシ

一、開山 法皇香資物、祠堂財、常住金ハ各別ニ

利殖ノ法ヲ立テ之ヲ保存スル事

二、土地建造物、并ニ佛像、經卷、古文書、寶物、書畫、什器類ハ圖面目錄ニ記載シ保存護持ノ方法ヲ明ニスル事

三、一山保存費受渡ニ關スル事

四、修繕費受渡ニ關スル事

五、湯料俵錢受渡ニ關スル事

六、六祖四派香資受渡ニ關スル事

七、常住式典ニ關スル記録編纂ノ事

第十三條 前條各號中金件出納ニ關スルモノハ結算ノ都度宗務本所財務部長ノ檢閲ヲ求メ認印ヲ受クヘシ

第十四條 常住經費受取仕拂ニ關スル事ハ常務主事之ヲ管理ス

第十五條 常住費ハ帳簿ニ登記シ毎月末日之ヲ合計シ議頭及各主事ノ認印ヲ受ケ宗務本所財務部長ノ檢閲ヲ求メ認印ヲ受クヘシ

第四章 法 要

第十六條 大本山ニ於ケル恒例及臨時法要ノ式典ハ總テ清規ニ基キ之ヲ執行ス

第十七條 菩薩戒會其他本派寺院又ハ檀信徒ノ爲ニ法要ヲ執行スル場合ニハ宗務本所役員之ニ參與ス

第十八條 大本山ニ於テ執行スル法要ノ種類ヲ分テ二トス

一、恒例法要

二、臨時法要

第十九條 恒例法要ヲ分テ三トシ左ノ各號ニ種別ス

第一、年 分

一、四節上堂 法堂ニ於テ之ヲ行フ其期日左ノ如シ

元旦上堂 毎年一月一日

結制上堂 毎年四月十五日

解制上堂 毎年七月十五日

冬夜小參 毎年十二月冬至ノ前日

二、四節祝聖 佛殿ニ於テ之ヲ行フ其期日左ノ如シ

元旦祝聖 毎年一月一日

結制祝聖 毎年四月十五日

解制祝聖 毎年七月十五日

冬至祝聖 毎年十二月冬至ノ日

三、天長節祝聖 毎年 今上天皇陛下ノ御誕辰佛殿ニ於テ之ヲ行フ

四、二祖及 法皇御諱 法堂ニ於テ之ヲ行フ

期日左ノ如シ

達磨諱 毎年十月五日

花園天皇御諱 毎年十一月十一日

開山諱 毎年十二月十二日

五、祈禱會 其期日左ノ如シ

修正般若會 毎年一月一日ヨリ三日ニ

大本山紀綱條例

至ル

善月般若會 毎年一月五月九月各十六日

右佛殿ニ於テ之ヲ行フ

善月懺摩會 毎年一月五月九月各十八日

右方丈ニ於テ之ヲ行フ

觀音懺摩會 毎年六月十八日

右山門閣上ニ於テ之ヲ行フ

六、大施食會 毎年七月十五日山門ニ於テ之ヲ行フ

ヲ行フ

七、三佛會 佛殿ニ於テ之ヲ行フ其期日左ノ如シ

ノ如シ

佛涅槃會 毎年二月十五日

佛誕生會 毎年四月八日

佛成道會 毎年十二月八日

八、菩薩戒會 毎年四月八日ヨリ同十二日ニ

至ル

方丈ニ於テ之ヲ行フ

九、四節祖塔諷經 毎年元旦、結制解制、及冬至ノ前日微笑塔、玉鳳院、養源院、衡梅院ニ就テ之ヲ行フ

十、開山大師降誕會 毎年二月七日微笑塔ニ於テ之ヲ行フ

第二、月 分

一、祝聖及諸堂諷經 毎月一日十五日佛殿ニ於テ之ヲ行フ

二、祖塔諷經 毎月一日十五日微笑祖塔ニ於テ之ヲ行フ

三、六諷經 毎月二日ヨリ七日マテ及十六日ヨリ二十一日マテ六所ノ諸堂ニ就テ之ヲ行フ

四、花園天皇御諱及開山諱諷經

花園天皇御諱諷經ハ毎月十日及十一日玉鳳院ニ就テ之ヲ行フ

開山諱諷經ハ毎月十一日及十二日微笑

祖塔ニ於テ之ヲ行フ

五、右ノ外歷代天皇ノ御月諱及佛祖檀越ノ月諱ハ其當日佛殿ニ於テ之ヲ行フ

第三、日 分

三時勤行諷經毎日佛殿ニ於テ之ヲ行フ

第二十條 臨時法要ヲ左ノ如ク種別シ臨時ニ之ヲ行フ

行フ

一、祈禱會

二、祝聖會

三、歷代天皇御諱

四、佛祖又ハ檀越ノ諱齋

第五章 執 務 方 法

第二十一條 紀綱寮役員ハ左記ノ方法ニ從ヒ事務ヲ執行スヘシ

一、佛像、經卷、寶物、記錄、什具類ハ從前ノ慣例ニ準シ役員立會ノ上其帳簿ニ照シ之ヲ點檢スヘシ

二、從前慣例ニ準シ其都度封印ヲ施シタル物件ハ役員全體立會スルニ非サレハ之ヲ開絨シ又ハ開鑰スヘカラス

三、常住物ハ何等ノ場合ト雖モ猥リニ寺門外ニ持出スヘカラス

四、常住備置物品ノ中其消耗ニ屬スルモノハ常ニ目方分量寸尺個數ヲ明細ニ記載シ使用シタルトキハ其遺拂ヲ審ニシ主任者交代ノ節申繼ヲナスヘシ

五、建造物又ハ什具類ノ修繕ハ其費額宗務本所ノ豫算ニ超過スルトキハ役員ノ評決ヲ經テ宗務本所ノ同意ヲ求ムルニ非サレハ着手スルコトヲ得ス

六、什具類ノ點檢ヲ爲スニ際シ増減アレハ其事由ヲ列記シ其中缺クヘカラサル種類ノ減損スルモノアルトキハ之レカ補充ヲ爲スヘシ

七、香資物、祠堂財、常住金等ノ保存ノ方法ハ

宗務本所へ稟議シ同意ヲ求メ之カ取計ヲ爲スヘシ

八、前號現管ノ金件ハ毎月末役員立會シ之ヲ檢査スヘシ

九、一山保存費ハ塔頭各寺院毎年六月十二月各一日ノ現況ヲ以テ每半年季末ニ之ヲ配賦スヘシ

十、湯料俵錢ハ塔頭各寺院在籍ノ僧侶毎年六月十二月各一日ノ現況ヲ以テ之ヲ配賦スヘシ

第二十二條 大本山主要ノ文書ニハ役員全體若クハ其總代署名捺印スヘシ

補 則

第二十三條 本例ニ規定ナキ事項ニシテ古格慣例アルモノハ其ノ古格慣例ニ從フ

●花園教會例 (法則第十一號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第三十五條ニ依リ之ヲ制定ス
第二條 本教會ハ 花園法皇ノ報恩謝德ノ思佛法
興隆ノ志寤寐ニモ忘ル、コトナシトノ御遺勅ニ
奉答スルヲ以テ目的トス

第三條 本教會ハ本派各寺院ノ檀信徒其他本教會
ノ趣旨ヲ遵奉スルモノヲ會員トス

第四條 會員ハ 花園法皇ノ聖旨ヲ體シ佛祖冥護
ノ下ニ安心立命ノ素懷ヲ遂グルヲ本誓トスヘシ
第五條 本教會ハ甲乙ノ二種トシ甲種教會ハ本派
寺院ニ屬スル檀信徒ヨリ成リ乙種教會ハ殖民地
及本派寺院ナキ地ニ於テ信徒三十人以上ノ結社
ヨリ成ルモノトス

第六條 乙種教會ノ主任ニシテ前堂職以上ノ法階
ヲ有スル者ハ管長ノ認可ヲ得テ該信徒ノ葬祭ヲ

執行スルコトヲ得但該信徒ニシテ本派寺院檀徒
タル場合ハ該寺院住職ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

第二章 教會 本部

第七條 教會本部ハ京都花園大本山妙心寺ニ之ヲ
置ク

第八條 本部ハ教會信條ノ中心ニシテ一般教會ノ
模範タルモノトス

第九條 教會本部ニハ本尊釋迦如來開山無相大師
花園法皇ヲ奉安シ且ツ一般會員ノ靈ヲ祀ル

第三章 教會 支部

第十條 寺院住職及布教師ハ本例第二條ノ趣旨ヲ
體シ努メテ教會ヲ組織スヘシ

第十一條 教會組織上止ムヲ得サル事由アルモノ
ハ最寄寺院協同シテ一教會ヲ組織スヘシ
前項ノ場合ハ協同寺院住職ノ互選ニ依リ専務布
教師ヲ定ムヘシ

第十二條 本教會ハ寺院内ニ之ヲ置ク

一、教會名ノ上ニ寺號若クハ地名ヲ冠スルハ該
教會ノ適宜トス

二、僧侶ニシテ教會主トナリ布教ニ從事スル場
合ハ便宜ノ地ニ置クコトヲ得

第十三條 前條第二號ノ場合ハ其願書ニ維持費ノ
概算支辨ノ方法及永續基本財産ノ有無ヲ詳記シ
タル書面並ニ信徒ノ名簿ヲ副へ管長ノ副申書ヲ
得テ行政廳へ出願スルモノトス

第十四條 寺院外ニ於ケル教會ヲ分合シ若クハ廢
止セントスル時ハ其願書ニ事由及財産處分ノ方
法ヲ明記シ尙分合ニ關スルモノハ所屬スヘキ教
會ヲ定メ維持費ノ概算支辨ノ方法及永續基本財
産ノ有無ヲ明記シタル書面ヲ副へテ前條ノ手續
ヲ爲スヘシ

第十五條 教會所ヲ建築又ハ移轉セントスルトキ
ハ其願書ニ建築ニ要スル一切費用ノ豫算書、寄
附方法書及建築圖面ヲ添へ宗務本所へ差出スヘ

シ但建築スヘキ教會ノ敷地ニシテ新ニ購買セル
モノハ其登記ノ謄本、借地ニ係ルモノハ貸借契
約書ノ謄本ヲ添付スヘシ

第十六條 教會ノ設備ハ寺院内ニ設クルモノト否
トヲ問ハス總テ本例第九條ニ準據スヘシ

第四章 職制及役員ノ任免

第十七條 教會本部ニ左ノ役員ヲ置ク
總 裁 一 名 管長之ニ當ル

本部長 一 名 宗務本所教學部長之ニ當ル
教會主任 一 名 本部長ノ推薦ニ依リ總裁之
ヲ任命ス

部 員 若干名 本部長之ヲ任命ス
第十八條 教會本部長ハ教會支部長ニ對シ總裁ノ
名ヲ以テ訓示ヲ發スルコトヲ得

第十九條 教會本部長ハ主任及部員ヲ督勵シ教會
支部ヲ指導シ又ハ教會員ノ接待教化等ニ遺憾ナ
カラシムヘシ教會員ノ登山參拜者アルトキハ必

ズ本部長面接シテ信仰ノ要諦ヲ説示スヘシ

第二十條 教會主任ハ本部長ヲ輔佐シ教會本部ノ事務ヲ處理ス

第二十一條 教會支部ニ左ノ役員ヲ置キ本部ノ訓示ニ依リ會務ヲ分掌セシム

教會支部長 一名 該教會ヲ設置シタル請願主之ニ當ル請願主ニシテ死亡又ハ辭任シタルト

キハ其後任者ハ教會本部長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ任命ス但第十一條ノ場合ハ協同寺院住職

互選ヲ以テ之ヲ定ム

幹 事 若干名 教會支部員ノ中ニ就キ該教會支部長之ヲ任命ス

第二十二條 各教會支部長ハ幹事ヲ指揮督勵シ本例第四條ノ旨趣ヲ徹底セシムヘシ

第二十三條 幹事ハ教會支部長ノ命ニ依リ教會事務ヲ處理ス

第二十四條 教會支部ニハ會員總代三名ヲ選舉シ

教會本部へ届出ツヘシ

會員總代ノ任期ハ滿三ケ年トス

第二十五條 教會ヲ設置シタル寺院住職若クハ僧侶ハ禮佛開法ノ日時ヲ定メ毎月一回以上會員ヲ集會セシメ安心立命ノ要路ヲ説クヘシ

第二十六條 會員ハ本會制定ノ日課經ヲ備へ置キ日課ヲ怠ルヘカラス

第二十七條 會員ハ該教會支部費トシテ毎月若干ノ會費ヲ納ムルモノトス

第二十八條 會員ハ報恩謝德ノ誠意ヲ表スル爲ニ毎年會員一名ニ付金若干ノ香資ヲ開山無相大師ノ真前へ獻供スヘシ

第二十九條 教會費ノ剩餘金ハ其教會ノ基本金トシテ蓄積スルモノトス

第三十條 會員申合ヲ以テ一定ノ時期ニ於テ大本山妙心寺へ參拜スルノ方法ヲ講スヘシ

●花園教會本部規則 (教令第三號)

第一章 總 則

第一條 本規則ハ花園教會例第三十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 教會本部ハ大本山妙心寺祠堂寮及花園教會詰所ヲ管理統督ス

第三條 教會本部長ハ教會主任ヲシテ祠堂寮ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌セシム

第四條 教會本部長ハ花園教會詰所員ヲ任命シ同所ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌セシム但教會本部長ノ見込ニ依リ祠堂寮員ヲシテ兼任セシムルコトヲ得

第二章 祠 寮

第五條 祠堂ハ奉佛尊祖ノ信念ヲ重厚ナラシムヘキ標準ナレハ之カ寮員タルモノハ最モ敬虔ノ念ニ住シ左記各號ノ事務ヲ嚴守スヘシ

- 一、祠堂三時ノ勤行課持懈怠アルヘカラス
- 二、祠堂ノ香華燈燭茶菓靈供等一切ノ莊嚴ハ鄭重ニ注意ヲ要ス

第三十一條 會員若クハ會員總代ハ大本山妙心寺恒例大法會ニ參拜シ管長ヨリ授ケラル、菩薩戒ヲ受クヘシ

第六章 會 計

第三十二條 教會本部ノ經費ハ宗務本所ヨリ支辨ス

第三十三條 教會支部ノ經費ハ第二十七條ノ會費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

附 則

第三十四條 教會支部ニシテ優秀ノ成績ヲ擧ケタルモノハ教會本部ヨリ表彰旗及賞典ヲ授與ス

第三十五條 教會本部ノ細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 教會支部ノ細則ハ該教會ニ於テ適宜ニ之ヲ定メ教會本部ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 教會ノ事業トシテ公益、感化、慈善等ノ事業ヲ經營スルコトアルヘシ

三、毎月初月中ニハ入堂鐘後管長以下宗務本所役員
紀綱寮役員出頭諷經ヲ修行スヘシ

此場合ハ祠堂寮ヨリ各役員へ展待料ヲ贈進ス

四、施主アリテ臨時法要修行ヲ請望スルトキハ教會主
任ハ適宜之カ措置ヲ爲スヘシ

第六條 祠堂寮ニハ寮員及備員若干名ヲ置ク

第七條 寮員備員ノ任免及職責左ノ如シ

一、寮員備員ノ任免ハ教會主任ノ具申ニ依リ教會本部
長之ヲ行フ

二、教會主任ハ教會本部長ノ旨ヲ受ケテ寮務ヲ總理シ
寮員以下ヲ指揮シ必要ノ事務ヲ分掌セシム

三、寮員ハ教會主任ノ指揮ヲ受ケ寮務ヲ處理スヘシ

四、備員ハ教會主任及寮員ノ指揮ヲ受ケ寮務ニ從フ特
ニ大方丈内外ノ等洒掃ヲ怠ルヘカラス

五、教會主任ハ時期ニ應シ寮員以下ノ人員ヲ増減シ及
寮務ノ繁簡ニヨリ報酬ノ多寡ヲ定メ教會本部長へ
具申シ之ヲ定ム

六、寮務ニシテ此規定以外ニ涉ル事件發生シタルトキ

ハ之ヲ教會本部長へ申告シ施行手續ヲ定ムヘシ
七、教會主任ハ金員物品ノ出納ニ關スル管理ノ責ニ任
ス

第八條 祠堂寮ハ左記各號ニ準シ常勤員ノ外當直員一名
ヲ置クヘシ當直員ハ一晝夜交代トス

一、當直員ハ常勤員ノ中ヨリ順次交代之ヲ勤ムヘシ
二、祠堂定時ノ勤行ハ當直員之ヲ勤ムヘシ

第三章 寶物展觀

第九條 展觀場ハ期間ヲ定メ之ヲ開場シ參拜人ノ爲メニ

諸堂參拜及寶物參觀ヲ許ス

第十條 寶物展觀場ニ陳列スヘキ物品ハ左記各號ニ準據

シ祠堂寮主トシテ責ニ任シ之カ管理ヲナスヘシ

一、陳列ニ供セントスル寶物及什器類ハ其種目ヲ定メ
紀綱寮主事ニ請求シテ之ヲ受領シ物品及點數ヲ一
定ノ帳簿ニ登錄保管スヘシ返却ヲ爲シタル場合ハ
該帳簿ニ其月日事由ヲ記入シ主事ノ受領證ヲ受ク
ヘシ

二、陳列ニ供スヘキ物品ニシテ毀損シ易キ憂アルモノ

第五章 花園教會詰所

第十二條 教會詰所ハ本派僧侶及花園教會員其他檀信徒

ノ接待ヲ爲シ宿泊休憩ノ便宜ニ供スヘキ所トス

第十三條 教會詰所員ハ諸般接待ニ屬スル監督ニ任スル

ハ勿論風紀ヲ取締ルヘキ責任アルモノトス

第十四條 教會詰所ニハ教會本部長ノ鑑識ニヨリ賄方ヲ

置ク

第十五條 教會詰所ノ賄ハ賄方ノ直營トス

賄方ハ四ケ年ヲ一期トシ之ヲ經營セシム滿期後ハ更ニ
任命ヲ受クルニアラサレハ繼續スルヲ得ス

賄方不親切ノ行爲アリタルトキハ期間ニ拘ラス何時ニ
テモ解任スルコトアルヘシ

第十六條 賄方ハ教會詰所ノ内外洒掃及備付ノ器具ヲ保

管シ其責ニ任ス

第六章 教會詰所及祠堂寮出納管理

第十七條 金員物品ノ出納ニ關シテハ左記各號ニ依ルヘ

シ
一、出納ノ管理者ハ教會本部役員中ニ就キ本部長之ヲ

ハ日數又ハ時間ヲ限定スヘシ

三、展觀場開閉ノ時間ハ之ヲ要所ニ揭示スヘシ

四、祠堂寮員ハ毎日展觀場閉鎖ノ都度陳列シタル器物
及點數ヲ帳簿ニ照合シ之ヲ調査スヘシ

第四章 花園教會員待遇法

第十一條 教會員ニシテ大本山へ參拜シタル場合ハ係員

ニ於テ左記各號ニ依リ待遇上遺憾ナキヲ期スヘシ

一、兩御眞前ヲ始メ諸堂宇佛祖ノ靈壇、祠堂牌壇及展
觀場ノ順次ヲ以テ拜觀セシムヘシ

二、前號拜觀了ラハ別室ニ於テ花園教會例第二條ノ
趣旨ヲ布演スヘシ

三、本末寺檀ノ關係ヲ親密ナラシメンカタメ格別ノ差
支ナキ限リハ成ルヘク教會詰所へ案内シ相當ノ便
宜ヲ與フヘシ

四、教會員又ハ檀信徒ノ特志獻納者ニ對スル待遇ハ教
會主任及係員ニ於テ平素準備シ互ニ心掛置クヘシ

五、參拜シタル教會員ノ住所姓名所屬教會及檀那寺等
ヲ一定ノ帳簿ニ記錄スヘシ

花園教會本部規則

任免ス

- 二、金員物品ヲ受領シタル場合ハ收入簿ニ記入シ受領證ト割印シ取扱者ノ認印ヲ捺スヘシ
- 三、收入簿ハ毎日教會本部員立會ノ上現金ト照合シ教會主任之ニ捺印シ金員物品ハ翌日宗務本所財務部ヘ預入シ毎月末ニ計算ヲ爲スヘシ
- 四、入牌料祠堂料ヲ受領シタルトキハ第二號第三號ノ手續ヲ爲スノ外法名及施主ノ住所姓名所屬檀那寺等ヲ一定ノ帳簿ニ記入シ法名ハ靈位簿ニ登録スヘシ
- 五、教會本部ニ於テ金員ノ支出ヲ要スルトキハ教會主任ノ請求書ニ教會本部長捺印シ宗務本所財務部ヘ差出シ假渡ヲ爲スヘシ
- 六、教會本部ニ要スル日用消耗品ハ豫メ物品員數量目等ヲ定メ前號ノ手續ニ依ルヘシ

第七章 什器保管及新添品

第十八條 教會本部備付ノ什器保管又ハ新添什器ハ左記各號ニ準據スヘシ

- 一、教會本部事務所、祠堂寮、教會詰所備付ノ什器類ハ其器名、物質、品種、員數、量目等詳細ニ登録シ教會本部ニ於テ保管ノ方法ヲ設クヘシ
- 二、前號ノ什器ニシテ増減異動アリタルトキハ其都度各係員ヨリ之ヲ教會本部ニ申告シ帳簿ニ其事由年月日ヲ記載捺印スヘシ但破損又ハ喪失シタル場合ハ事情ニ依リ辨償セシムルコトアルヘシ
- 三、教會本部、祠堂寮、教會詰所ノ備品新添ヲ要スル場合ハ各係員之ヲ協定シ教會本部長ノ同意ヲ得テ宗務本所ニ申請スヘシ
- 四、各係員交代ノ際ハ其保管ノ備品ヲ一々點檢ノ上登録帳簿ト對照シ其責任ヲ明ニスヘシ

●住職任免例 (法則第十八號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第九十九條ニ依リ之ヲ制定ス

第二章 住 職

第二條 住職ハ寺院ノ主トシテ寺院ヲ代表シ世、出世ニ對スル要務ヲ行フヘシ

第三條 文書ニ於テ寺院名ヲ用フルモ住職ノ署名捺印ナキモノハ無効トス

第四條 寺院住職ニシテ師位分限ノ者ニアラサレハ導師トシテ主位ニ立チ又ハ得度師タルコトヲ得ス但花園教會例第六條ノ場合ハ此限ニアラス

第五條 一度法脈ヲ承嗣シタルモノニシテ他ノ寺院ニ住職シタル場合ハ其代數ニ加ハルコトヲ得ルモ法系ヲ存スルコトヲ得ス但新建立又ハ再興復舊ノ寺院ニ於テハ此限ニアラス

第六條 絶法シタル寺院ニ住職セントスル場合ハ

住職任免例

其寺最親ノ法系ヲ承嗣スヘシ

第七條 一度法脈ヲ承嗣シタルモノハ如何ナル場合ト雖モ還法スルコトヲ得ス

第八條 住職ハ副住職一名ヲ選定シ管長ノ任命ヲ經テ之ニ一部ノ寺務ヲ代理セシムルコトヲ得但其必要消滅シタル時ハ住職ノ請願ニ依リ解職スルコトヲ得

第九條 住職自ラ辭職セントスル場合ニ於テハ必ズ法類總代及檀徒總代若クハ信徒總代ノ贊同ヲ經テ後任住職ヲ選定スヘシ

第十條 住職生前ニ於テ後任住職ヲ選定シ置カント欲スルトキハ前條關係者ノ贊同ヲ經テ後任住職ノ認定登録ヲ宗務本所ヘ請願スヘシ

前項ノ被選定者ハ知客職以上ノ法階ヲ有シ年齢十六歳以上ニシテ修業中ノモノニ限ル

第十一條 前條ノ認定登録ヲ受ケタルモノニシテ現住職死亡ニ際シ未タ該寺院ニ住職タルヘキ資

格ヲ得サルトキハ其資格ヲ得ルニ至ル迄寺務管

理者又ハ兼務住職ノ任命ヲ請願スヘシ

第十二條 住職生前ニ於テ後任住職ノ選定ヲ爲サ

ルトキハ遺證ヲ以テ後任住職ヲ指定スルコト

ヲ得但被指定者ハ該寺院ニ住職タルヘキ資格ヲ

有スル者ニシテ法類總代及檀徒總代若クハ信徒

總代ニ於テ異議ナキモノタルコトヲ要ス

被指定者ニシテ未タ該寺院ニ住職タルヘキ資格

ヲ有セサルトキハ法類總代ニ於テ檀徒總代若ク

ハ信徒總代ノ贊同ヲ經テ第十條ノ手續ヲ爲スヘ

シ

前項ノ場合ニ於テハ第十一條ノ規定ヲ準用スヘ

シ

第十三條 認定登錄ヲ請願セントスルトキハ其寺

格ニ依リ左表ノ義財ヲ上納スヘシ

登錄義財

特例地 金五拾圓

別格地 金參拾圓

準別格地 金貳拾五圓

一等地 金貳拾圓

二等地 金拾七圓

三等地 金拾五圓

四等地 金拾貳圓

五等地 金八圓

六等地 金五圓

七等地 金參圓

八等地 金貳圓

第十四條 第十條及第十二條ノ手續ヲ經スシテ住

職死亡シ又ハ住職自ラ後任住職請願ヲ爲シ能ハ

サル場合法類總代ハ檀信徒總代ノ贊同ヲ得テ後

任住職若クハ兼務住職寺務管理者ヲ選定スヘシ

但寺院關係者間ニ於テ意見ヲ異ニシタル場合ハ

管長ノ決裁ヲ仰クヘシ

第十五條 住職缺員ノ場合ニ於テハ住職ハ六ヶ月

以內ニ兼務住職又ハ寺務管理者ハ二ヶ月以內ニ

決定スヘシ本期間内ハ本寺及法類總代ニ於テ當

然該寺ノ事務ヲ取扱フモノトス

第十六條 前條ノ期間ニ住職又ハ兼務住職及寺務

管理者決定セサル場合ハ關係者ノ上申ヲ俟タス

管長之ヲ特命ス

第十七條 管長ハ該寺院ノ整理上必要ト認メタル

トキハ該住職又ハ兼務住職寺務管理者ヲ諭示辭

職セシムルコトアルヘシ

第十八條 住職ハ其寺院ニ居住シ左ノ事項ヲ擔任

ス

一、布教並ニ法要ヲ執行シ檀信徒ノ教導ニ任ス

ル事

二、財産ヲ管理シ寺門ノ經營發展ニ任スル事

三、寺院明細書、過去帳、什物帳、檀信徒名簿、

土地臺帳、境内建物明細帳、寄附帳其他ノ

帳簿、證書、記録ノ類ヲ管理スル事

住職任免例

四、前各號ノ外綱目法令ノ規定ヲ遵守シ其寺院

ニ關スル一切ノ事項ヲ處理スル事

第十九條 五等地以上ノ住職ハ毎月一回以上必ス

布教法要ヲ營辨スル事、若シ之ヲ實行セサル場

合ハ管長ハ相當ノ制裁ヲ加フルコトアルヘシ

第三章 副住職

第二十條 副住職ハ住職ヲ輔佐シ寺院ノ事務ニ從

事スヘシ

第二十一條 副住職ハ住職ノ退罷又ハ死亡ニ依リ

當然解職スルモノトス

第四章 兼務住職

第二十二條 兼務住職ノ責務ハ住職ト異ナルコト

ナシ

第二十三條 兼務住職ノ任期ハ特別ノ規定アルモ

ノ、外滿二ヶ年トス但任期滿了ニ際シ後任住職

ヲ選定請願セサルトキハ管長ハ住職、兼務住職

又ハ寺務管理者ヲ特命ス

第二十四條 兼務住職ハ二ヶ寺以上ノ寺院住職ヲ兼務スルコトヲ得ス且兼務地ノ距離ニシテ三里以外ニ出ツルモノ又ハ教區外ノ寺院ニ對シテハ之ヲ兼務スルコトヲ得ス但曾孫玄孫末寺ニシテ正當ノ事由アルカ三里以内ニ適當ノ兼務者無キ場合ハ此限ニ非ス

第二十五條 兼務住職任命ノ際ハ本人並ニ檀信徒總代ニ對シ寺院兼務細則二通ヲ下附シ各自ノ任務ハ之ニ準據執行セシム但寺院兼務細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 寺務管理者

第二十六條 寺院住職ヲ缺キ後任未定ノ間ニ於テ必要アリト認メタルトキ寺務管理者ヲ置ク事ヲ得但住職兼務任命ト同時ニ寺務管理者ハ其職ヲ失フモノトス

第二十七條 寺務管理者ノ職務ハ寺有財産ノ處分ヲ除ク外住職ニ同シ

第二十八條 寺務管理者タルヘキ者ノ資格左ノ如シ

- 一、當該寺院ノ副住職タリシ者
- 二、當該寺院ノ先住職タリシ者
- 三、非住職者ニシテ前堂職以上ノ法階ヲ有スル者
- 四、寺班七等地以下ノ寺務管理者ハ藏主職以上ノ法階ヲ有スル者

第六章 住職資格

第二十九條 寺院住職タルヘキ資格ハ年齡滿二十

- 一歲以上ニシテ左記各號ノ標準ニ依ル
- 一、藏主及首座職ハ寺班八等地ヨリ七等地迄
- 二、前堂職ハ寺班八等地ヨリ三等地迄
- 三、塔主職乃至準住職ハ寺班八等地ヨリ一等地迄
- 四、住持職乃至歷住職ハ寺班八等地ヨリ特例地迄

第三十條 法階前堂職以上ノ者ハ六等地以上寺院ノ副住職兼務住職タル事ヲ得

第三十一條 前條ノ資格アリト雖モ教師檢定例第三條ニ該當スル者ハ任命スルコトヲ得ス

第七章 任 免

第三十二條 寺院ノ住職、副住職、及兼務住職、寺務管理者ハ該寺院住職兼務住職、若クハ法類總代ノ請願ニ依リ管長之ヲ任命ス之ヲ通式トス
第三十三條 請願ノ手續ニ依ラス管長特ニ之ヲ任命ス之ヲ別式トス但前條ノ通式ト別式トヲ問ハス管長ノ任命書ヲ以テ就職スルモノトス
第三十四條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ管長ハ特命ヲ以テ住職ヲ定ム

- 一、無住ニシテ寺院荒廢ノ虞アル場合
- 二、事變ニ依リテ相當住職ノ選定ヲ爲シ難キ場合
- 三、本例第十四條但書及第十七條ノ場合

住職任免例

- 四、宗務所長、宗務支所長又ハ一般寺院ヨリ特ニ具申シテ無住寺院ノ爲メ後任住職差遣ヲ請願セル場合
- 五、特別ノ規定アル場合
- 第三十五條 管長ノ特命シタル住職ハ其寺院法類檀信徒等ニ於テ之ヲ拒否スル事ヲ得ス
- 第三十六條 任命書ヲ得タルモノハ直ニ請書ヲ進達スヘシ

第八章 法 盟 義 財

第三十七條 本例ニ依リ任命セラルヘキ住職及兼務住職寺務管理者ハ其請願書ト共ニ左表ノ法盟義財ヲ上納セシム管長特命ノ場合亦同シ但兼務住職及寺務管理者ハ本額ノ十分ノ一トス

寺 班	義 財
特 例 地	金 貳 百 圓
別 格 地	金 百 參 拾 圓

準別格地	金八拾圓
一等地	金六拾圓
二等地	金五拾圓
三等地	金四拾圓
四等地	金參拾圓
五等地	金貳拾圓
六等地	金五圓
七等地	金參圓
八等地	金貳圓

第九章 附 則

第三十八條 堂守、庵主任命ノ請願ヲナス場合凡テ本例ニ準ス但法盟義財ハ之ヲ免ス

第三十九條 住職ハ其任免ノ都度任免書寫ヲ添へ所屬市町村役場へ届出へキモノトス

第四十條 住職請願ノ寺院ニシテ孫末、曾孫末ナルトキハ法類總代ノ外所屬中小本寺住職ノ連署ヲ要ス

第四十一條 住職ハ其寺院ニ止住セル先住職並ニ先住職ノ徒弟ヲ保護スルノ義務アルモノトス

第四十二條 本例ハ大正九年四月一日ヨリ施行シ之ト同時ニ法則第十九號法盟義財上納例ハ之ヲ廢止ス

兼務住職及寺務管理者規則

(教令第十六號)

第一條 兼務住職ヲ選定セントスルトキハ先ツ被選定人法類總代及該寺檀信徒總代立會ノ上該寺寺院明細帳及收支帳簿ニ就キ其寺有財産ヲ點檢シテ各署名捺印ノ上被選定人ニ引渡シ其帳簿ヲ保管セシムヘシ被選定人任命ノ後ニ至リ受渡ノ手續ヲ完了スヘシ

第二條 兼務寺院ヨリ兼務住職ニ對スル手當ハ該寺收入ノ貧富ニ應シ實費ヲ仕拂フノ外相當ノ宣勞ヲ爲スヘシ

第三條 兼務寺院ノ寺有田畑山林小作米等ニ不正當ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ兼務住職ハ其町村吏員及

教師檢定例 (法則第四十一號)

第一章 總 則

第一條 本例ハ綱目第九十五條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 教師ノ檢定ハ宗旨専門ノ修行及普通學識ノ外道行高潔ニシテ教師タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ勘査ス

第三條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ檢定ヲ受クルノ資格ナキモノトス

一、僧侶ノ本分ヲ缺キ衆人ヲ教化スルニ堪ヘサルモノ

二、懲誠例ニ依リ處分ヲ受ケ誠期中ノモノ

三、刑法ニ依リ處分ヲ受ケタルモノ但復權者若クハ刑期滿限後懲誠處分例ニ依リ特免セラレタル者ハ此限ニアラス

四、宗費滯納者

第四條 教師及教師補ノ等級ハ綱目第九十一條僧

隣地々主ニ就キ檢按ヲ請ヒ之カ訂正釐革ヲ爲スヘシ

第四條 兼務住職ハ毎年一定ノ期間ヲ定メ兼務寺院ノ歲入歳出決算明細簿二通ヲ調製シ一通ハ宗務所長へ差出入一通ハ宗務所長ノ證明ヲ受ケ自ラ之ヲ保存スヘシ

第五條 兼務寺院ノ出納帳簿等宗務本所又ハ宗務所長之ヲ檢閲セントスルトキハ兼務住職及該寺檀信徒總代等ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 兼務寺院ノ出納帳簿ニ於テ不都合ノ廉アリト認ムルトキハ宗務本所ハ兼務住職ヲ解除シ或ハ檀信徒總代ヲ改選セシムルコトアルヘシ

第七條 本規則各條ハ寺務管理者ニモ之ヲ準用ス